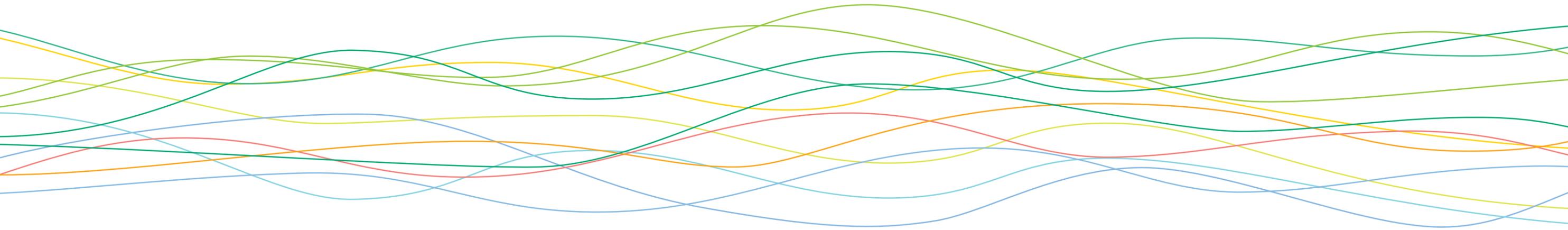




キャンパスマスタープラン
CAMPUS MASTER PLAN



はじめに Introduction

大学キャンパスは、大学の「顔」であり、教育研究活動を支える基盤であるとともに、学生にとって学習の場、卒業生にとって母校の思い出の場となります。また、これから学ぼうとする人達や地域に暮らす人々にとっても魅力的であることが大切です。

成長と変化を続ける神戸大学において、教育・研究の内容にふさわしい施設を整備し、同時に、ゆとりと潤いのあるキャンパスを形成する必要があります。そのために長期的な視点に立った秩序ある施設整備を進めることが大切です。段階的な整備を進めるための方向を示し、キャンパスの有効な整備活用を図るためには、キャンパスの全体的・基本的な計画であるキャンパスマスタープランを策定する必要があります。

神戸大学が国際社会や地域社会の中でこれまで以上に魅力的に輝くキャンパスを創っていくための道しるべとして「神戸大学キャンパスマスタープラン」を策定します。

キャンパスマスタープランの策定について

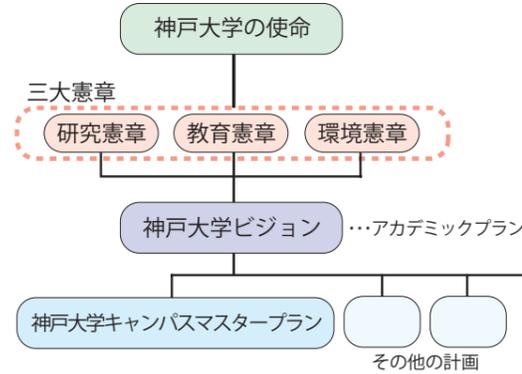
1

1. キャンパスマスタープランの策定について

(1) キャンパスマスタープランの位置づけ

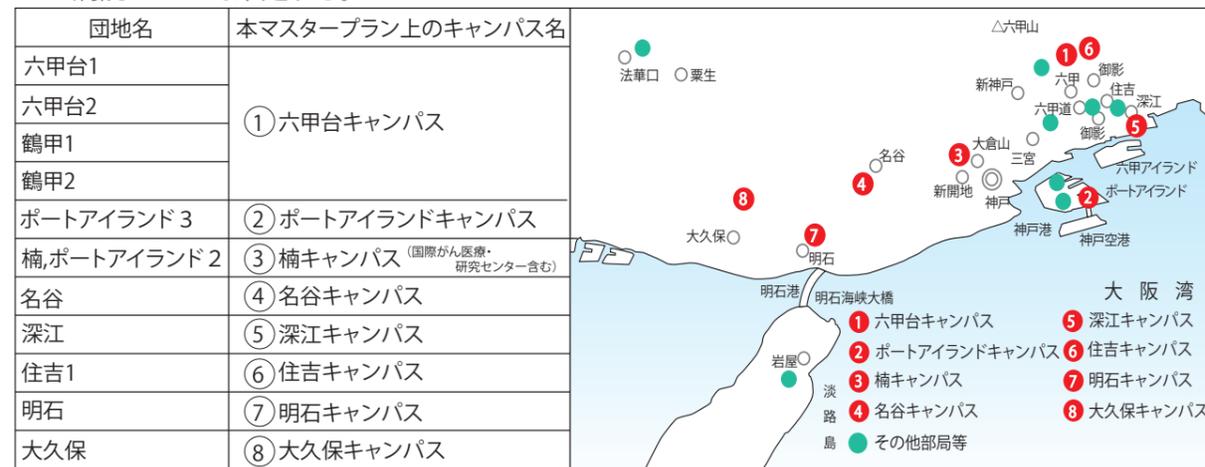
a. キャンパスマスタープランの位置づけ

神戸大学キャンパスマスタープランは、アカデミックプランとなる神戸大学ビジョンの実現に向けた計画の1つとして、キャンパスの将来像を描き、学内外に共有することを目的に今後のキャンパス整備の方向性を示すものとして位置づける。



b. キャンパスマスタープランの対象キャンパス

本マスタープランは、学生・生徒・教員等が常時、教育・研究に取り組む場となる団地及び附属病院について策定する。



(2) キャンパスマスタープランの必要性

国立大学法人においては、アカデミックプランや経営戦略を踏まえつつ、教育研究環境の質的充実、老朽化する施設の安全性確保、環境負荷の低減、地域連携の強化、国際化の推進など施設整備に関して、取り組むべき課題が山積している状況にある。

また、大学の施設に対するニーズは、大学の教育研究方針、社会情勢、財政事情、国の方針等の変更により変化していくものである。大学の施設整備は、それらの変化に柔軟に対応し、継続的・計画的に実施されなければならない。

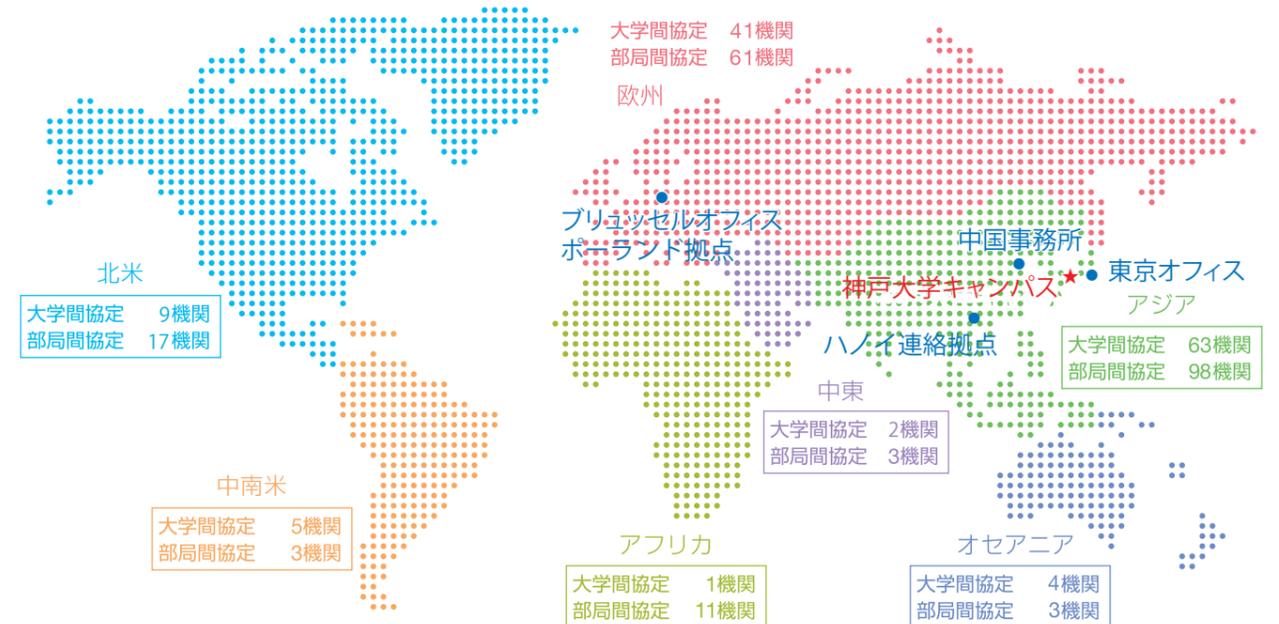
魅力的なキャンパス環境の形成を図るためには、キャンパス上の継承すべき資源の評価を含め、将来のアカデミックプランを見据えたキャンパス整備を推進するための道標となるキャンパスマスタープランを策定し、その未来像を学内外で共有することが重要である。

全国・世界とのつながり

神戸大学キャンパスマスタープランの対象は主要8キャンパスだが、神戸大学はその他部局等以外にも国内では東京に神戸大学東京オフィスを設置している。また国外にも、アジア地域には神戸大学中国事務所（北京）、ハノイ神戸大学連絡拠点（ベトナム）、欧州地域には神戸大学ブリュッセルオフィス（ベルギー）、神戸大学ポーランド拠点（クラクフ）を設けており、世界との繋がりを強化し、情報収集や情報発信を行い神戸大学の国際化を推進している。

国際教育においても世界中の300を超える機関と学術交流協定を締結し、海外の学術機関と、共同研究、教員の交流、学生の交流、情報交換等を推進し、協定校を中心に、交換留学や短期語学研修など多彩な海外留学プログラムを設けている。国際港湾都市神戸にある学府として、世界へ開かれた国際性に優れた大学を目指している。

大学間学術交流協定締結 (H27.5 現在)



(3) キャンパスマスタープランの実現に向けて

キャンパスマスタープランは、10年以上先を見越した長期計画を策定したものである。今回の改訂により、長期的なキャンパス像の実現に向けて、大学の目標や計画を踏まえた中期的な視点の計画を策定し、大学の取り巻く状況の変化に対応する。

1. キャンパスマスタープランの策定について

(4) アカデミックプランについて

○ 神戸大学の使命

神戸大学は、開放的で国際性に富む固有の文化の下、「真摯・自由・協同」の精神を発揮し、人類社会に貢献するため、普遍的価値を有する「知」を創造するとともに、人間性豊かな指導的人材を育成します。

○ 神戸大学ビジョン

神戸大学 — 先端研究・文理融合研究で輝く卓越研究大学へ—

神戸大学は、「学理と実際の調和」を理念とし、進取と自由の精神がみなぎる学府である。この伝統を発展させ、様々な連携・融合の力を最大限に発揮する卓越研究大学として世界最高水準の教育研究拠点を構築し、現代及び未来社会の課題を解決するための新たな価値の創造に挑戦し続ける。

具体的には、社会科学分野・理系分野双方に強みを有する伝統と特色を生かし、文系・理系という枠にとらわれない先端研究を推進し、他大学・研究機関とも連携して、新たな学術領域を開拓・展開する。同時に、学部と大学院のつながりを強化し、先端研究の臨場感のなかで学生が創造性と学識を深めることを重視する。また、海外中核大学と共同研究や連携教育の重層的な交流を図り、世界各地から優秀な人材が集まり、世界へ飛び出していくハブ・キャンパスとしての機能を飛躍的に高める。これらの教育研究を社会と協働して推進し、先端的技術の開発と社会実装の促進を通じて人類に貢献するとともに、地球的諸課題を解決するために先導的役割を担う人材を輩出する。

以上の教育研究における様々な連携・融合を高い次元で同時に実現するために、個と組織の調和を図る環境整備と組織改革を行い、神戸大学全構成員の力を結集して学術の新境地を切り拓く。

* 神戸大学の三大憲章

(i) 研究憲章

神戸大学は、深く真理を探究して新たな知を創造する学術研究の拠点として、その固有の使命と社会的・歴史的・地域的役割を認識し、日本国民及び人類に貢献する責務を遂行するために、ここに神戸大学研究憲章を定める。

(研究理念)

1. 神戸大学は、学術研究の発展を通して、人類の幸福、地球環境の保全及び世界の平和に寄与することを基本理念とする。

(研究目標)

2. 神戸大学は、研究理念に基づき、次の目標を掲げる。

(1) 新たな知見を切り開く独創性を重視し、人類の知の発展を導く卓越した研究成果を世界に発信する。

(2) 国際都市のもつ開放的な地域の特性を活かし、学術研究の国際的な交流と連携の拠点として求心的な役割を果たす。

(3) 多様な研究組織を擁する総合大学として、多彩な専門研究を発展させるとともに、連携・融合により新たな学術領域を開拓する。

(研究体制)

3. 神戸大学は、研究理念と研究目標を達成するため、次の体制を構築する。

(1) 学術研究の自由と独立を擁護する。

(2) 研究者の自立性と自発性に基づく研究を尊重するとともに、協同のもとに研究を戦略的に展開する。

(3) 研究活動を真摯に点検し、研究体制の改善につとめる。

(4) 次世代の優れた研究者を養成するとともに、研究成果を広く社会に還元することにより、社会に発展に寄与する。

(研究倫理)

4. 神戸大学は、学術研究に係る行動規範を遵守し、社会の信頼と信託に応える研究活動を遂行する。

(ii) 教育憲章

神戸大学は、国が設置した高等教育機関として、その固有の使命と社会的・歴史的・地域的役割を認識し、国民から負託された責務を遂行するために、ここに神戸大学教育憲章を定める。

(教育理念)

1. 神戸大学は、学問の発展、人類の幸福、地球環境の保全及び世界平和に貢献するために、学部及び大学院で国際的に卓越した教育を提供することを基本理念とする。

(教育原理)

2. 神戸大学は、学生が個人的及び社会的目標の実現に向けて、その潜在能力を最大限に発揮出来るよう、学生の自主及び自立性を尊重し、個性と多様性を重視した教育を行うことを基本原理とする。

(教育目的)

3. 神戸大学は、教育理念と教育原理に基づき、国際都市のもつ開放的な地域の特性を活かしながら、次のような教育を行う。

(1) 人間性の教育：高い倫理性を有し、知性、理性及び感性の調和した教養豊かな人間の育成

(2) 創造性の教育：伝統的な思考や方法を批判的に継承しつつ、自ら課題を設定し、創造的に解決できる能力を身につけた人間の育成

(3) 国際性の教育：多様な価値観を尊重し、異文化に対する深い理解力を有し、コミュニケーション能力に優れた人間の育成

(4) 専門性の教育：それぞれの職業や学問分野において指導的役割を担うことの出来る、深い学識と高度な専門技能を備えた人間の育成

(教育体制)

4. 神戸大学は、教育理念と教育原理に基づき、その教育目標を達成するために、全学的な責任体制の下で学部及び大学院の教育を行う。

(教育評価)

5. 神戸大学は、教育理念と教育原理が実現され、教育目標が達成されているかどうかを不断に点検・評価し、その改善に努める。

(iii) 環境憲章

(基本理念)

神戸大学は、世界最高水準の研究教育拠点として、大学における全ての活動を通じて現代の最重要課題である地球環境の保全と持続可能な社会の創造に全力で取り組みます。

私たちは、山と海に囲まれた地域環境を活かして環境意識の高い人材を育成するとともに、国際都市神戸から世界に向けた学術的な情報発信を常に推進し、自らも環境保全に率先垂範することを通して、持続可能な社会という人類共通の目標を実現する道を築いていくことを約束します。

(基本方針)

1. 環境意識の高い人材の育成と支援

大学の最大の使命は人材の育成にあります。

私たちは、地球環境や地域環境への影響を常に意識して行動する人材を養成するために教育プログラムを絶えず改善し、人文・社会・自然科学の知見を統合して、環境に対して深い理解をもつ人間性豊かな人材を国際社会や地域社会と連携して育成することに努めます。

2. 地球環境を維持し創造するための研究の推進

地球環境を保全し、持続可能な社会を創造するためには、さまざまな課題を克服する研究成果の蓄積が必要です。

私たちは、環境問題に関する個別分野の研究と関連分野を統合した学術的な研究の双方を推進し、その成果を世界と地域に向けて発信することに努めます。

また、このような研究成果を国際社会と地域社会の発展に具体的に結びつける活動を支援します。

3. 率先垂範としての環境保全活動の推進

地球環境を保全するためには、ひとりひとりの行動が大切です。

私たちは、日々の活動を通じて、環境を守り、エネルギーや資源を有効に活用し、有害物質の管理を徹底することによって、環境に十分配慮したキャンパスライフを率先します。

さらに、環境保全活動の情報を開示し、関係者とのコミュニケーションを通じて、継続的な改善に努めます。

1. キャンパスマスタープランの策定について

(5) これまでのキャンパス整備の経緯について

キャンパス整備の経緯

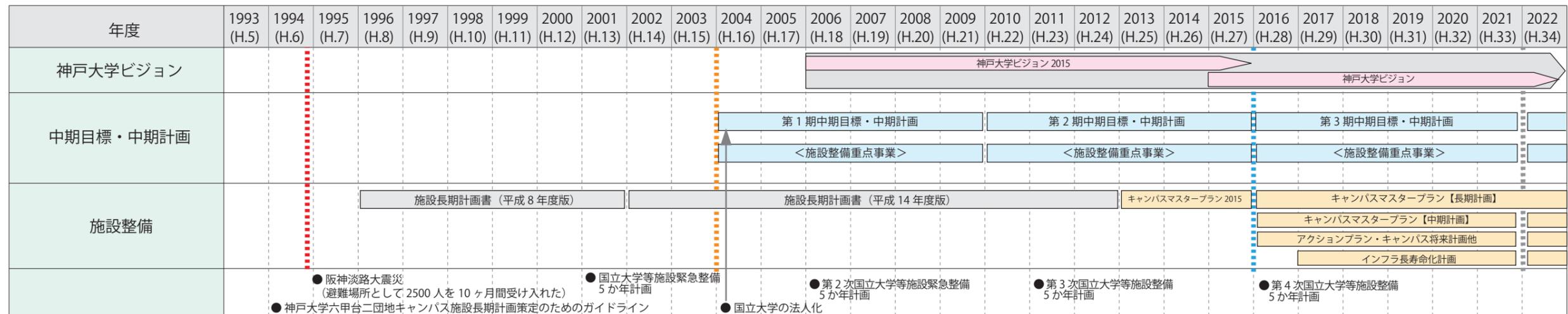
平成 16 年の国立大学の法人化以前の神戸大学のキャンパス整備は、国の方針に基づく「国立学校施設長期計画書」に基づいて行われてきた。その整備方針は、スペースの拡充を目的としたいわゆる箱もの建築の新築整備が主であり、新たな研究分野の発足に併せた二次的な単体整備を重ねてきたことで、キャンパス敷地内の建築ボリュームは飽和状態に近づいていった。

平成 7 年に起こった阪神淡路大震災によって、キャンパス整備の方向性は防災という観点を更に強くもつようになった。実際に震災後のキャンパスには 2500 人が 10 ヶ月間避難していたという実績があり、地域の防災拠点としてのキャンパスの役割が重要視されていった。

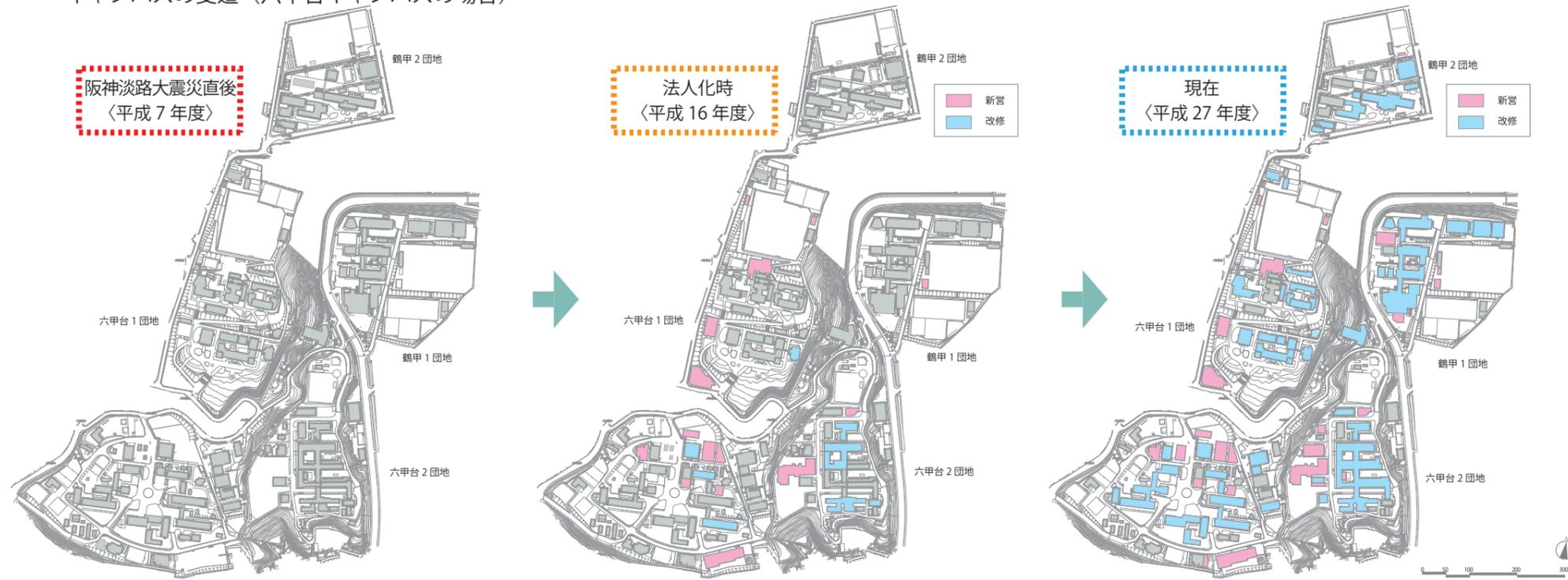
平成 16 年 4 月の国立大学の法人化以降においては、大学の特性を發揮しつつ、一法人として自立可能な経営戦略が求められ、神戸大学では第 1 期及び第 2 期の「中期計画」を策定した。

その目標・計画に則り「国立大学等施設緊急整備 5 年計画」を踏まえて、全学的なマネジメント体制のもと、耐震化の促進、老朽施設の更新、既存施設の有効利用等、既存建物の大規模改修を主とした整備を計画的に行ってきた。平成 18 年には、神戸大学独自のアカデミックプランとなる「神戸大学ビジョン 2015」が策定され、平成 27 年に新たな「神戸大学ビジョン」が示された。

「第 4 次国立大学等施設整備 5 年計画」(平成 28 年度～平成 32 年度)を踏まえて、今回、神戸大学キャンパスマスタープランを改訂することで、「神戸大学ビジョン」の実現と将来の神戸大学キャンパスの理想的な姿の提示を行い、中期的・長期的な視点における計画についても提示することとなった。



キャンパスの変遷 (六甲台キャンパスの場合)



キャンパスマスタープランの方針とコンセプト

2

2. キャンパスマスタープランの方針とコンセプト

(1) キャンパスマスタープランの長期計画

○基本方針

平成 23 年 3 月 28 日 環境・施設マネジメント委員会 承認

キャンパスマスタープラン策定の基本方針

教育・研究環境の質的充実、老朽化する施設の安全性の確保、環境負荷の低減、地域との連携強化など、大学を取り巻く課題やニーズに適切に対応しつつ良好なキャンパス環境の形成を図るため、法人化以前に策定していた「施設長期計画書」にかわるものとして、「キャンパスマスタープラン」を策定する。

I. 国際化の推進

世界の「知」を集め、新たな「知」を世界に向けて発信する国際的拠点大学の1つとして国際社会から認知される大学を目指します。

II. キャンパス環境の充実

教育・研究の展開に対し柔軟に変化可能なキャンパスを持つ魅力ある大学を目指します。

III. 伝統と緑と人の共生

歴史的足跡を現在に伝える貴重な財産・自然豊かなキャンパスとして認知される大学を目指します。

○整備・活用方針

I. コミュニケーションを活性化するキャンパス整備

教育者・研究者・学生間のコミュニケーションを推進するキャンパスづくりを目指す。

II. 地域社会やグローバル社会に開かれたキャンパス形成

地域文化の核となり国際化を推進し、優れた人材を惹きつけるキャンパスづくりを目指す。

III. 自然環境・立地を活かしたキャンパス整備

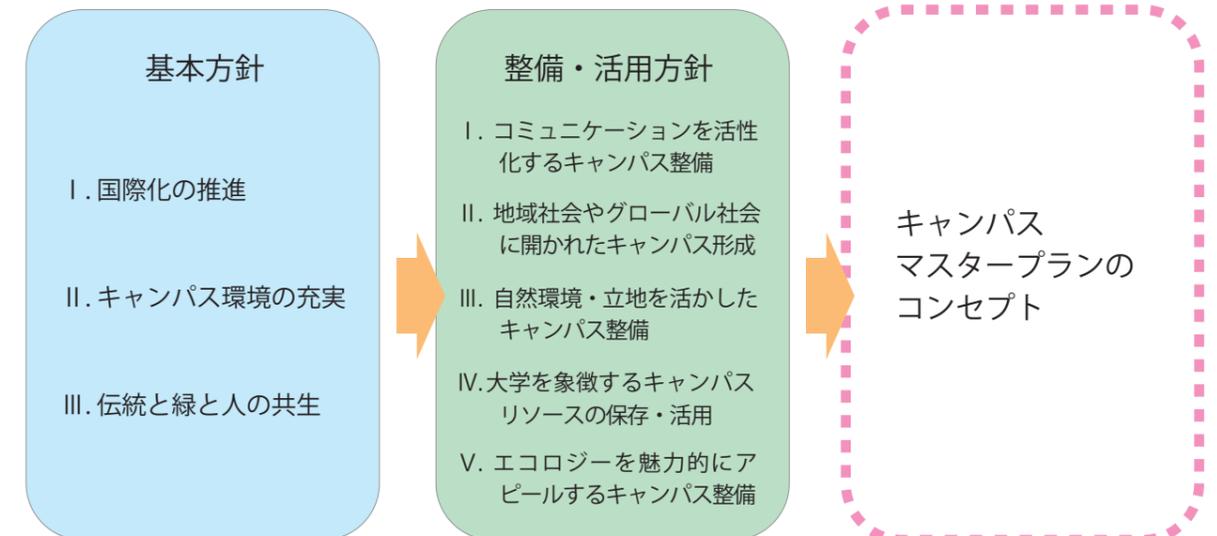
海と山に囲まれ、眺望と自然環境に恵まれた立体的な段上の土地形態を活かしたキャンパス整備、周辺環境と一体となった魅力的なキャンパスづくりを目指す。

IV. 大学を象徴するキャンパスリソースの保存・活用

歴史的保存建物・緑地・ロケーション等、キャンパス内の貴重な資源、名所等の保存及び公開活用を推進し、利用者の記憶に残る魅力的なキャンパスづくりを目指す。

V. エコロジーを魅力的にアピールするキャンパス整備

エネルギー消費量、CO₂削減等の環境負荷低減及び利用者のエコロジー意識の向上にも寄与するキャンパス整備を進め、エコロジカルキャンパスを目指す。



2. キャンパスマスタープランの方針とコンセプト

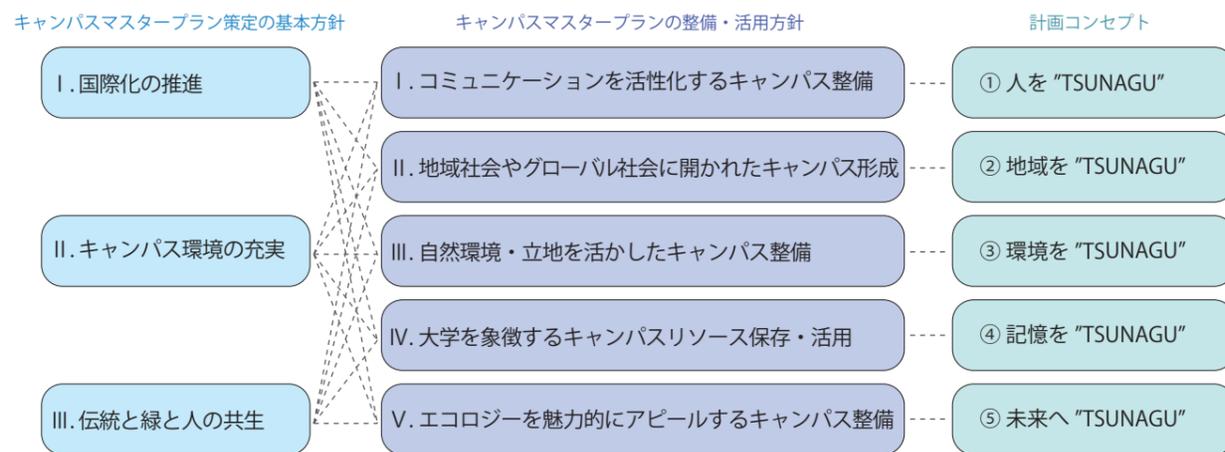
○コンセプト

"TSUNAGU" ~ つなぐ

神戸大学キャンパスマスタープランは"TSUNAGU" (つなぐ) を計画コンセプトとする。

大学のキャンパスは、大学の「顔」であり、教育研究活動を支える基盤であるとともに、学生にとって学習の場、卒業生にとって母校の思い出の場となる。また、これから学ぼうとする人達や海外からの留学生、地域に暮らす人々にとっても魅力的であることが大切となる。

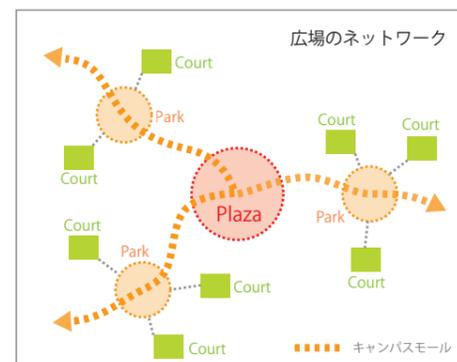
神戸大学キャンパスマスタープランは、「キャンパスマスタープランの整備・活用方針」に対応した5つの"TSUNAGU" (つなぐ) をコンセプトに、人と人、大学キャンパスと地域、周辺環境の緑、人々の記憶、「歴史」から「現在」そして「未来」へ"TSUNAGU"を実現する。



《キャンパスマスタープラン策定の基本方針、整備・活用方針とコンセプトの関係》

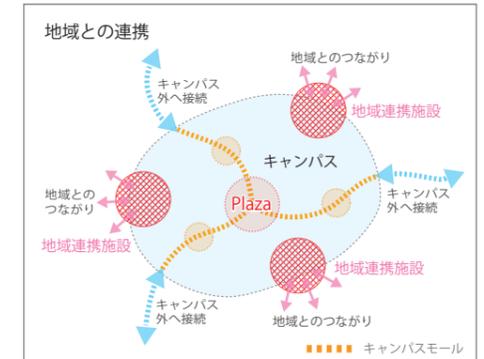
① 人を"TSUNAGU"

- 屋外に性格の異なる大小の広場を計画的に配置することにより、憩いと潤いの場を提供し、研究の合間のリフレッシュ、学生同士や学生と先生のコミュニケーションをサポートする。
- 歩行者専用の路を整備し、既存のキャンパス内歩行者路と繋げることで快適な歩行路ネットワークを構築する。
- ユニバーサルデザインに配慮し、誰もが快適に利用できるバリアフリーな万人とつながるキャンパスを目指す。



② 地域を"TSUNAGU"

- 大学キャンパスと地域のインターフェースとして地域連携施設を整備する。地域の人々が気軽に立ち寄ることのできる地域開放の図書館・ホール・店舗などの施設整備を行う。
- Plaza を「地域にある高台の防災広場」として整備し、災害時の避難広場としての利用を想定し、地域貢献を目指す。
- キャンパスモールをキャンパス外にも接続し、地域の人々の散策路として開放する。



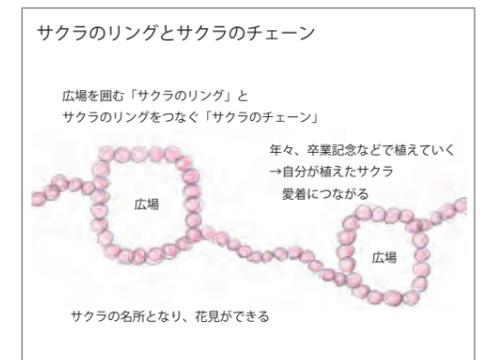
③ 環境を"TSUNAGU"

- キャンパス内の緑を保全し、さらにキャンパスの周囲及び内部に新たな緑化をすすめ、周辺の緑とつないでいくことで緑あふれるキャンパスを目指す。
- 既存のサクラ並木を延長し、繋いでいくことで、サクラのリングとサクラのチェーンを整備する。そこは花見の名所となり、多くの人々が集うキャンパスとなる。



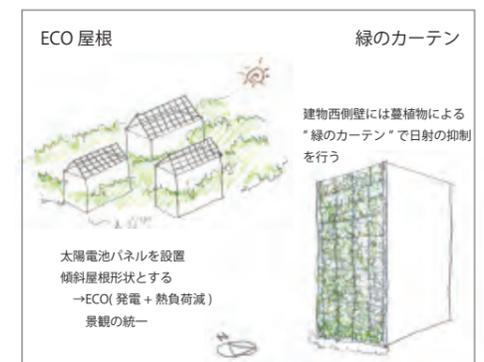
④ 記憶を"TSUNAGU"

- キャンパス内の並木、サクラのリングやサクラのチェーンは、卒業記念の植樹等で整備することで、卒業生の在学の記憶、大学への愛着としてキャンパスに刻まれ記憶をつなぐ。
- 建物外観や屋外環境の色・素材等に関して、デザインの統一・整理を行い、神戸大学らしい記憶に残るキャンパス空間を目指す。



⑤ 未来へ"TSUNAGU"

- キャンパス内の歴史的建造物や景観建築物を整備し広く公開する。神戸大学の歴史を現在につなぎ、さらに未来へとつないでいく。
- エコロジカルデザインを推進し、地球環境保全のための循環型キャンパスを目指し、かけがえのない地球を未来につないでいく一端を担う。
- 交易都市である神戸に設立された大学として、教育・研究・人材など世界につなぎ、国際化を推進する。



2. キャンパスマスタープランの方針とコンセプト

(2) キャンパスマスタープランの中期計画

神戸大学の機能強化等への対応

1. 新領域創出に向けた先端融合研究の推進等に対応するための施設機能やスペースの確保

- ①新領域・分野横断研究の萌芽や独創性のある研究を育成、イノベーション創出や文理融合等に資するプロジェクトを支援するための施設機能やスペースの確保
- ②神戸大学独自の先端融合研究組織を中心とした様々なプロジェクトの立ち上げや拡充や戦略的に柔軟に対応できる施設機能やスペースの確保
- ③優れた若手研究者、外国人研究者及び女性研究者を支援するための独立研究スペースや住環境等の確保

2. 教育のグローバル化による世界で活躍できる先導的人材育成に向けたキャンパス環境の確保

- ①実践型グローバル人材の育成や国際通用力を強化した教育プログラムの展開などカリキュラムの再編等への対応を目的とした施設機能やスペースの確保
- ②全学的に実施するアクティブ・ラーニングを活用した教育プログラムに対応した施設機能やスペース確保
- ③教員と学生が一体となった「ユニット交流システム」を活用した教育の実施に対応した施設機能やスペースの確保
- ④海外フィールドワークやインターンシップの実施後の学生交流の促進による留学生の受入増加に対応した施設機能やスペースの確保

3. 上記事項の達成に必要な不可欠な既存施設・スペース等の再配分システムの構築

- ①部局の枠を越えた横断的な体制と学内合意形成を図り実効性のあるシステムの構築
- ②全学的なスペースの利用状況や目的用途に応じた既存スペースの再配分システムの構築
- ③スペースの増大に伴う、光熱水費や維持管理費の増加に対する検討（スペースの集約化等）

第3期中期目標期間において目標を達成するために必要となる整備事業

- 教育に関する目標 〈中期目標【1】～【6】〉
 - ・ダブル・ディグリー・プログラムやクォーター制導入など国際通用力を有する質の高い教育に対応した施設の充実
 - ・アクティブ・ラーニングを活用した教育プログラムに対応するための施設の充実
 - ・科学技術イノベーション研究科の新設に対応した施設の充実
 - ・ラーニングコモンズやICT教育等の学修の場や設備の拡充に対応した施設の充実
 - ・学生生活支援や障がいのある学生に対する修学支援の強化に対応した施設の充実
- 研究に関する目標 〈中期目標【7】～【10】〉
 - ・先端研究・文理融合研究の充実・発展に対応した施設の充実
 - ・国際共同研究推進に対応した施設の充実
 - ・優れた研究人材を確保するための独立研究スペースや外国人研究者のための住環境や子育て両立支援等に対応した施設の充実
 - ・研究から社会実装まで一貫した産学連携体制構築に対応した施設の充実
 - ・イノベーションに資する人材の育成及び研究成果の創出に対応した施設の充実
- グローバル化に関する目標等 〈中期目標【11】【12】【20】〉
 - ・世界トップレベルの研究機関との戦略的な国際共同研究に対応した施設の充実
 - ・教員と学生が一体となった「ユニット交流システム」を活用した教育に対応した施設の充実
 - ・留学生支援の充実に対応した施設の充実
 - ・既存の学部を再編統合した新たな学部設置に対応した施設の充実
- 附属病院に関する目標 〈中期目標【13】～【15】〉
 - ・臨床研究推進等に対応した施設の充実
 - ・地域医療機関との連携強化に対応した施設の充実
- 附属学校に関する目標 〈中期目標【16】～【17】〉
 - ・附属学校再編計画に対応した施設の充実
 - ・国・地域の初等教育・中等教育の拠点校としての役割に対応した施設の充実

8つのキャンパスの将来計画

3

3. 8つのキャンパスの将来計画

3-1. 六甲台キャンパス (六甲台1・六甲台2・鶴甲1・鶴甲2団地)

将来計画

“5つのTSUNAGU(つなぐ)”を実現するキャンパスマスタープラン

六甲台1団地

- ・国登録有形文化財の保存と利用及び一般公開
- ・地域連携ゾーンとしてのアカデミア館の利用
- ・キャンパス間の高低差をつなぐ為の整備 (③)
- ・社会科学総合研究ゾーンの整備 (⑧)
- ・教員・研究者・学生の交流スペースとしてのPark、Courtの整備
- ・キャンパスモール「上のみち」「下のみち」の整備
- ・緑化駐車場・緑化駐輪場の整備
- ・既存緑地の保全、viewpointでの眺望の保全

六甲台2団地

西部ゾーン

- ・地域連携ゾーンとしての地域開放施設の整備 (⑨)
- ・教員・研究者・学生の交流スペースとしてのPlaza、Park、Courtの整備
- ・キャンパスモール「上のみち」「下のみち」の整備
- ・駐車場・駐輪場の整備
- ・既存緑地の保全、viewpointでの眺望の保全

中央ゾーン

- ・眺望広場の整備 (⑤)
- ・高低差を利用した眺望広場等メディアゾーンの整備 (⑥)
- ・大学本部ゾーンの整備 (⑦)
- ・キャンパスモール「上のみち」「下のみち」の横断対応
- ・駐車場の整備
- ・既存緑地の保全、viewpointでの眺望の保全

東部ゾーン

- ・東側傾斜地の有効利用 (④)
- ・教員・研究者・学生の交流スペースとしてのPlaza、Park、Courtの整備
- ・キャンパスモール「上のみち」「下のみち」の整備
- ・駐車場の整備
- ・既存緑地の保全、viewpointでの眺望の保全

【第3期中期目標期間における計画】

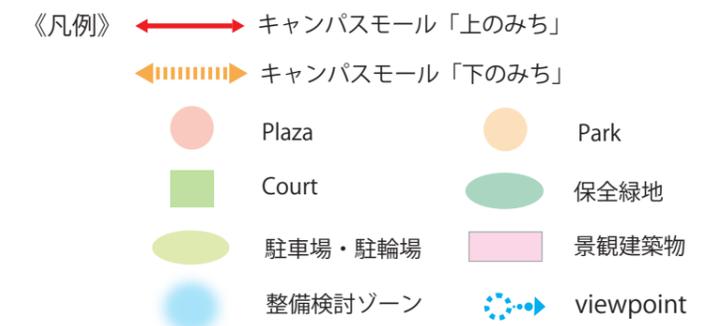
- ・「未来都市」プロジェクト等の先端研究・文理融合研究に対応した施設の整備
- ・教育環境を活性化させる屋外運動場の整備など学生支援充実のための施設の整備
- ・国際通用力を有する質の高い教育に対応した施設の整備
- ・「ユニット交流システム」や「アクティブラーニング」などに対応するための環境の整備
- ・新たな学部設置に対応した施設の整備

鶴甲2団地

- ・新学部の機能・役割を発揮させるために既存老朽施設のリノベーションを推進 (⑩)
- ・教員・研究者・学生の交流スペースとしてのPlaza、Park、Courtの整備
- ・キャンパスモール「上のみち」「下のみち」の整備
- ・駐車場・駐輪場の整備
- ・既存緑地の保全

鶴甲1団地

- ・地域及び学生の利用を想定したゾーンの整備 (①)
- ・教員・研究者・学生の交流スペースとしてのPlaza、Park、Courtの整備
- ・キャンパスモール「上のみち」「下のみち」の整備
- ・駐車場・駐輪場の整備
- ・既存緑地の保全、viewpointでの眺望の保全
- ・キャンパス内移動の快適性及び安全性の向上を図るとともに、キャンパスの高低差を解消しユニバーサル動線の確保を推進 (②) 及び教育環境を活性化させる体育館の整備



3. 8つのキャンパスの将来計画

3-2. ポートアイランドキャンパス

将来計画

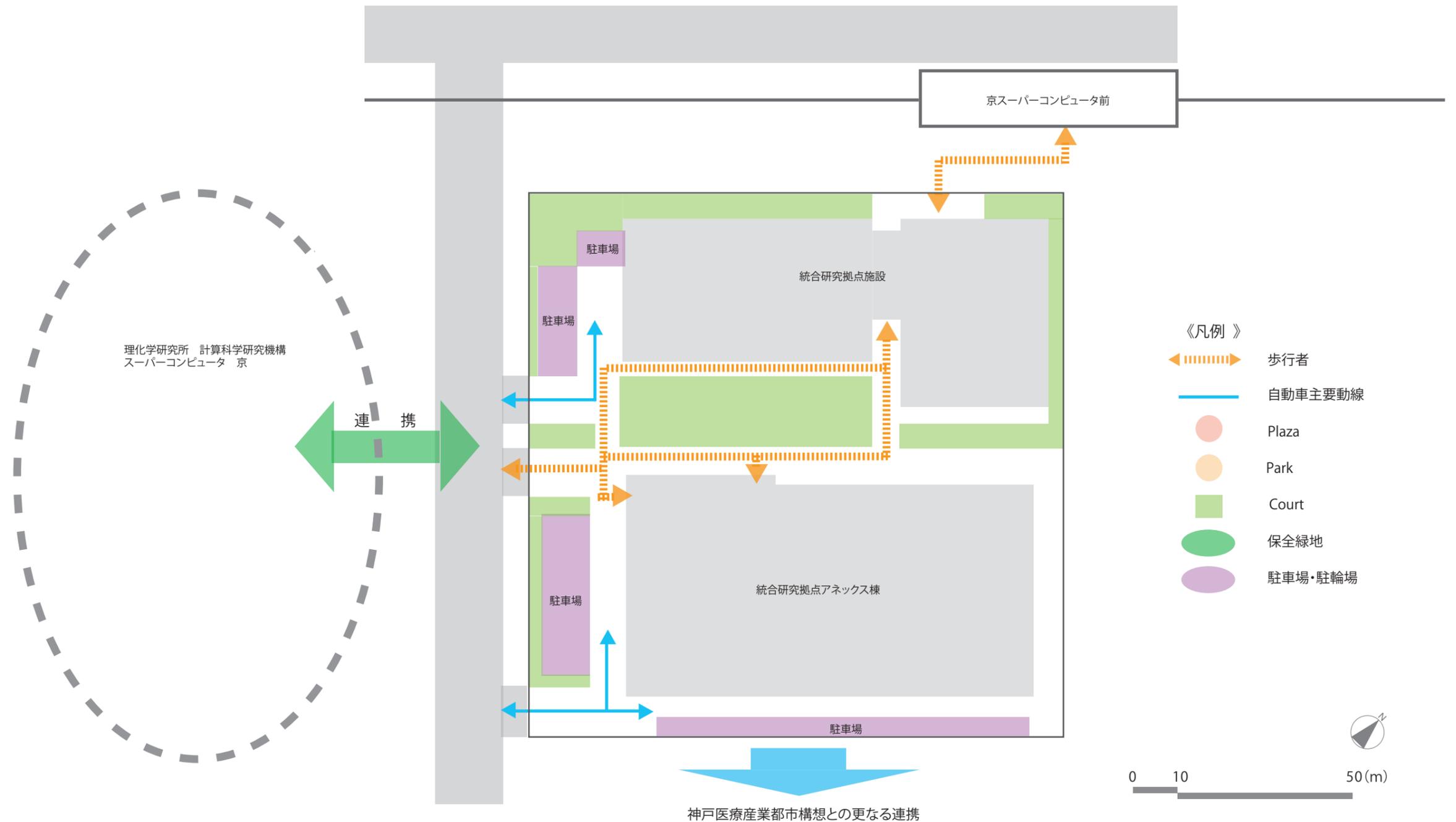
"5つのTSUNAGU(つなぐ)"を実現するキャンパスマスタープラン

ポートアイランドキャンパス

- ・ 神戸医療産業都市構想との連携の強化
- ・ 次世代バイオ医薬品製造技術研究組合との先端的な研究開発及び人材育成への対応

【第3期中期目標期間における計画】

- ・ 先端研究・文理融合研究及び新たな学術領域の開拓に対応した施設の整備
- ・ プロジェクト研究を行うためのスペースの確保



3. 8つのキャンパスの将来計画

3-3. 楠キャンパス (国際がん医療・研究センターを含む)

将来計画

"5つのTSUNAGU(つなぐ)"を実現するキャンパスマスタープラン

楠キャンパス (国際がん医療・研究センターを含む)

- ・継続的に医療等の変化に対応していく上で必要なスペースを確保するために神戸市と協議の上、地区計画の指定を受ける。(容積率の最高限度の緩和 300%→400%)
- ・容積率の最高限度の緩和のため、敷地周辺に空地を確保
- ・病院敷地と医学部敷地をつなぐ公共歩廊の検討(①)
- ・神戸市景観計画区域内に位置するキャンパスとして大倉山公園、国道428号線、及び景観形成道路等の周辺施設と一体となった景観を整備
- ・神戸医療産業都市との連携の強化

【第3期中期目標期間における計画】

- ・臨床研究推進等に対応した施設の整備



3. 8つのキャンパスの将来計画

3-4. 名谷キャンパス

将来計画

"5つのTSUNAGU(つなぐ)"を実現するキャンパスマスタープラン

名谷キャンパス

- Plaza, Parkの整備
- 地域住民と積極的に交流してきた経緯から、食堂を中心にオープンカフェへ整備する等、南側緑地を中心とする、地域連携エリアの整備と、市民開放を検討(①)
- ユニバーサルデザインに基づいた構内通路、設備・サイン整備の推進
- 駐輪場の増設及び集約整備(②)
- 歩車分離を行うための施設整備と動線計画
- 敷地をとりまく豊かな緑との連携を考慮した、緑化を主としたエコロジカルなランドスケープの実現を目指す

【第3期中期目標期間における計画】

- グローバル人材育成などの教育プログラムの強化に対応した施設の整備
- アクティブラーニングに対応するための環境の整備



《凡例》

- 歩行者 (Pedestrian path: orange dashed line with arrows)
- 自動車主要動線 (Main automobile route: blue solid line)
- Plaza (Plaza: light red circle)
- Park (Park: light orange circle)
- 保全緑地 (Safety Greenery: green oval)
- 駐車場・駐輪場 (Parking/Bicycle parking: purple oval)
- 整備検討ゾーン (Facility improvement check zone: light blue circle)



策定方針・コンセプト
8つのキャンパスの将来計画
8つのキャンパスの部門別計画
資料

策定方針・コンセプト
8つのキャンパスの将来計画
8つのキャンパスの部門別計画
資料

3. 8つのキャンパスの将来計画

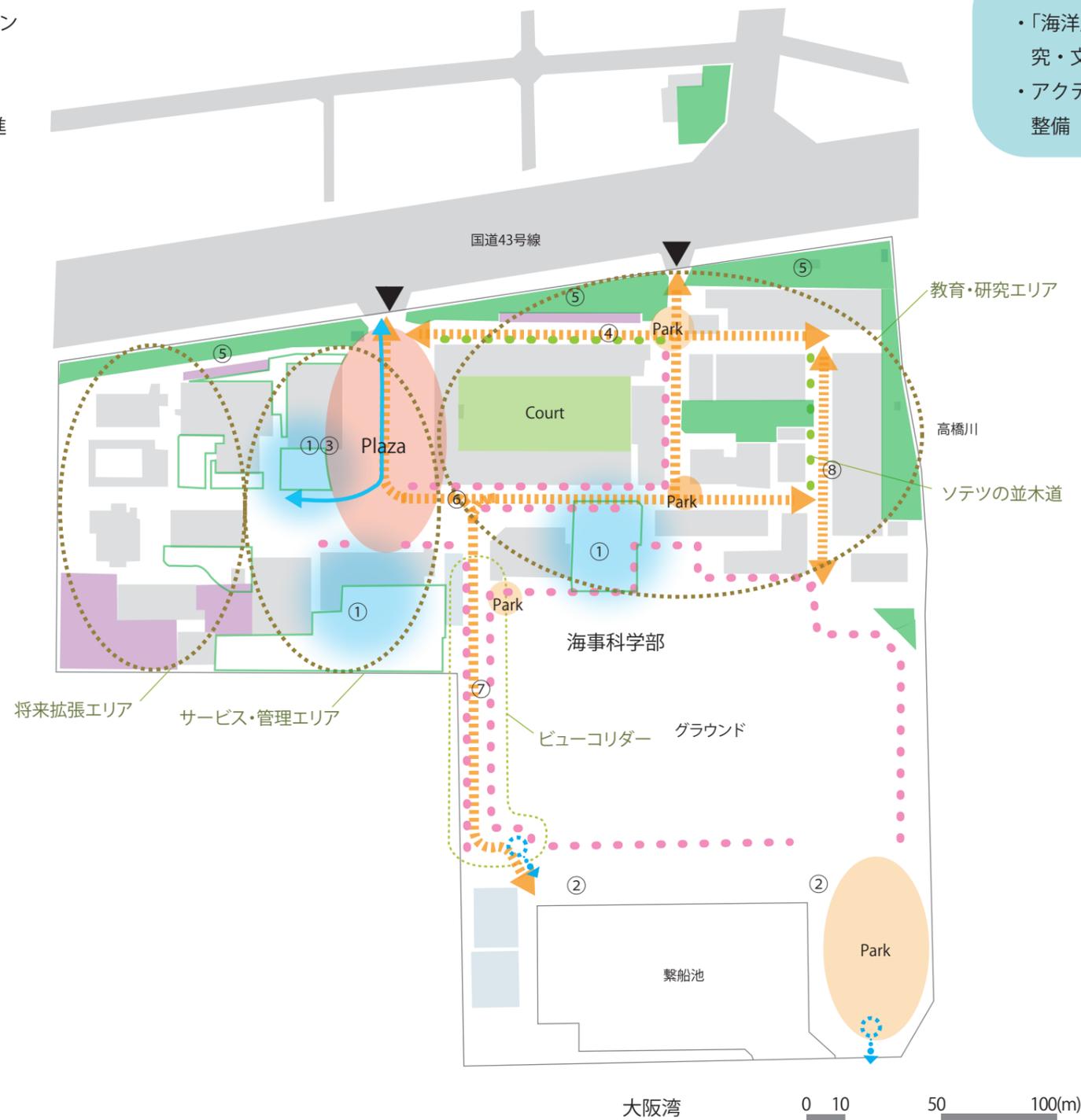
3-5. 深江キャンパス

将来計画

"5つのTSUNAGU(つなぐ)"を実現するキャンパスマスタープラン

深江キャンパス

- キャンパスの機能向上、施設の老朽化の解消及び有効活用の促進等に向けた教育研究スペース等の集約・整備 (①)
- Plaza, Park, Courtの整備
- 繋船池周辺を一般開放し、キャンパスの活性化を図るゾーンとして保全(②)
- 地域公開・地域利用の継承(③)
- ユニバーサルデザインに基づいた設備・サイン整備の推進
- 海に面した敷地から、津波などの災害への対策を検討
- キャンパス北側の、東西を移動する通路の整備(④)
- これまでに形成されたすぐれた配置計画の継承と保全
- 国道43号線沿のバッファゾーンとして、既存緑地の保全・整備(⑤)
- キャンパスを東西に貫く通路をメインコリダーとして位置づけ整備(⑥)
- ビューコリダーを桜並木のプロムナードとして整備(⑦)
- ソテツの並木道を整備・継承(⑧)
- ビューポイントの保全
- 避難誘導設備(防災無線、案内掲示板)の整備



【第3期中期目標期間における計画】

- 「海洋底探査センター」設置の拡充など先端研究・文理融合研究に対応した施設の整備
- アクティブラーニングに対応するための環境の整備

- 《凡例》
- 歩行者
 - 自動車主要動線
 - Plaza
 - Park
 - Court
 - 保全緑地
 - 駐車場・駐輪場
 - サクラのリング・チェーン
 - 並木
 - 整備検討ゾーン
 - viewpoint

策定方針・コンセプト
8つのキャンパスの将来計画
8つのキャンパスの部門別計画
資料

策定方針・コンセプト
8つのキャンパスの将来計画
8つのキャンパスの部門別計画
資料

3. 8つのキャンパスの将来計画

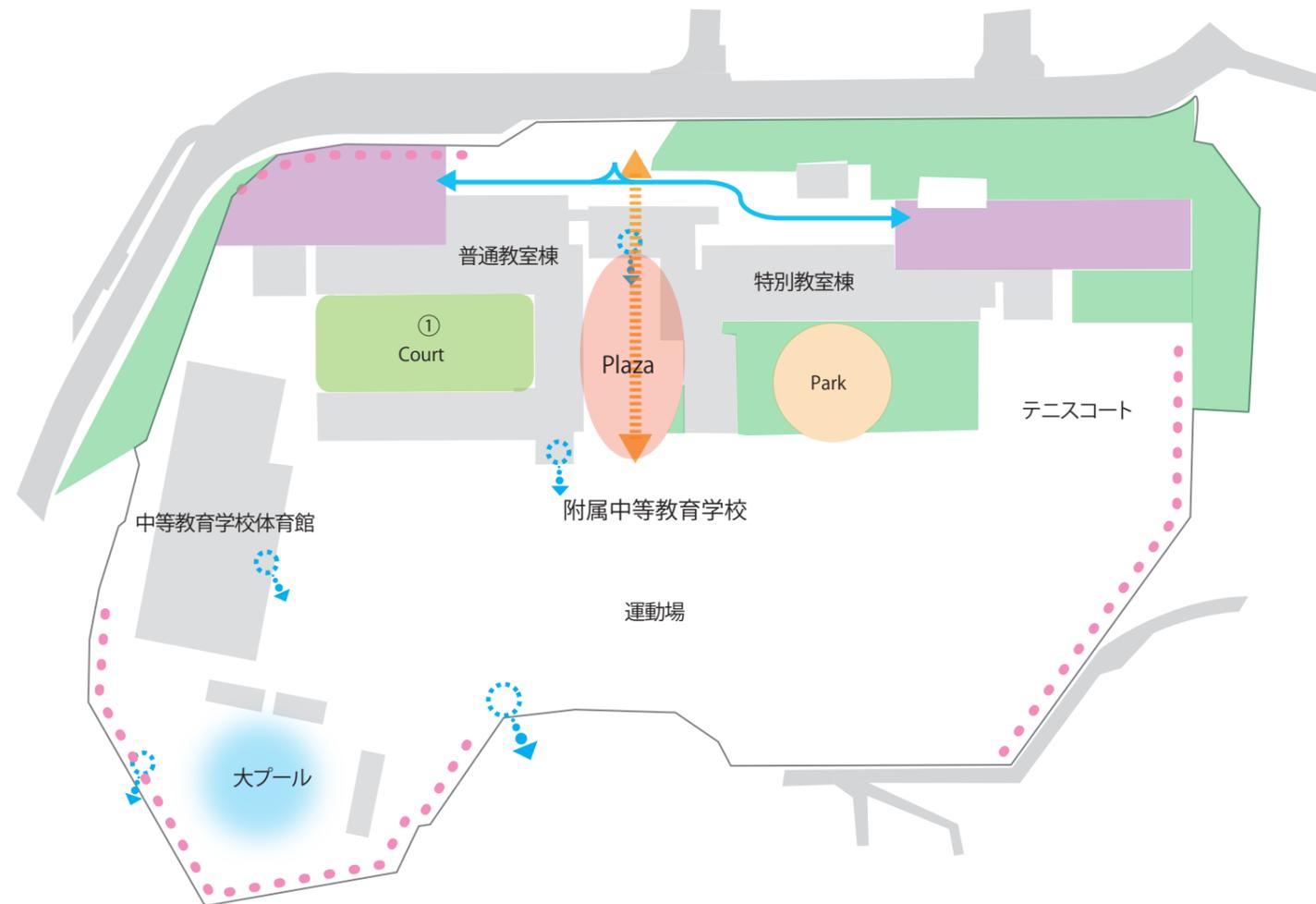
3-6. 住吉キャンパス

将来計画

"5つのTSUNAGU(つなぐ)"を実現するキャンパスマスタープラン

住吉キャンパス

- ・六甲山南端に位置するキャンパスの立地を考慮し、周辺の斜面・緑地等維持・保全
- ・閑静な住宅街にある立地から、災害時には、避難所として機能するよう整備
- ・生徒の安全を確保しつつ地域交流を図る
- ・サクラを植樹し、リングチェーンを形成
- ・歩車分離の方策を、交通整理員の配置を含め検討
- ・普通教室棟の中庭をCourtと位置づけ保全・整備(①)
- ・Parkの整備
- ・大プール等の屋外体育施設の老朽化対策
- ・ビューポイントの保全



《凡例》

- 歩行者 (Pedestrian)
- 自動車主要道路 (Main Road for Automobiles)
- Plaza
- Park
- Court
- 保全緑地 (Preserved Green Space)
- 駐車場 (Parking Lot)
- サクラのリング・チェーン (Sakura Ring Chain)
- 整備検討ゾーン (Maintenance Check Zone)
- viewpoint

0 10 50 100(m)



3. 8つのキャンパスの将来計画

3-7. 明石キャンパス

将来計画

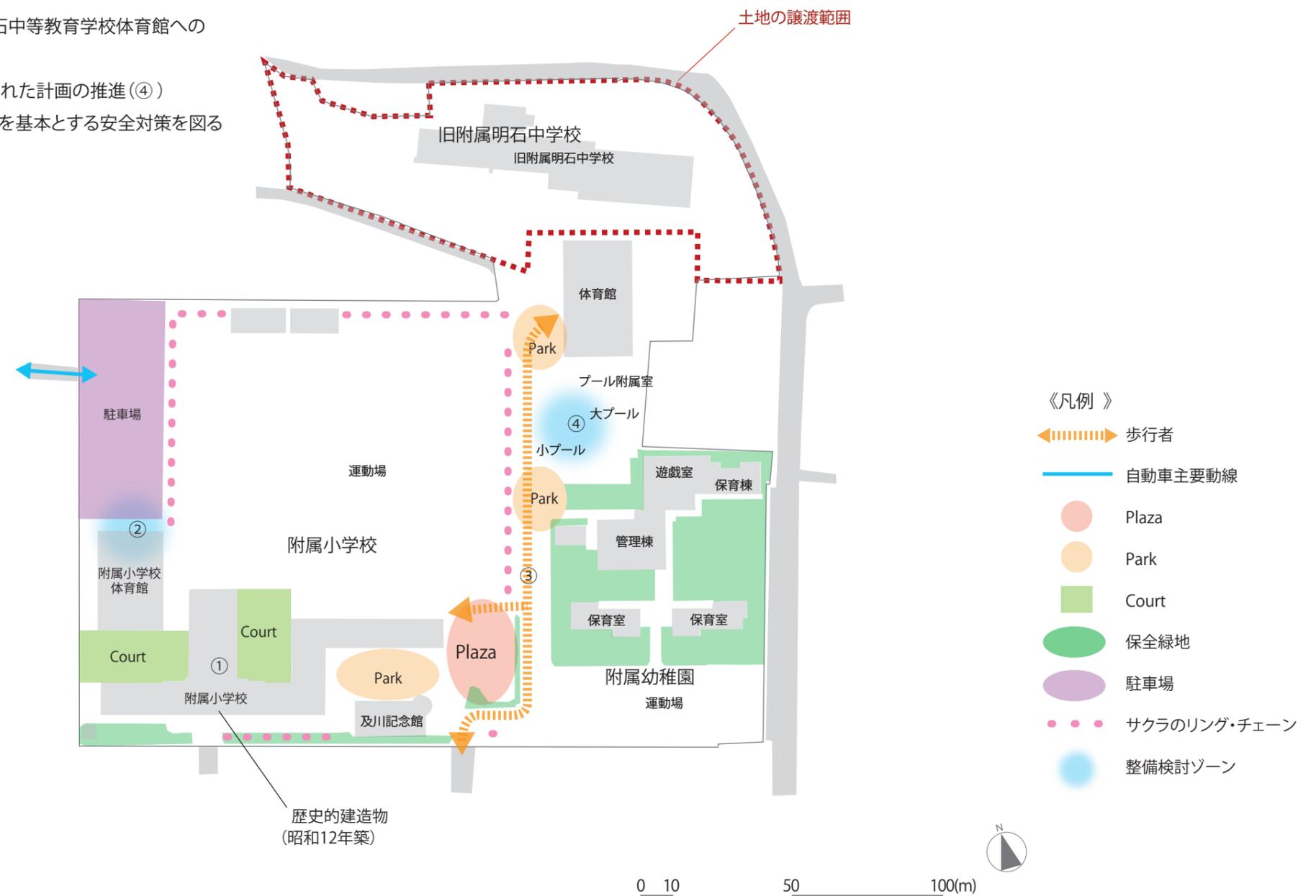
"5つのTSUNAGU(つなぐ)"を実現するキャンパスマスタープラン

明石キャンパス

- ・「学生宿舍、職員宿舍及び附属学校の機能移転及び集約化に向けた基本方針」に基づく明石団地の土地の一部及びの建物の一部を譲渡
- ・戦前の歴史的建物である小学校舎の保全と整備を行い地域への開放を検討(①)
- ・ランチルーム、厨房等の移転整備を検討(②)
- ・Plaza, Parkの整備
- ・既存の桜並木の保全と、積極的な植樹を行い、サクラのリングチェーンを形成
- ・ユニバーサルデザインに基づいた設備・サイン整備の推進
- ・津波他、災害時の避難所機能の整備と高台である旧附属明石中等教育学校体育館への円滑な動線の整備(③)
- ・プールの老朽化に対処するため近隣施設の利用を視野に入れた計画の推進(④)
- ・駐車場を集約整備し、機能的な車両動線を確保し、歩車分離を基本とする安全対策を図る

【第3期中期目標期間における計画】

- ・初等教育の拠点校に対応した施設の整備
- ・附属学校再編計画に対応した施設の整備



3. 8つのキャンパスの将来計画

3-8. 大久保キャンパス

将来計画

"5つのTSUNAGU(つなぐ)"を実現するキャンパスマスタープラン

大久保キャンパス

- ・木々や現存する緑のアンジュレーションを生かしコートと位置づける(①)
- ・地域連携ゾーンとして日常生活訓練施設の促進(②)
- ・石ヶ谷公園をはじめとする、周辺の豊かな緑との調和を考慮した緑地の保全・整備
- ・ユニバーサルデザインに基づいた動線計画、設備・サイン整備の推進
- ・サクラを植樹し、敷地と施設の配置を生かし、二重のサクラのリングチェーンを形成
- ・明石の土地に根ざした(モモ・クリ・カキ・グミ等)日本古来の品種を植樹
- ・日常生活訓練施設南側は、地域交流空間として位置づけ既存教育園を継承・整備(③)
- ・地域子供支援センターの増築(④)
- ・運動場の老朽化対策



8つのキャンパスの部門別計画

4

4. 8つのキャンパスの部門別計画

4-1-1. 部門別計画の構成について

キャンパスマスタープランのコンセプト5つの“TSUNAGU(つなぐ)”を実現するための方策を様々な観点から検証すべく部門別に計画する。

(i) キャンパスの現状と課題・方針

キャンパスの位置や規模、歴史、利用状況等の現状を確認した上で、キャンパスの全体フレームを俯瞰し、課題や方針を模索する。

(ii) ゾーニング計画

キャンパスの機能ゾーニングの現状を踏まえ、将来に求められる新たな機能を示し、それをどのようにゾーニングするのか、その方向性を示す。

(iii) パブリックスペース計画

キャンパス全体のアメニティ向上及びコミュニケーションの活性化を図り、防災用の空地にもなり得る公共性豊かなオープンスペースの配置を検討し、そのあり方を示す。

(iv) キャンパス動線計画

高低差の多いキャンパス構内において、どのようにして安全・安心かつ機能的な交通路を確保するかを検討し、キャンパス毎の歩車交通のあるべき形を示す。

(v) 景観計画

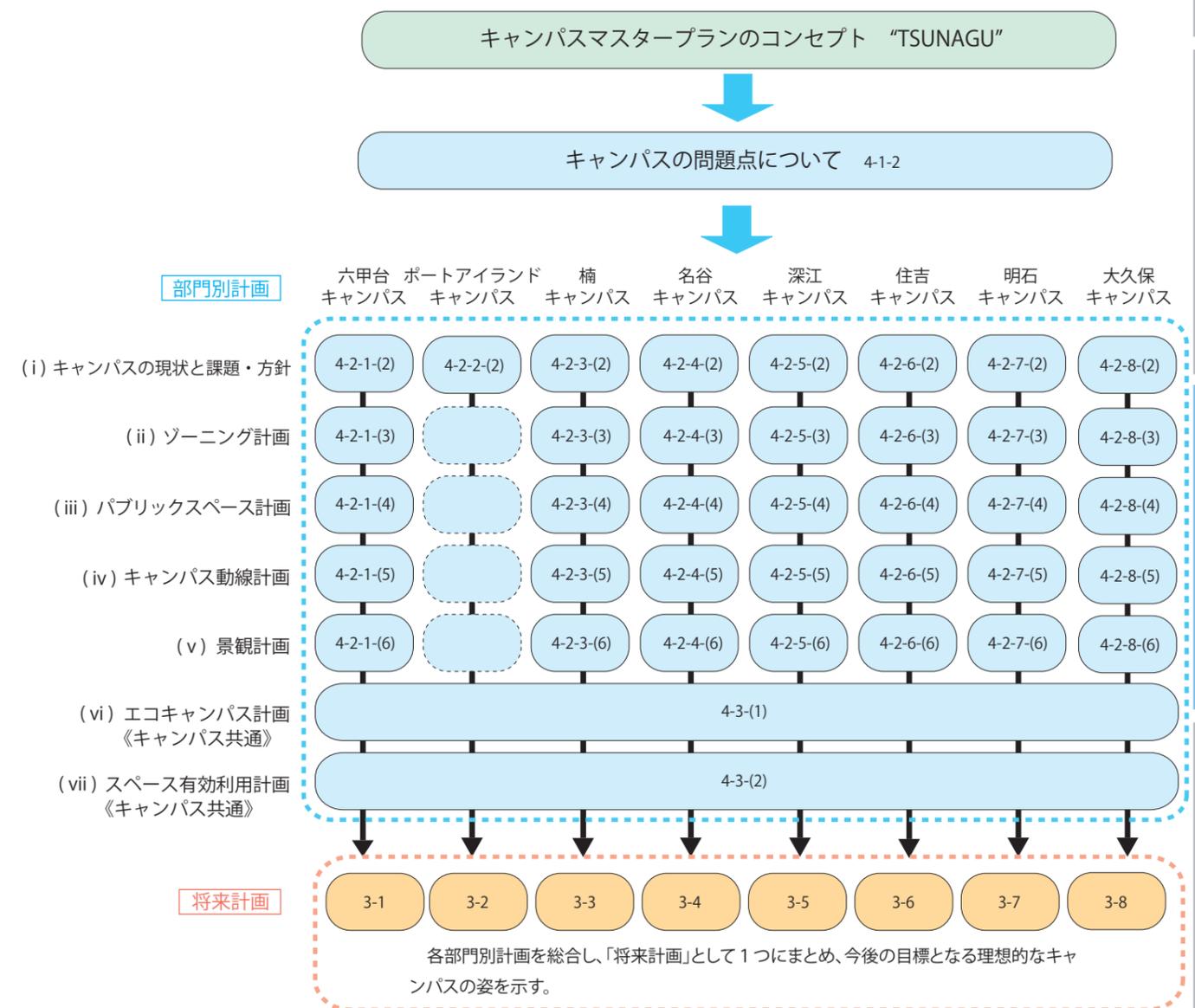
六甲山系につながるキャンパス内の現状の豊かな緑地を地域の大切な緑の資源と捉え周辺の緑地とつなぎ保全・継承していくその方針を示す。また、神戸大学ならではのランドスケープを創出するための方向性を示す。

(vi) エコキャンパス計画

地球環境への配慮があらゆる組織に対する社会的義務として現在求められている。大学キャンパスは多くのエネルギーと資源を消費する場となっているため、その大きな負荷を低減する取り組みが必要である。自然エネルギーの有効利用をも含んだ省エネルギー化、省資源への配慮、地球環境への配慮、循環型社会への取り組み等を推進していく方針を示す。

(vii) スペース有効利用計画

大学の教育研究は時代と共に変化するため、大学施設の維持管理・運営においては、経営的視点を踏まえた戦略的な施設整備と共に、既存施設有効活用の観点から維持管理を行うことが重要である。



4. 8つのキャンパスの部門別計画

4-1-2. キャンパスの問題点について

●部門別計画を推進するうえでキャンパスの現状と問題点を以下に示す。

キャンパス共通（1）

●クオリティの問題点

◎老朽施設対策

- ・人的危害に及ぶ剥落の危険性がある外壁材が未対策。
- ・教育研究に支障が及ぶ漏水箇所が未対策であり、漏水により転倒事故の危険性がある。
- ・構内通路の老朽劣化の著しい箇所があり転倒及び転落の危険性がある。
- ・国費等で要求の出来ない耐震性能が劣る小規模建物が未対策。
- ・落下の危険性がある大空間等の非構造部材の耐震補強が未対策。
- ・25年以上経過した老朽劣化の著しいトイレが未対策。



老朽施設対策
外壁の浮き

◎ライフライン対策

- ・法定耐用年数を大幅に経過した経年40年の給水管・排水管が未対策。
- ・法定耐用年数を大幅に経過した経年20年のガス管が未対策。
- ・法定耐用年数を大幅に経過した経年30年のケーブル・電線が未対策。



老朽施設対策
構内通路の老朽劣化



インフラ対策
給水設備の漏水

◎グローバル化対策

- ・増加する留学生への対応が必要。
- ・増加する外国人研究者への対応が必要。
- ・留学生等への学内案内標識が不足。

◎キャンパス環境対策

- ・障がい学生の修学支援が不足。
- ・学習環境の陳腐化。
- ・機能強化構想実現に向けた対応が必要。
- ・地域連携強化への対応が必要。

◎執務環境対策

- ・快適な執務環境を保つのに不可欠な空調機が耐用年数を経過しているのに未対策。
- ・快適な執務環境を保つのに不可欠な照明器具が耐用年数を経過しているのに未対策。

◎法令への対応

- ・PCB廃棄物の確実かつ適正処理。
- ・水銀による環境汚染防止に関する法律の対象となる外灯及び体育館照明の更新。
- ・高圧ガス保安法対策が必要なシリンダーキャビネットの設置。

◎課外活動施設等対策

- ・課外活動施設の老朽劣化が著しい。
 - ・福利厚生施設の老朽劣化が著しい。
 - ・課外活動施設が不足。
- <課外活動施設の維持保全と有効活用の再検討>

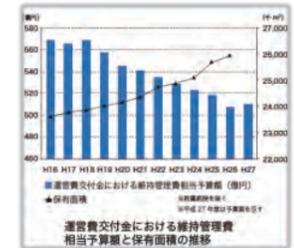
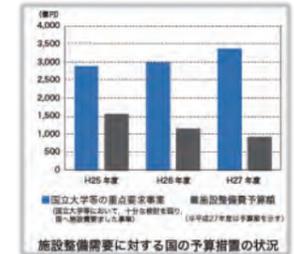


課外活動施設等対策
課外活動施設の老朽劣化

キャンパス共通（2）

●現状確認

- ・神戸大学施設（クオリティ）の現状
 - ◆改修が必要な面積は全体の約3割
 - ◆法定耐用年数を超過した基幹設備（ライフライン）は全体の約4割
- ・神戸大学施設（スペース）の現状
 - ◆教育研究活動の進展に伴う新たな施設需要は増加傾向
- ・国の支援（コスト）の状況
 - ◆国の施設整備費補助金は国立大学の施設整備需要の1/3程度
 - ◆保有面積が増加する一方、運営費交付金の維持管理費相当額は、年約1.6%減少



※神戸大学の施設の老朽化の状況及び維持管理費等については「p52. 6-3. その他」を参照

◆問題点の対応

○アクションプラン策定

- ①老朽化施設改善計画
防水、外壁、便所、共用施設等の修繕計画及び耐震補強計画の策定。
- ②ライフライン計画
給水管、排水管、ガス管等のライフライン種別毎に更新計画を策定。
- ③執務環境改善計画
空調設備、照明設備等の更新計画の策定。
- ④サイン計画
建物表記の基本ルールが定められた神戸大学サインマップ取扱マニュアルを踏まえたサイン更新計画を策定。
- ⑤バリアフリー計画
障がいのある学生の修学支援等を充実させるためにキャンパスの高低差解消を実現するバリアフリー動線計画を策定。

○スペースの有効活用をさらに推進（再配分するためのシステム構築）

- ・今まで以上にスペースの必要以上の専有や既得権意識を排除。
- ・さらに目的・用途に応じた施設の需給度合い、利用度などを踏まえて有効活用を推進。

○財源を戦略的に確保

- ・運営費交付金、競争的資金の間接経費等の有効活用を推進。
- ・PFI事業の検討。
- ・ESCO (Energy Service Company) 事業の検討
- ・施設整備費補助金等の獲得。

○サスティナブル・キャンパスの形成<省エネルギー対策>

建築物の延べ面積当たりにおけるエネルギー使用量を年平均1%以上低減させることに努め、設備機器の新設及び更新する際には技術的かつ経済的に可能な範囲で、エネルギー使用量の少ない設備、及び省エネ運転を行う制御装置の導入など、エネルギーの効率的な利用を検討し、より効果の高い設備機器を採用する。また、建築物の新増改築及び改修工事の際には断熱性能の強化や日射遮蔽等を実施する

4. 8つのキャンパスの部門別計画

4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-1. 六甲台キャンパス (六甲台1・六甲台2・鶴甲1・鶴甲2 団地)

(1) キャンパスの概要

六甲台キャンパス(六甲台地区)は4つの近接する団地によって構成され、大学設立当初より神戸大学の拠点となっている。立地については六甲山系と神戸港の間に広がる自然資源の豊富な南向きのなだらかな斜面に位置する眺望豊かなキャンパスであると同時に、神戸市街地にもアクセスしやすく、非常に立地に恵まれたキャンパスである。総合大学のメインキャンパスとして各学部の学生等が活発に活動するキャンパスであるが、キャンパス周囲は閑静な住宅地が大半を占めており、「静」と「動」との共生が常に求められる環境下にある。

■ 六甲台キャンパスの概要データ (H27.5 現在)

① 六甲台1 団地

- ・位置 : 兵庫県神戸市灘区六甲台町 2-1
- ・学部等 : 法学部、経済学部、経営学部、経済経営研究所、国際協力研究科、社会科学系図書館
- ・敷地面積 : 105,588 m²
- ・建物延面積 : 54,627 m²
- ・建ぺい率/容積率 : 15.0%/ 52.0%
- ・人口 : 約 3,550 人

③ 鶴甲1 団地

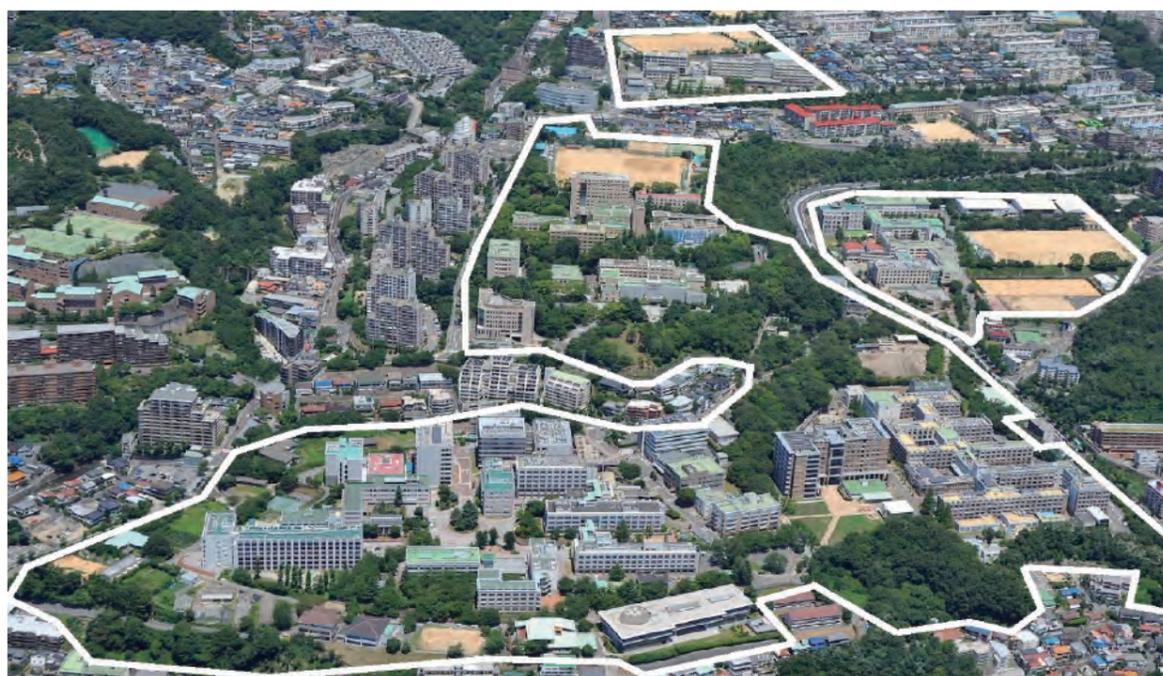
- ・位置 : 兵庫県神戸市灘区鶴甲 1-2-1
- ・学部等 : 大学教育推進機構、国際文化学部
- ・敷地面積 : 68,347 m²
- ・建物延面積 : 42,547 m²
- ・建ぺい率/容積率 : 24.0%/ 62.0%
- ・人口 : 約 5,830 人

② 六甲台2 団地

- ・位置 : 兵庫県神戸市灘区六甲台町 1-1
- ・学部等 : 事務局、文学部、理学部、農学部、工学部、自然科学系先端融合研究環境他
- ・敷地面積 : 215,770 m²
- ・建物延面積 : 149,295 m²
- ・建ぺい率/容積率 : 20.0%/ 69.0%
- ・人口 : 約 5,470 人

④ 鶴甲2 団地

- ・位置 : 兵庫県神戸市灘区鶴甲 3-11
- ・学部等 : 発達科学部
- ・敷地面積 : 45,863 m²
- ・建物延面積 : 24,676 m²
- ・建ぺい率/容積率 : 17.0%/ 54.0%
- ・人口 : 約 1,100 人



- ##### ■ 地域地区等 (神戸市都市計画他)
- ・第1種中高層住居専用地域 (60/200)
 - ・特別用途地区 (文教地区)
 - ・高度地区
 - ・宅地造成工事規制地域



神戸市都市計画図 (用途地域図)



キャンパスフレーム図



4. 8つのキャンパスの部門別計画

4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-1. 六甲台キャンパス (六甲台1・六甲台2・鶴甲1・鶴甲2 団地)

(2) キャンパスの現状と課題・方針

I. 現況キャンパスが持つ資源

- 資源カテゴリー
- 文化財
 - 景観・眺望
 - 木々、緑地環境
 - 広場、パブリックスペース



キャンパス資源プロット図

現況調査による資源発掘

- 登録有形文化財が現存する
登録有形文化財の建物が5棟現存する
周囲は植栽の管理も行き届いている。etc
- 六甲山の麓ならではの優れた景観・眺望
階段の上からの眺望は格別である
大きな木々があり、道路沿いの景観に一役買っている。etc
- 自然+計画による木々や緑地
株立ちの木々が茂っており、気持ちの良い歩道
広い緑地空間がある。etc
- 整備された広場・パブリックスペース
ウッドデッキ仕上の歩行者専用ウリボーロード
ポケットパーク的ミニパブリックスペース。etc

- 現況キャンパスが持つ資源は、エリアごとの特色
- ・登録有形文化財が現存し、景観・眺望に優れたエリア
 - ・豊かな緑の資源に恵まれたエリア
 - ・優れた景観・眺望がえられるエリア

II. 現況キャンパスが抱える問題点

- 問題点カテゴリー
- 交通・動線・アクセス・レベル
 - 景観・眺望
 - 木々、緑地環境
 - 管理・雑然性
 - 広場・スペース活用
 - 意匠性・統一性



キャンパスの問題点プロット図

現況調査による問題点抽出

- 交通計画や動線計画による
アクセス性や斜面地の適切なレベル処理の問題
ハンブ両脇の歩行路にバイクや車が駐車されている
六甲台1団地←→六甲台2団地のアクセスが悪い
バイクや車でアクセスに危険性が高い。etc
- 優れた景観・眺望を活かせていない
中庭の景観の整備がされていない(建物は良いが)
ViewPointなのに神戸の景色が見えない。etc
- 緑地や植栽帯の計画性
植栽の種類に統一感がない(針葉樹はミスマッチ)
屋外空間が豊かに利用できていない。etc
- 広場やパブリックスペースの活用
中庭空間が有効に利用されていない。etc
- 意匠性・統一性などの整備方針のばらつき
各学部の「顔」となる部分やファサードがない
建物が壁のように建ち、良い景観とはいえない。etc

III. 現況キャンパスとマスタープランの課題

現況キャンパスの持つ資源、問題点の両面から、将来へと引き継ぐべき良いところ、解決していくべき課題として、いくつかの計画的テーマに基づいた課題があげられる。

- 1 ゾーニング・施設整備(景観、意匠)課題
緑地や木々、登録有形文化財建物を活かし、歴史・自然・地域と折り合う
意匠性、景観性に富んだ表情によるキャンパスの顔づくり
エリアごとの特色あるゾーニング計画とサイン計画
- 2 パブリックスペースの活用(コミュニケーション)課題
パブリックスペース、オープンスペースの維持管理と景観整備
眺望と緑地を活かした神戸大学らしい繋がるパブリック(コミュニケーション)スペースづくり
- 3 交通ネットワーク課題
交通ネットワークの見直しによる歩行者にやさしいキャンパス空間
斜面地におけるユニバーサルデザイン計画
歩車両方での各施設やキャンパスへのアクセス性の向上
キャンパス内の高低差が大きく、バリアフリー動線が分断されている
- 4 緑地計画
緑地を活かした魅力ある歩行者路の整備
山の木々と調和する植栽計画
- 5 その他
公道や近隣住宅に崩落の恐れがある急傾斜地があり、一部が未対応
老朽化している施設について、施設機能を改善するための計画が必要
課外活動施設の在り方について、検討が必要
学部再編による新学部設置への対応が必要

IV. 課題への取り組みビジョン(方針)

上記課題に対し、キャンパスマスタープランでは、斜面地という条件や素晴らしい眺望が得られる立地の特性、豊かな自然、整備されたパブリックスペースなどの資源を活用し、六甲山麓に構える豊かなキャンパス像を長期的な視点で創造していく計画を目指す。

4. 8つのキャンパスの部門別計画

4-2. 部門別計画(キャンパス別)

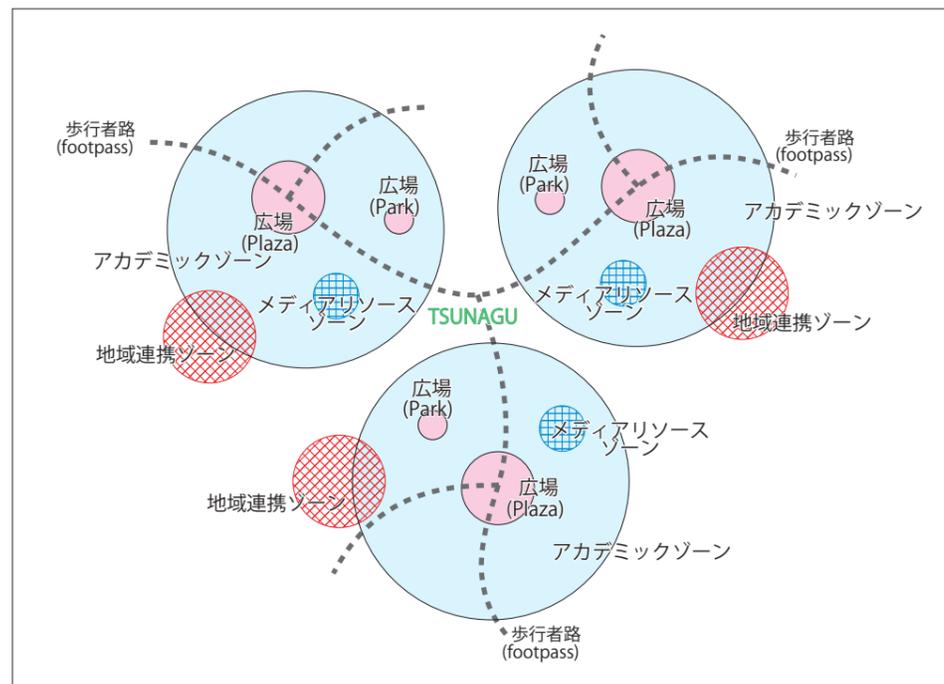
4-2-1. 六甲台キャンパス (六甲台1・六甲台2・鶴甲1・鶴甲2 団地)

(3) ゾーニング計画

六甲台キャンパスは既に機能上まとまったゾーン構成となっており、複数のゾーンが有機的につながりクラスター配置を形成しているところが、六甲台キャンパスの特徴である。将来的にはこれらのクラスターを基本としつつ、相互のつながりを発展させ、各ゾーン相互の関係、地域との関係を深めていくため、必要な機能を付加していくことが求められる。

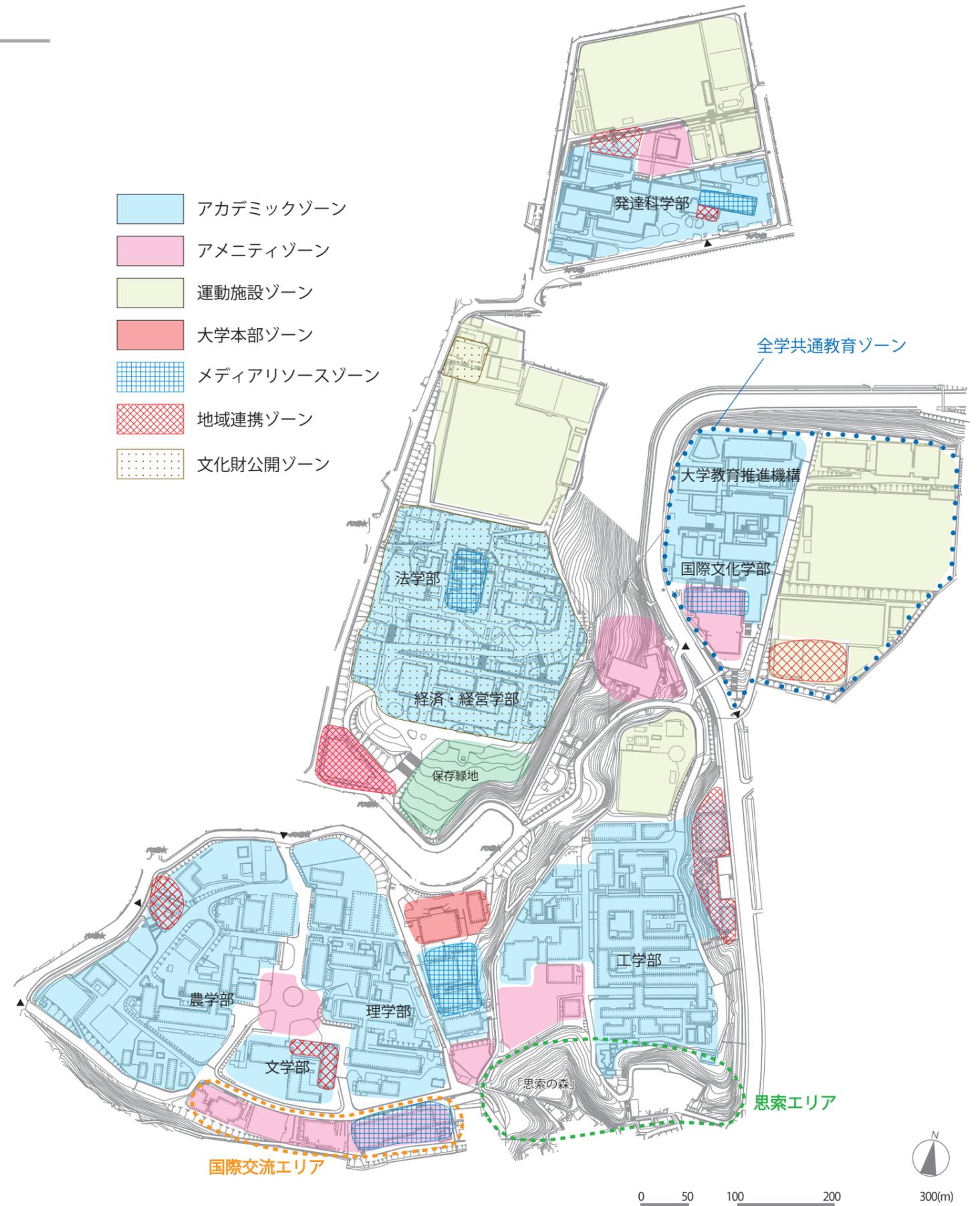
地域に開かれたキャンパスを実現化するため、公道に面した主要ゲート付近に地域交流のためのインターフェイスとして地域連携ゾーンを設け、施設を地域に開放し、地域とのつながりを図る計画とする。

新たに、メディアリソースゾーンとして図書館を中心に、神戸大学が保有する文献や学術資料を集積した施設の整備について、その規模、施設内容や場所の快適性を更に高める計画を行い、新たな「知」を世界に向けて発信する国際拠点大学の1つとしてふさわしい「知」の集積地点の創造を目指す。



ゾーニングのダイアグラム

- アカデミックゾーン
- アメニティゾーン
- 運動施設ゾーン
- 大学本部ゾーン
- メディアリソースゾーン
- 地域連携ゾーン
- 文化財公開ゾーン



4.8 つのキャンパスの部門別計画

4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-1. 六甲台キャンパス (六甲台1・六甲台2・鶴甲1・鶴甲2 団地)

(4) パブリックスペース計画

パブリックスペース計画として、主として外部空間の整備を行う。それぞれの空間の特徴や内部空間との関係を捉え、特色のある整備を行う。

オープンスペースの性格付けとして、Plaza、Park、Court の3つの広場を整備し、それらの連携を図ることでキャンパス全体の屋外空間の快適性の向上を目指す。

また、阪神淡路大震災時に地域住民の避難場所や被害調査の為の拠点、更には復興の拠点となった実績を踏まえ、地域の防災拠点として位置づけ整備を行う。

①キャンパス各ゾーンのシンボル空間として、広場 (Plaza) を設ける

これらの広場 (Plaza) は、各教育研究ゾーンのシンボル空間として機能し、学生やキャンパスを訪れた人々にやすらぎと潤いを与える計画とする。また、高台にある防災拠点としての広場の役割も担うことができるように計画する。整備に当たっては、木々や現存する歴史的な痕跡 (六甲台2 団地西側のサークルやツリーなど) を残す配慮を行う。

②歩行者路の結節点や入口付近に広場 (Park) を設ける

これらの小さな広場 (Park) は、Footpass の結節点で学生の溜まりの場所となる。緑と賑わいのある交流空間として計画を行う。

③建物に囲まれた四角い中庭 (Court) の整備を行う

四角い中庭 (Court) は、研究や講義の合間の学生達のリフレッシュ空間として機能する。ベンチ等のファニチュアなども一体的に計画し、機能的に配置を行う。農学部・理学部の玄関まわりの Court は学部の顔としての整備を行う。

④食堂周辺を International cafe 化するなど国際的雰囲気を出し、コンベンション機能の充実も図る。また、居住環境の向上など、学生への支援環境の充実を図る。

⑤サインの整理とデザインの統一化を行う。また、国際的拠点大学として多くの外国からの留学生への情報提供のためサインの多言語化を行う。



4. 8つのキャンパスの部門別計画

4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-1. 六甲台キャンパス (六甲台1・六甲台2・鶴甲1・鶴甲2 団地)

(5) キャンパス動線計画

a. 車両交通

キャンパスの屋外空間の景観・アメニティーの質を下げているキャンパス内の通路上及び屋外広場への駐車・駐輪への対策として、駐車場・駐輪場は各ゾーンの入口付近に集約させ、キャンパス内の自動車・バイクの通行・駐車を極力なくす計画とし、徒歩で安心・安全に移動できるキャンパスを目指す。

搬入や搬出のためにキャンパス内での車両の通行が必要となるが、車両の主要動線上にはハンプ (Hump) を設け、スピードを抑制するための対策を行い、歩行者との共存を図る。

b. 歩行者交通

キャンパス内は徒歩による移動を主要な手段とし、それらの歩行者(Footpass)は快適に移動ができるよう歩行者をメインにした屋外環境整備を行う。

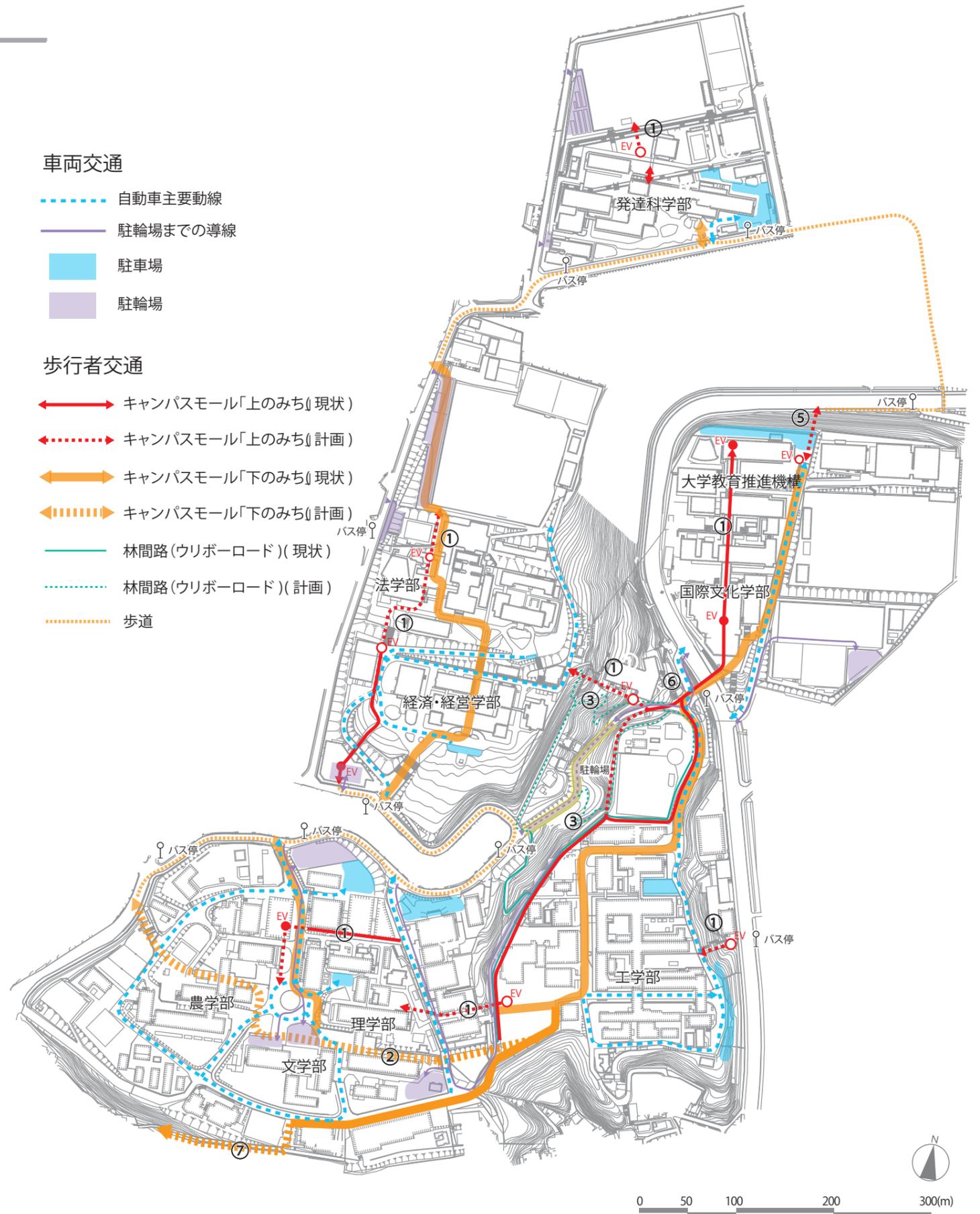
- ① 「上のみち」を設定し、敷地のレベル差を解消できる計画とする。
- ② 「下のみち」を設定し、環境整備を行う。また、文・理・農学部と工学部の広場 (Plaza) をつなげる「下のみち」を計画する。
- ③ 「ウリボーロード」を延長し、六甲台2団地と六甲台1団地をつなぐ林間コースを計画する。
- ④ Footpassは登録有形文化財の見学のための散策、日頃の散歩や登山コースとして地域に開放できるように整備する。
- ⑤ 共通教育カリキュラムを受講する多数の学生に配慮し、鶴甲1団地からバス停へスムーズなアクセス路を整備すると同時に鶴甲2団地までの徒歩アクセス改善を図る。
- ⑥ 工学部へのバス停からの歩行者路を拡幅し、バス停からの歩行者動線に配慮する。
- ⑦ 阪急六甲からの徒歩で通学する場合の学内メイン通学路の整備を行う。
- ⑧ ユニバーサルデザインを進め、バリアフリーへの対応を行う。
エレベーター・自動扉・スロープ・手すり・多機能トイレ・点字案内板・誘導ブロック・車椅子専用駐車場など、全ての人々が、安心して過ごせるキャンパスづくりを目指して、バリアフリー設備の拡充に努める。

車両交通

- 自動車主要動線
- 駐輪場までの導線
- 駐車場
- 駐輪場

歩行者交通

- ↔ キャンパスモール「上のみち」(現状)
- ↔ キャンパスモール「上のみち」(計画)
- ↔ キャンパスモール「下のみち」(現状)
- ↔ キャンパスモール「下のみち」(計画)
- 林間路(ウリボーロード)(現状)
- 林間路(ウリボーロード)(計画)
- 歩道



0 50 100 200 300(m)

4. 8つのキャンパスの部門別計画

4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-2. ポートアイランドキャンパス(1団地~3団地)

(1) キャンパスの概要

ポートアイランドキャンパスは、神戸港内にある人工島の神戸ポートアイランドにあり、神戸新交通ポートライナーの医療センター駅すぐ東側に位置するポートアイランド2団地と、京コンピュータ前駅のすぐ南側に位置するポートアイランド3団地が主な拠点となっている。キャンパスの周囲には私立大学などの教育施設、理化学研究所などの研究施設及び神戸市立医療センター中央市民病院などの医療施設などがあり、学外の研究機関、他大学、産業界と連携して先端融合研究を行っている。

(2) キャンパスの現状と課題・方針

- 部局の枠組みを超えた融合研究の実をあげる全学協力体制を構築し、大学全体としての取り組みを実現するとともに、部局間の連携を強化しつつ、全学の先端融合研究を推進し、先導的研究成果を蓄積するとともに、国内外に対する情報発信を行っている。

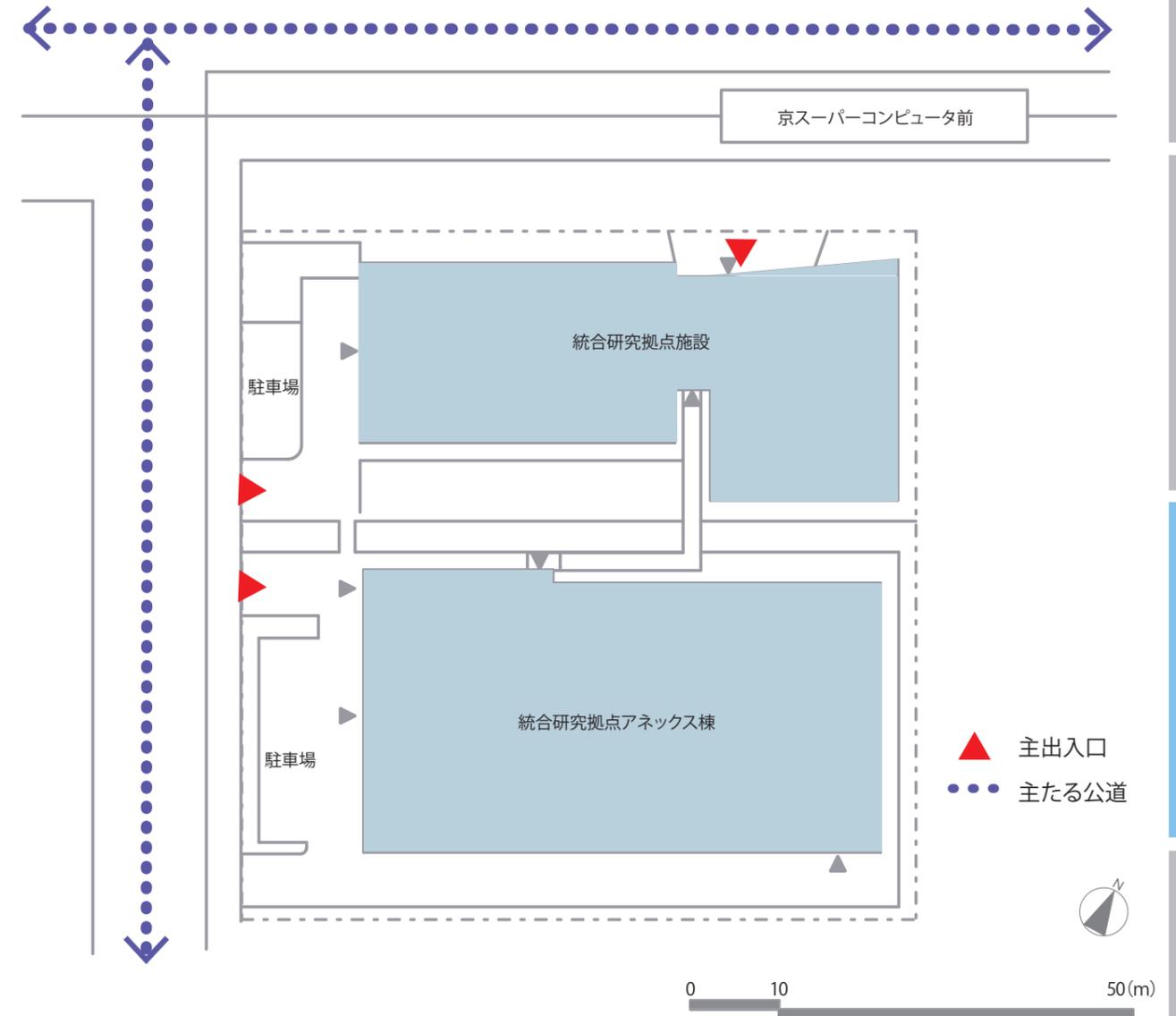
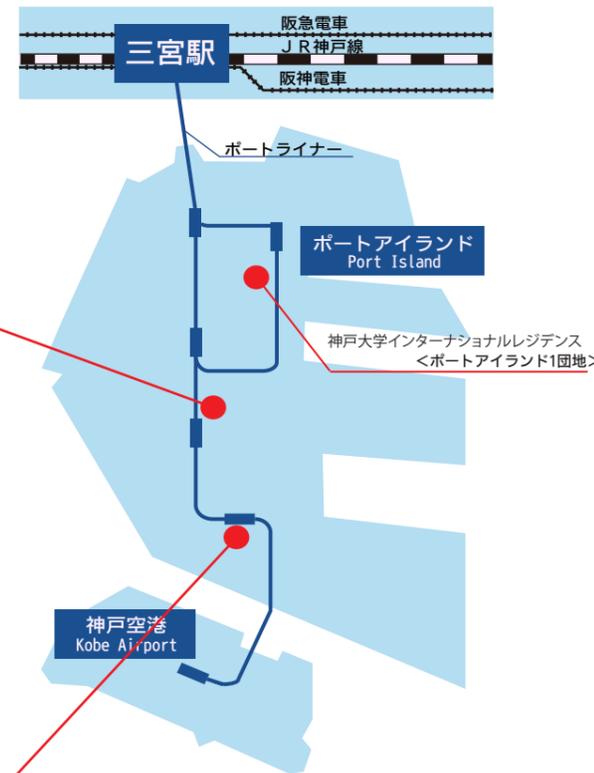
ポートアイランドキャンパス



インキュベーション施設 (BTセンター) 国際がん医療・研究センター
 <ポートアイランド2団地>



統合研究拠点/アネックス棟
 <ポートアイランド3団地>



キャンパスフレーム図

主な関係機関

- 独立行政法人 理化学研究所：多細胞システム形成研究センター (CDB)、ライフサイエンス技術基盤研究センター (CLST) 分子イメージング科学研究センター (CMIS)、計算科学研究機構 (AICS)
- 公益財団法人 先端医療振興財団：先端医療センター (IBRI)、国際医療開発センター (IMDA) 神戸医療機器開発センター (MEDDEC)、神戸臨床研究情報センター (TRI)
- 公益財団法人 計算科学振興財団：(FOCUS)兵庫県、高度計算科学研究支援センター
- 神戸低侵襲がん医療センター
- 兵庫県立こども病院

4. 8つのキャンパスの部門別計画

4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-3. 楠キャンパス(国際がん医療・研究センター含む)

(1) キャンパスの概要

楠キャンパスは昭和43年に設置された神戸大学医学部及び医学部附属病院のキャンパスである。

立地については、神戸市内のほぼ中央にあり周辺にはJR東海道本線及び神戸高速鉄道と神戸市営地下鉄が走っている。団地南東部にはJR神戸駅及び高速神戸駅があり徒歩で約15分程また地下鉄大倉山駅より徒歩5分の所要時間である。

団地東側には小高い丘陵形の4ha近い広さを持つ大倉山公園が市道を隔てて隣接し、付近には住宅や商店街の他、神戸市中央体育館、神戸市文化会館、湊翔楠中学校、湊川神社等の公共性の高い施設に恵まれ、埋蔵文化財包蔵地(楠・荒田町遺跡)として指定されている等、文化面・自然環境面共に恵まれた良好な場所にある。

団地西側は、病院の玄関であり国道428号線(幅員25m)に面して市営バスが通っており附属病院を訪れる外来患者のアクセスとなっている。

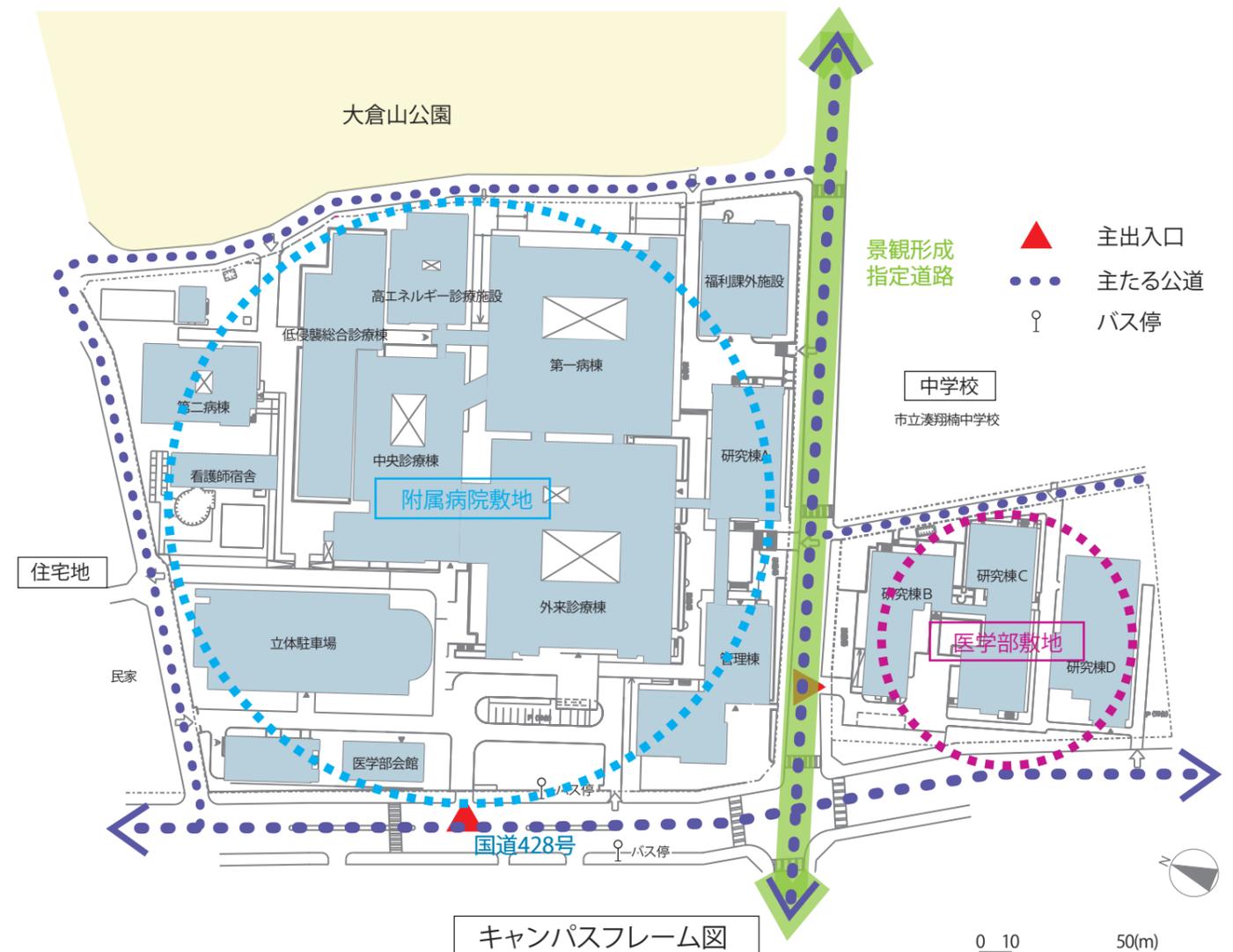
■楠キャンパスの概要データ(H27.5現在)

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・位置:兵庫県神戸市中央区楠町7-5 ・学部等:医学部(医学科), 附属病院(本院), 附属図書館医学部分館 ・敷地面積:51,063㎡ ・建物延べ面積:146,600㎡ ・建ぺい率:52.0% ・容積率:287.0%(附属病院敷地:299.0%) ・人口:約1850人 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域地区等(神戸市都市計画他):
第2種住居地域(60/200)
高度地区
防火地域
景観地区
宅地造成工事規制区域
埋蔵文化財包蔵地 |
|---|--|



(2) キャンパスの現状と課題・方針

- ・都市計画上の建築可能ボリュームが限界に達しており、附属病院の発展に支障を来している。今後の地域医療の発展には都市機能・地域社会への貢献と併せて敷地全体に渡る新たなキャンパス整備計画が必要。
- ・キャンパス全域で神戸市による景観形成地区の指定を受けている。この地区の主旨を踏まえ、周囲の自然環境や文化施設を活かしたキャンパス景観の向上を図る。
- ・築30年以上経過し老朽化している施設について、施設機能を改善するための計画が必要。
- ・課外活動施設の在り方について、検討が必要
- ・PFI駐車場の譲渡後の運用方法が不明確であり、検討が必要。



4.8つのキャンパスの部門別計画

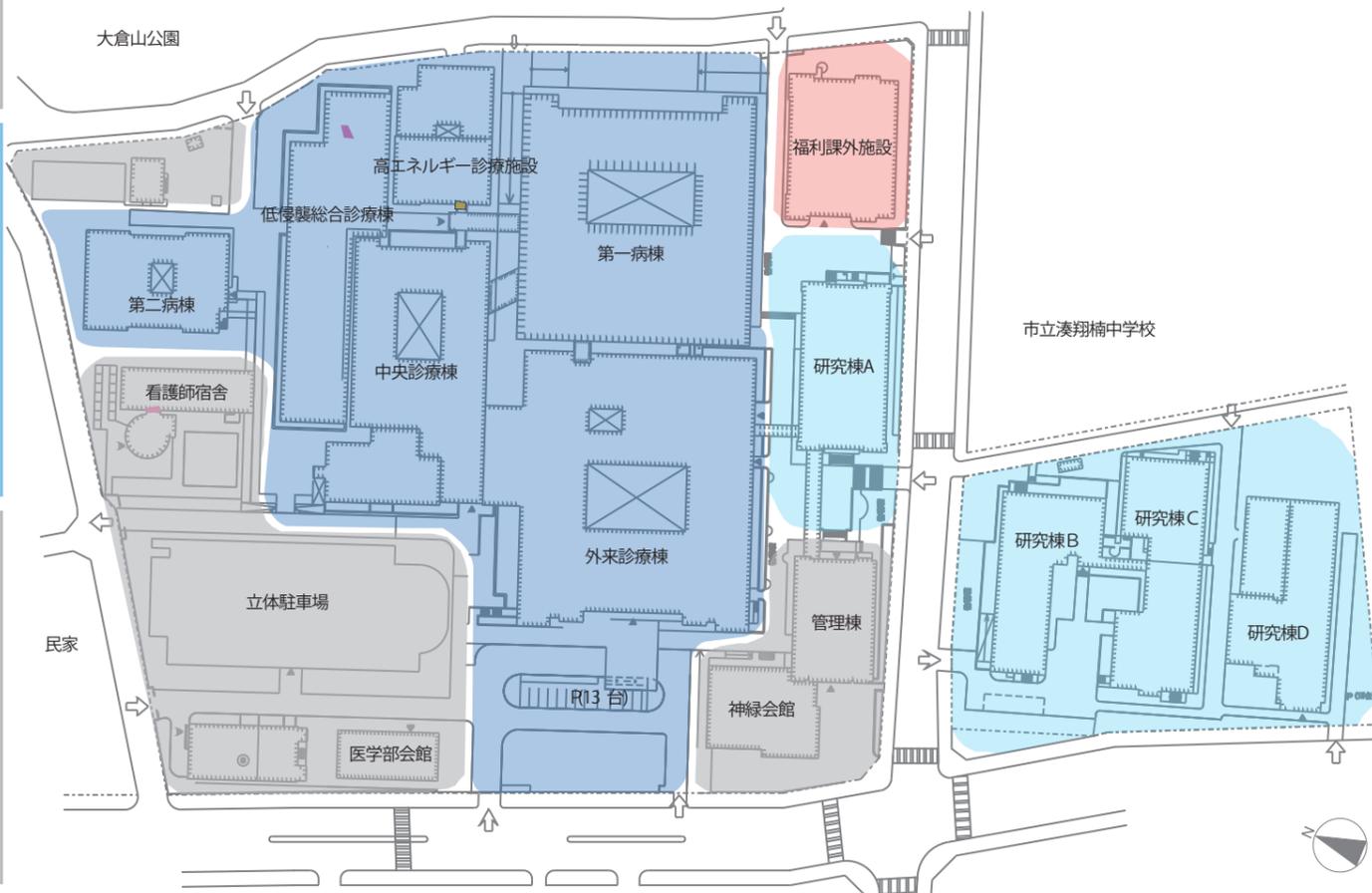
4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-3. 楠キャンパス(国際がん医療・研究センター含む)

(3) ゾーニング計画

楠キャンパスゾーンは、近年再検討再構築が重ねられ、まとまったゾーン構成と各ゾーンの有機的な連携が構築されようとしている。この計画をおしすすめ、各ゾーンの相互の関係を有機的なものにし、地域との連携を深めていくため、必要な機能を付加していくことが求められる。

- 病院施設ゾーン
- アカデミックゾーン
- アメニティーゾーン
- 管理ゾーン

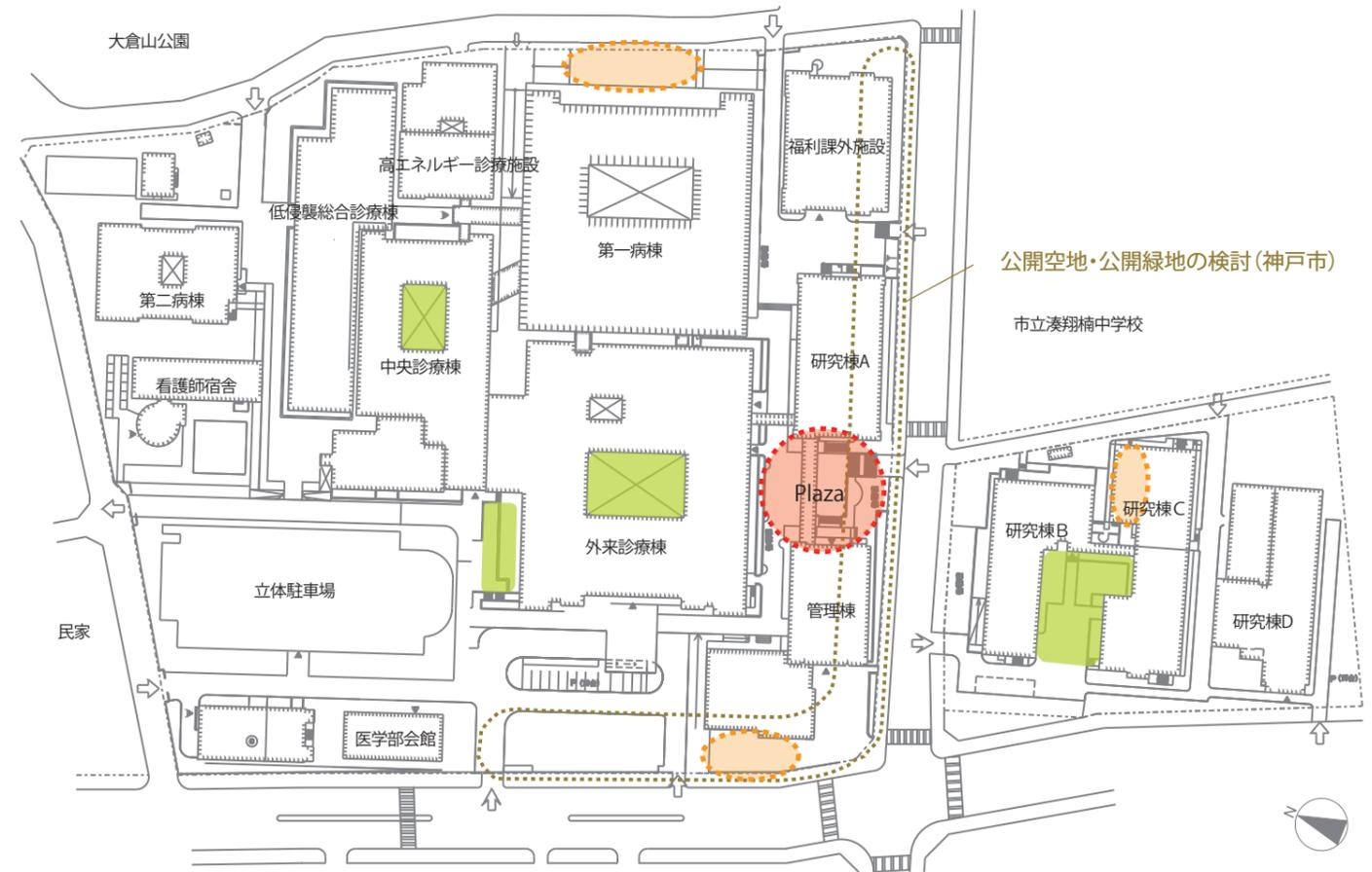


0 10 50(m)

(4) パブリックスペース計画

休憩・リフレッシュに供する場、学生・研究者同士の活発なコミュニケーションを促す場、及び、避難場所等の防災に資する空地として、公共のオープンスペースを適所に配置計画し、整備を検討する。また、敷地の高度利用に伴い必要となる公開空地・公開緑地について検討を行う。

- Plaza シンボル空間として、広場(Plaza)を設ける。学生やキャンパスを訪れた人々にやすらぎと潤いを与える計画とする。整備に当たっては、木々や現存する緑地等を残す配慮を行う。
- Park 歩行者路の結節点や入口付近に広場(Park)を設ける。学生、施設利用者の溜まりの場所となるよう賑わいのある交流空間として計画を行う。
- Court 建物の配置により囲まれた結果、生じたこの四角い中庭(Court)は、学生達や施設利用者のリフレッシュ空間として機能する。ベンチ等のファニチュアなども一体的に計画し、機能的に配置を行う。



0 10 50(m)

4. 8つのキャンパスの部門別計画

4-2. 部門別計画(キャンパス別)

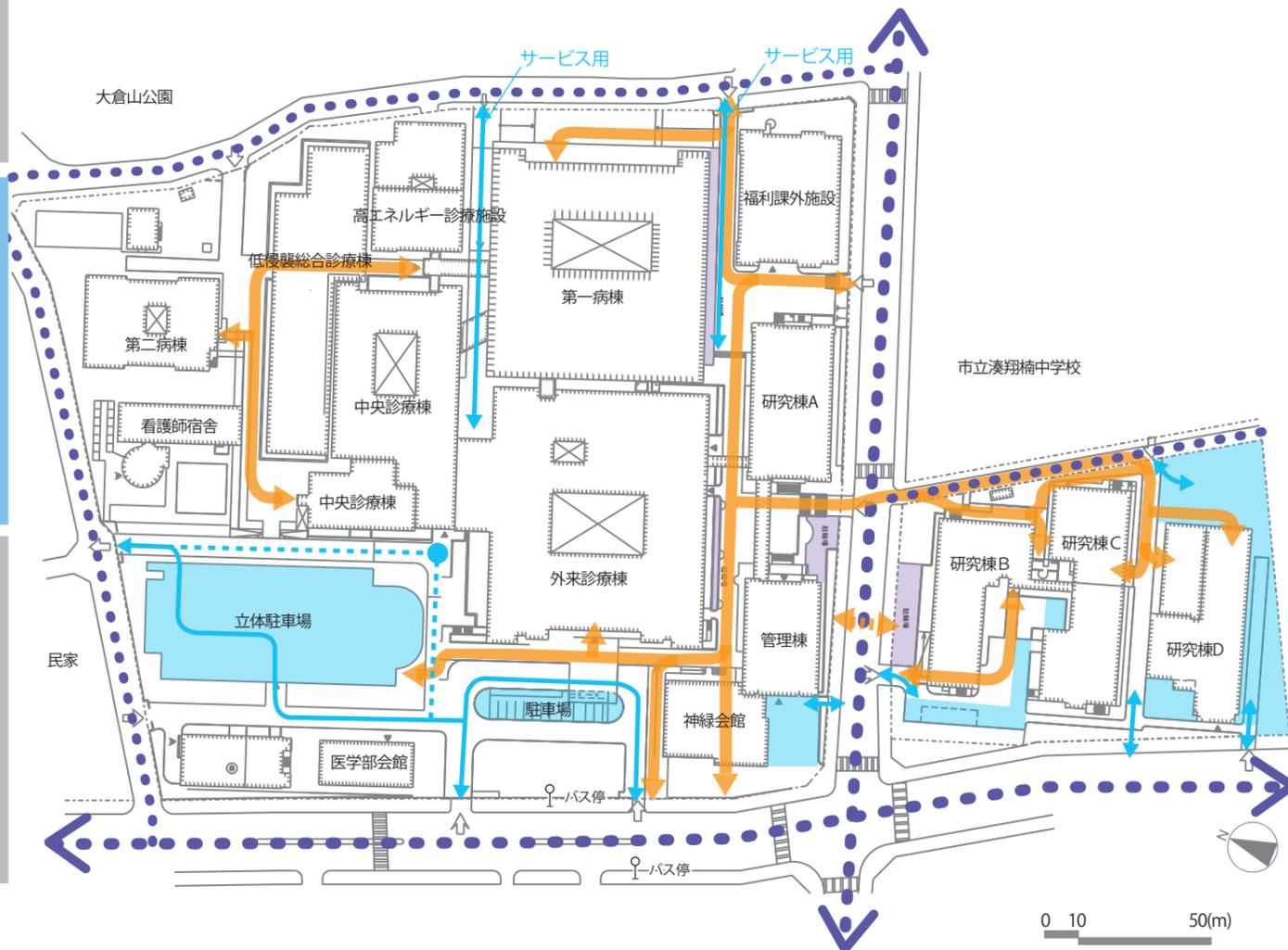
4-2-3. 楠キャンパス(国際がん医療・研究センター含む)

(5) キャンパス動線計画

車輛交通動線は駐車場の位置も含めほぼ整備されている。しかしバス停からの人の動線はスロープも含め、ユニバーサルデザインの配慮が望ましい。

- ・病院敷地と医学部敷地をつなぐ公共歩廊の検討
- ・診療棟、及び病棟内部の明解な動線整備の検討

- 自動車主要動線
- 救急車輛動線
- 歩行者(現状)
- 歩行者(計画)
- 主たる公道
- 駐車場
- 駐輪場

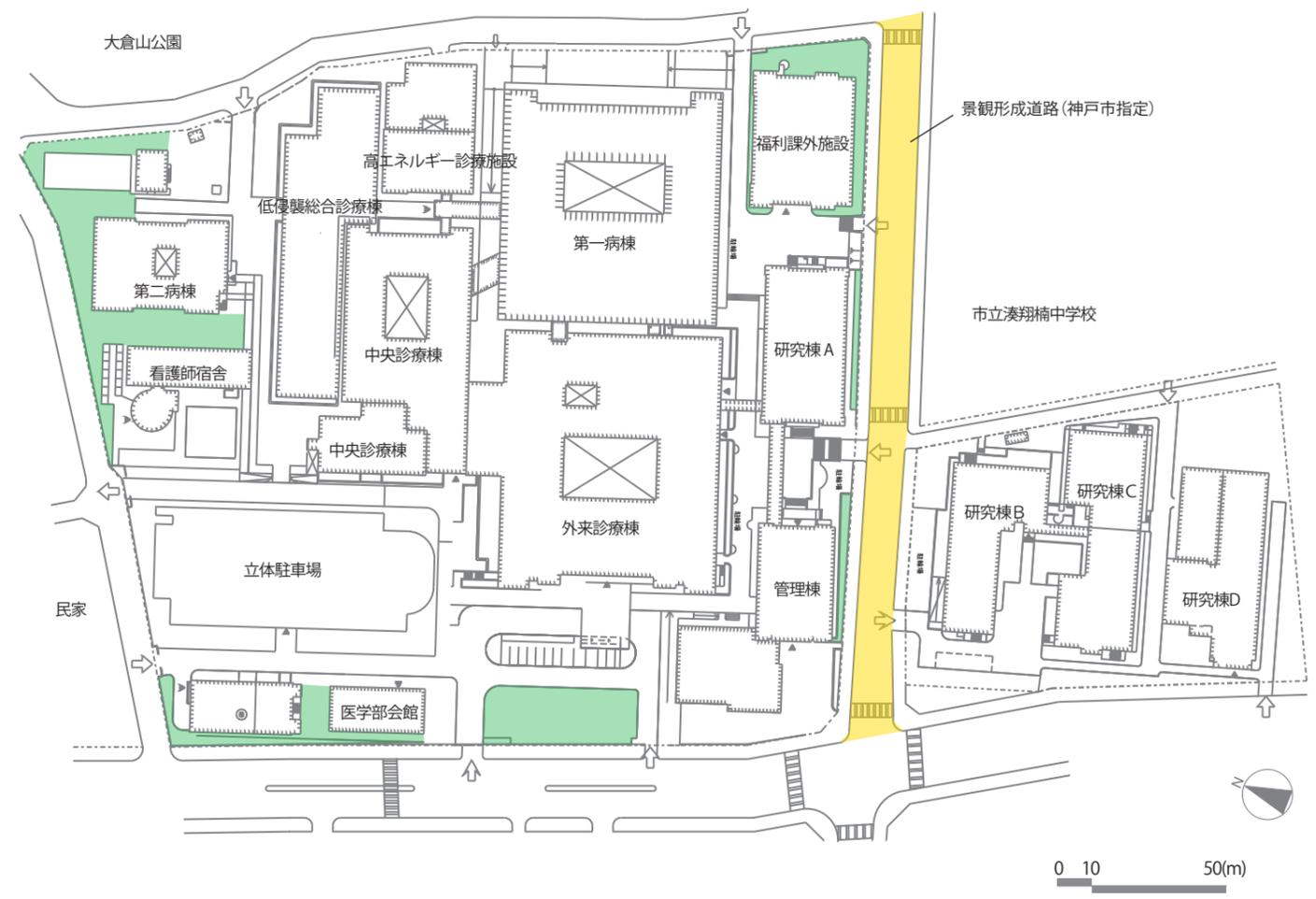


(6) 景観計画(緑地計画とランドスケープデザイン)

楠キャンパスは、神戸市が指定する「神戸駅・大倉山都市景観形成地域-大倉山ゾーン」に位置している。この指定地域の主旨(※)に沿った整備を推進することで、地域と一体となった良好な景観形成を目指す。

(※) 建築物等の意匠は質の高い落ちついたものとし、周辺の緑と一体となつてうおいと親しみのあふれるものに誘導する。

- 緑地(保存緑地)
- ビューコリダー(眺望路)



4. 8つのキャンパスの部門別計画

4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-3. 楠キャンパス(国際がん医療・研究センター含む)

(7) キャンパスの概要(国際がん医療・研究センター)

平成16年に設置したインキュベーション施設(BTセンター)があるポートアイランド2キャンパスに国際がん医療・研究センターを平成29年に設置する。

キャンパスは、神戸港内にある人工島の神戸ポートアイランド中央地区にあり、神戸新交通ポートライナーの医療センター駅のすぐ東側に位置する。キャンパスの周囲には神戸市立医療センター中央市民病院や兵庫県立こども病院などの医療施設などがあり、『神戸医療産業都市』として、高度な医療の提供を目指す病院等が集積している。

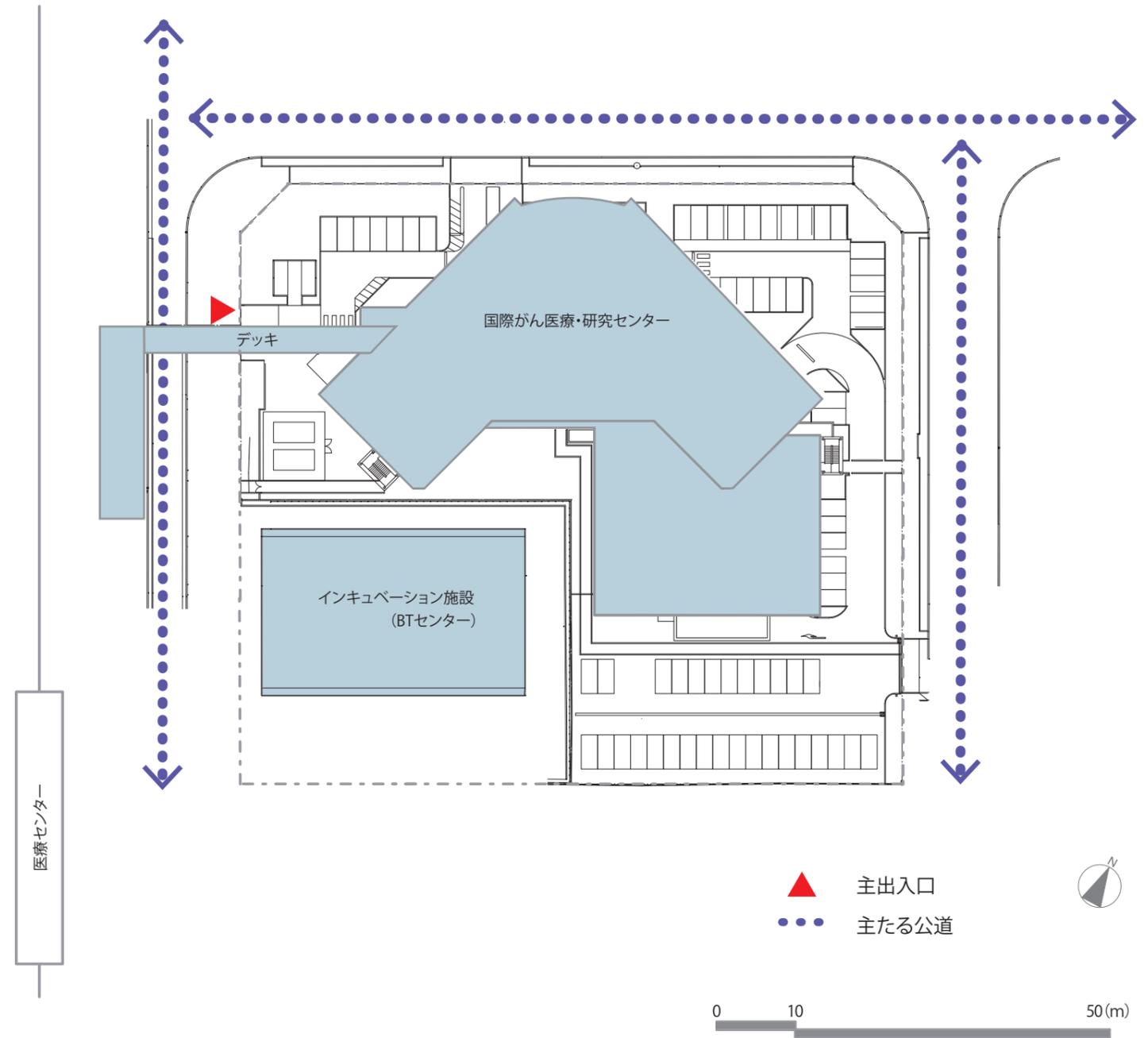
■ポートアイランド2キャンパスの概要データ(H29.1現在)

- ・位置:兵庫県神戸市中央区港島南町1-5-1,6
 - ・学部等:医学部附属国際がん医療・研究センター
インキュベーション施設(BTセンター)
 - ・敷地面積:8,395㎡
 - ・建物延べ面積:16,317㎡
 - ・建ぺい率:38.0% 容積率:177.0%
 - ・人口:約60人(予定)
- ・地域地区等(神戸市都市計画他):
商業地域
地区計画(ポートアイランド南地区)



(8) キャンパスの現状と課題・方針(国際がん医療・研究センター)

- ・周辺の様々な医療機関が、ひとつの場所に集積・連携することにより、市民への高度な医療サービスの提供、事業者等の新たな事業機会の創出、さらには国際貢献を行うことを目指す。



キャンパスフレーム図

4. 8つのキャンパスの部門別計画

4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-4. 名谷キャンパス

(1) キャンパスの概要

名谷キャンパスは昭和51年に設置され、現在神戸大学医学部保健学科として利用されているキャンパスである。

立地については、緑豊かで閑静な北須磨団地の一角に位置し、周囲には中学校や専門学校等の文教施設と良好な住宅団地に囲まれている。また、かつて医療技術短期大学部であった時代から地域住民と積極的に交流してきた経緯があり、地域社会の中の大学キャンパスとしての役割を担っている。

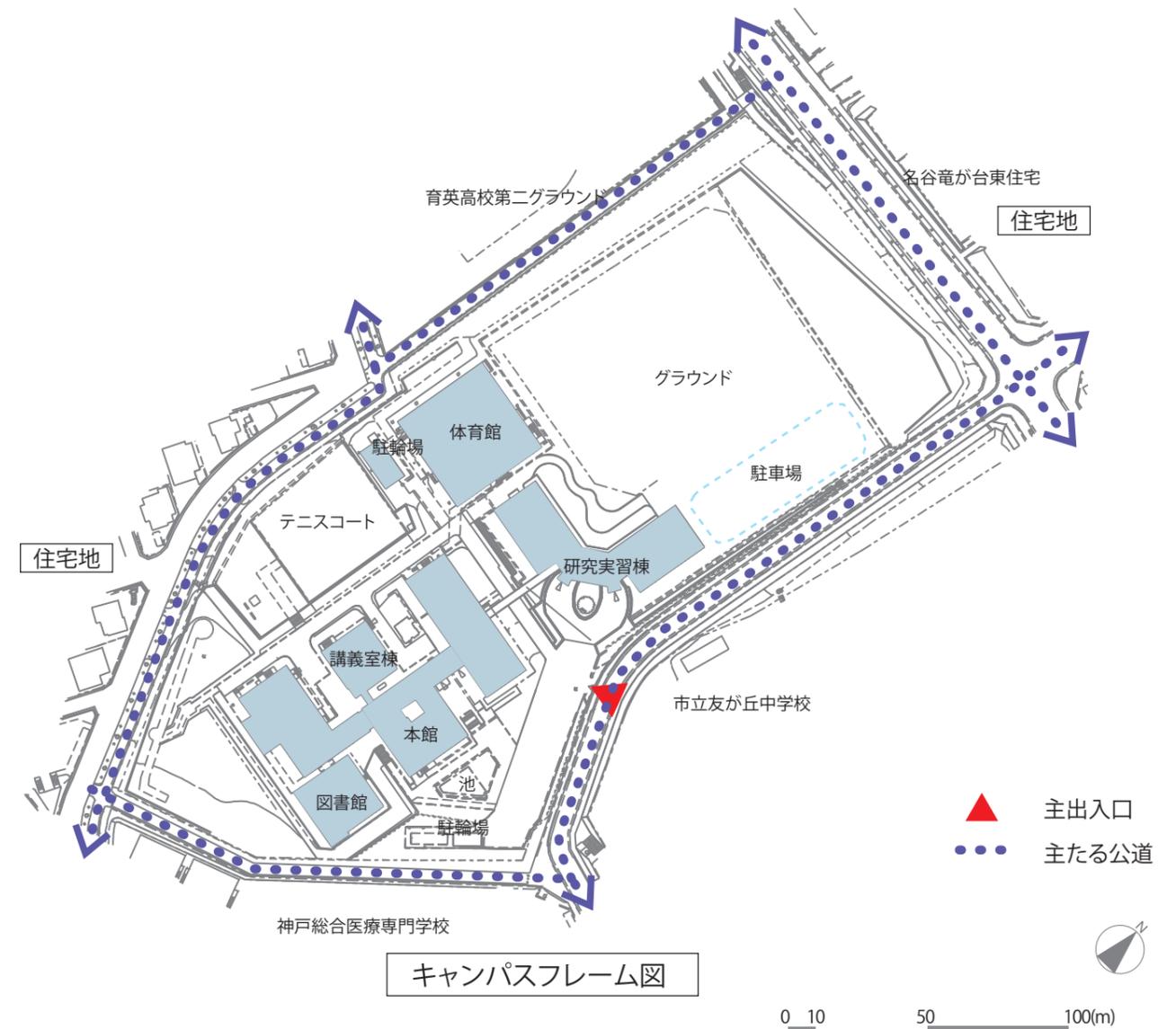
■名谷キャンパスの概要データ(H27.5現在)

- ・位置: 兵庫県神戸市須磨区友が丘7-10-2
 - ・学部等: 医学部(保健学科)
 - ・敷地面積: 33,330㎡
 - ・建物延べ面積: 17,547㎡
 - ・建ぺい率: 16.0% 容積率: 53.0%
 - ・人口: 約830人
- ・地域地区等(神戸市都市計画他):
第1種中高層住居専用地域(60/150)
高度地区
準防火地域
景観地区
宅地造成工事規制区域



(2) キャンパスの現状と課題・方針

- ・地域社会に開かれた大学として、都市のシンボリック存在として位置づけられるようなキャンパスを目指す。
- ・市街地の中のアメニティー空間として、キャンパス内に緑地とオープンスペースを充実させる。
- ・キャンパス利用者全てに優しい、ユニバーサルデザインに基づいた構内通路や設備・サイン整備を推進する。
- ・築30年以上経過し老朽化している施設について、施設機能の改善するための計画が必要。
- ・課外活動施設の在り方について、検討が必要。



4. 8つのキャンパスの部門別計画

4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-4. 名谷キャンパス

(3) ゾーニング計画

名谷キャンパスは、既に機能上まとまったゾーン構成になっている。将来的にこれらのゾーン配置を基本としつつ、各ゾーン相互の関係、地域との関係を深めていくため必要な機能を付加していく計画とする。

- アカデミックゾーン
- アメニティーゾーン
- メディアリソースゾーン
- 運動施設ゾーン
- 地域連携ゾーン
- 管理ゾーン



(4) パブリックスペース計画

休憩・リフレッシュに供する場、学生・研究者同士の活発なコミュニケーションを促す場、及び、避難場所等の防災に資する空地として、公共のオープンスペースを適所に配置計画し、整備を検討する。

- Plaza シンボル空間として、広場(Plaza)を設ける。地域住民と積極的に交流してきた経緯から、食堂周辺を中心に、オープンカフェを整備する等、南側緑地を中心とする地域連携エリアの整備と市民開放を検討し、学生やキャンパスを訪れた人々にやすらぎと潤いを与える計画とする。整備に当たっては、木々や現存する緑地等を残す配慮を行う。
- Park 歩行者路の結節点や入口付近に広場(Park)を設ける。Footpassの結節点で学生の溜まりの場所となる。緑と賑わいのある交流空間として計画を行う。



4. 8つのキャンパスの部門別計画

4-2. 部門別計画(キャンパス別)

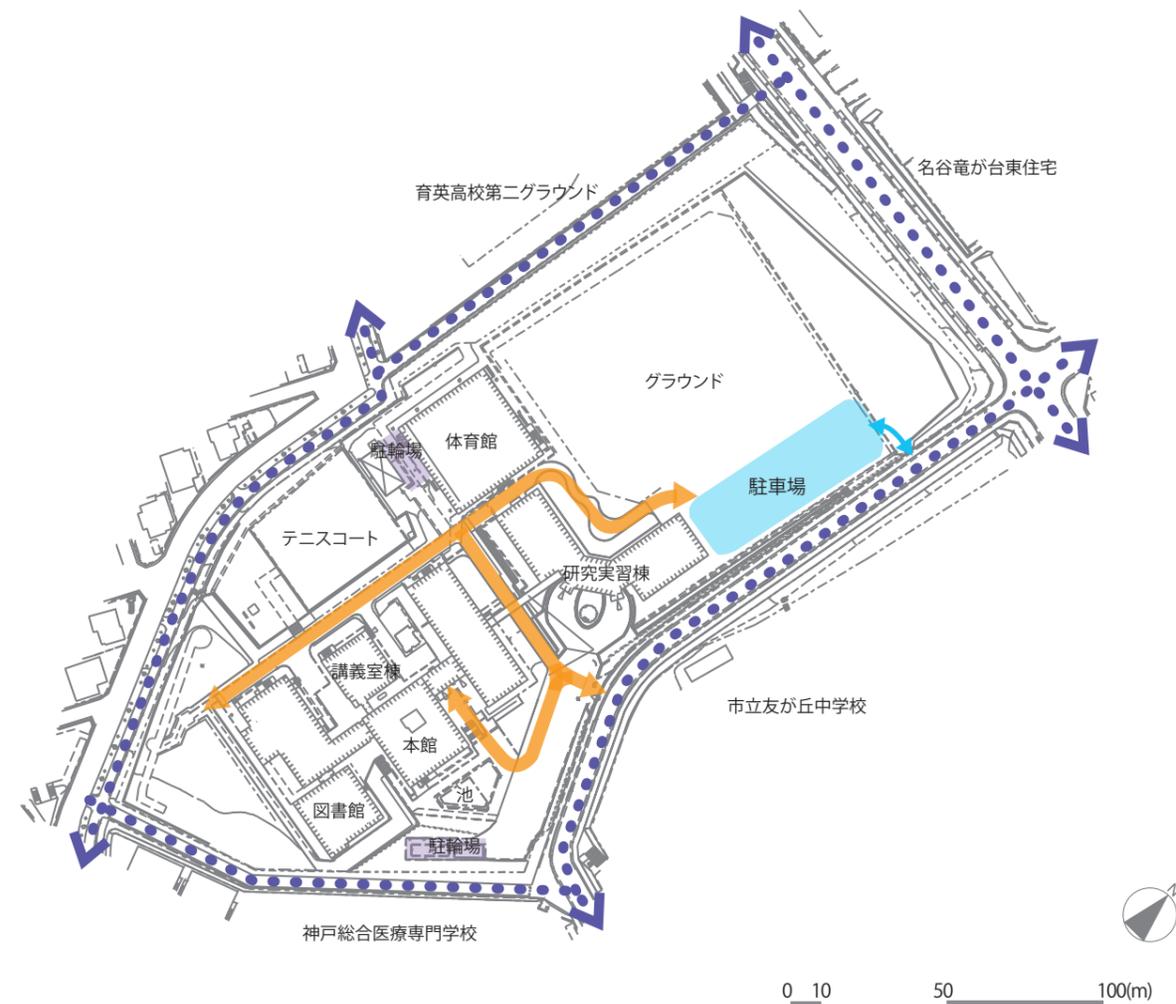
4-2-4. 名谷キャンパス

(5) キャンパス動線計画

名谷キャンパスの歩車交通環境の現状は、動線が混乱しているため、歩車分離を行うための施設整備を行う。

- ・学生の駐輪場も足りないため、駐輪場の集約・整備

- 自動車主要動線
- 歩行者
- 主たる公道
- 駐車場
- 駐輪場



(6) 景観計画(緑地計画とランドスケープデザイン)

地域社会の中のキャンパスとして、キャンパス内外に魅力的な景観を形成すべく、緑化を主としたエコロジカルなランドスケープを実現していくことを目指す。

- 緑地(保存緑地)
- 緑の資源
- ランドマーク(景観建築物)



4. 8つのキャンパスの部門別計画

4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-5. 深江キャンパス

(1) キャンパスの概要

深江キャンパスは神戸大学の海事科学部を擁するキャンパスである。海事科学部は、神戸商船大学が2003年(平成15年)に神戸大学と統合して発足した学部であり、当時のキャンパスをそのまま受け継ぎ今に至る。

立地については国道43号線に面した神戸市街地の臨海部に位置しており、海洋に関する教育研究の他、船舶を使った実習等、海事科学部独特のカリキュラムの実践の場として機能している。

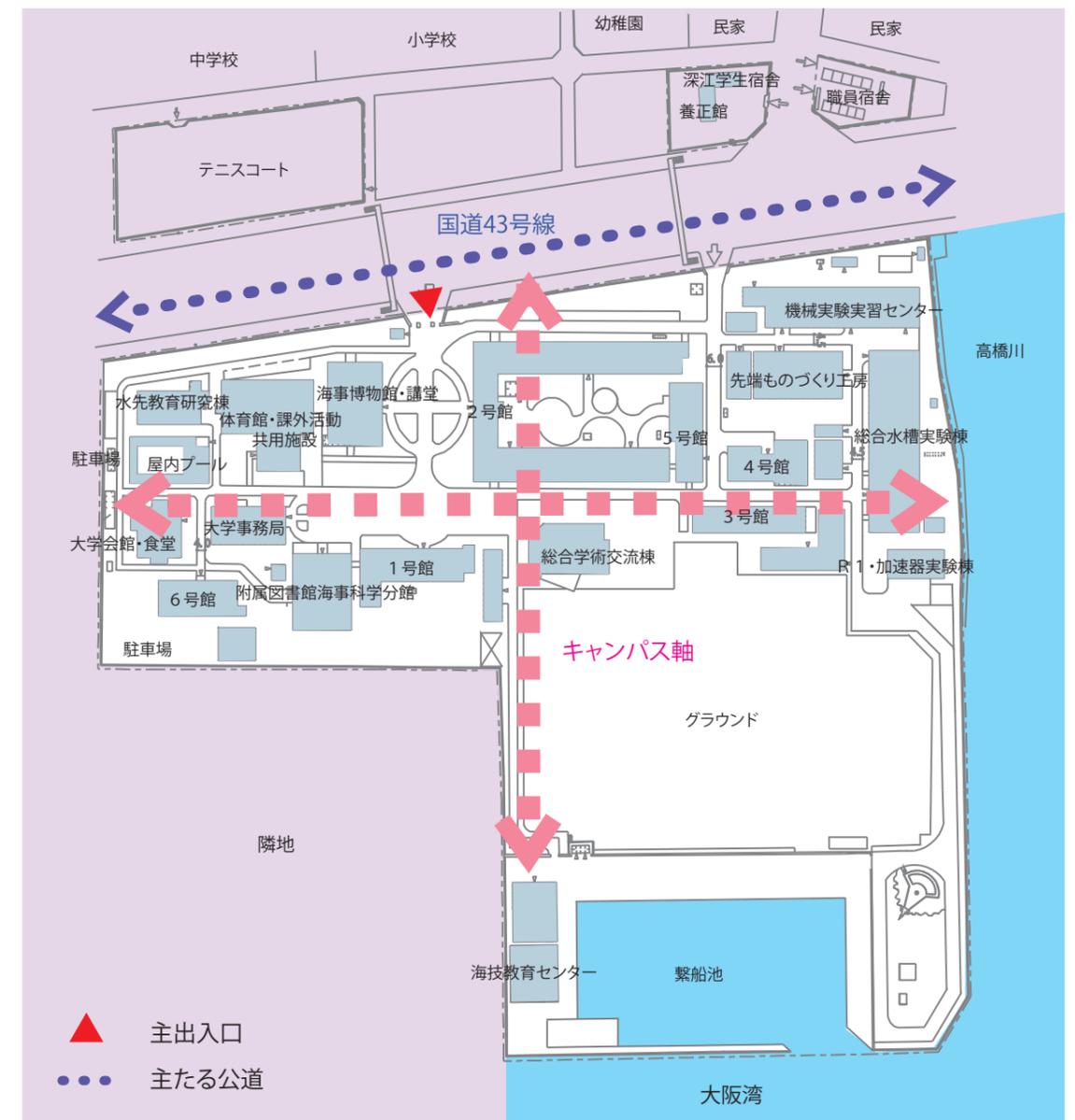
■ 深江キャンパスの概要データ (H27.5現在)

- ・位置: 兵庫県神戸市東灘区深江南町5-1-1
 - ・学部等: 海事科学部
 - ・敷地面積: 94,547㎡
 - ・建物延べ面積: 41,535㎡
 - ・建ぺい率: 20.0% 容積率: 44.0%
 - ・人口: 約880人
- ・地域地区等(神戸市都市計画他):
第1種住居地域(60/200)
高度地区
準防火地域
水道, 下水道等供給施設又は処理施設
港湾地区



(2) キャンパスの現状と課題・方針

- ・アクセスのよい立地を活かし、地域公開・地域利用を推進するべく、公開に資する施設・設備及びオープンスペースの整備をすすめる。
- ・交通量の多い国道43号線による騒音・排気ガスに対する対策を検討する。
- ・海に面した海拔3メートルの敷地は津波による被害の恐れがあるため、対策を検討する。
- ・築30年以上経過し老朽化している施設について、施設機能の改善するための計画が必要。
- ・課外活動施設の在り方について、検討が必要。



キャンパスフレーム図

0 10 50 100(m)

4. 8つのキャンパスの部門別計画

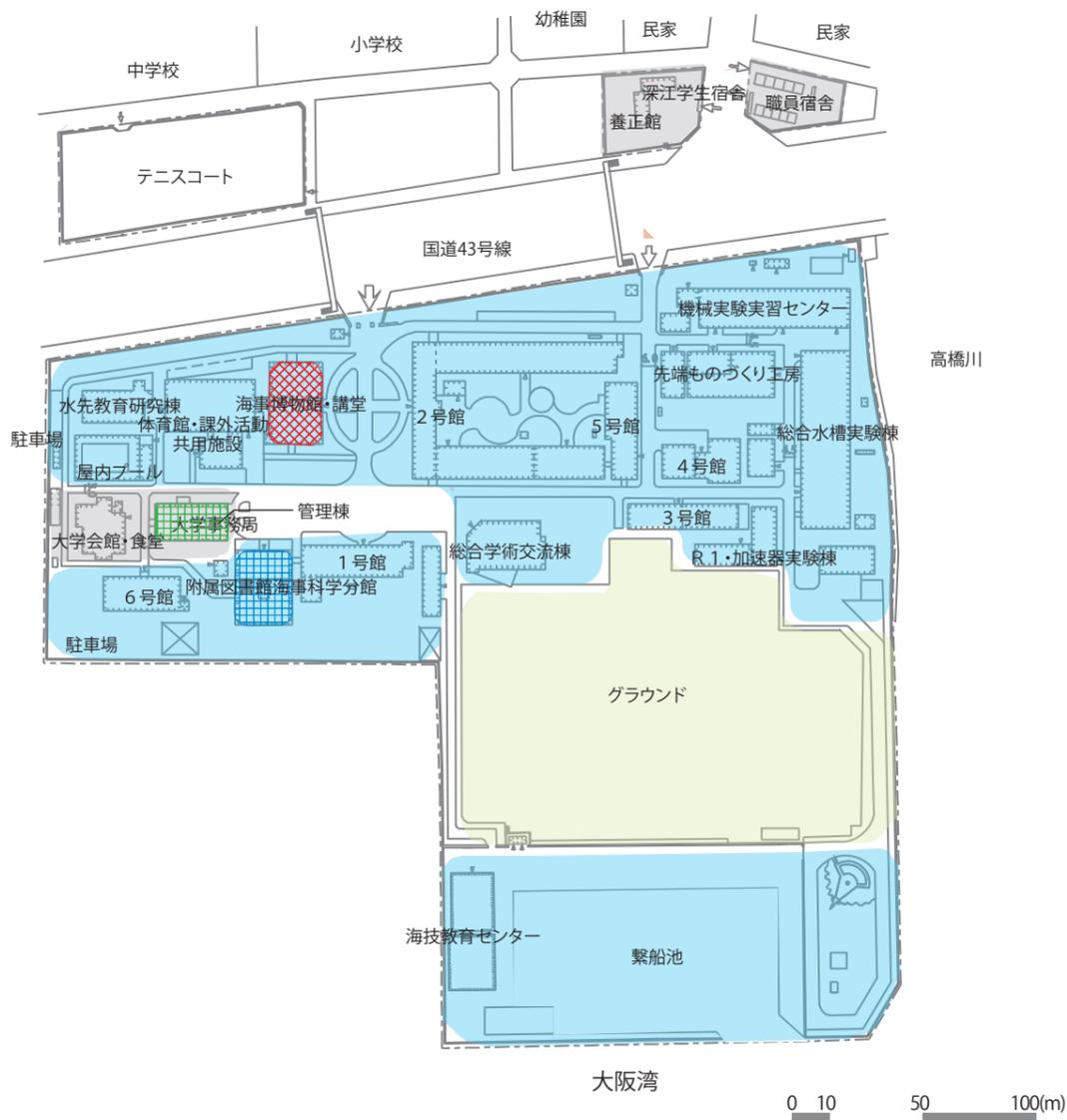
4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-5. 深江キャンパス

(3) ゾーニング計画

深江キャンパスは教育の機能上まとまったゾーン構成となっている。そのゾーン相互の関係、地域との関連をますます深めていくため必要な機能を追加していくことが求められる。

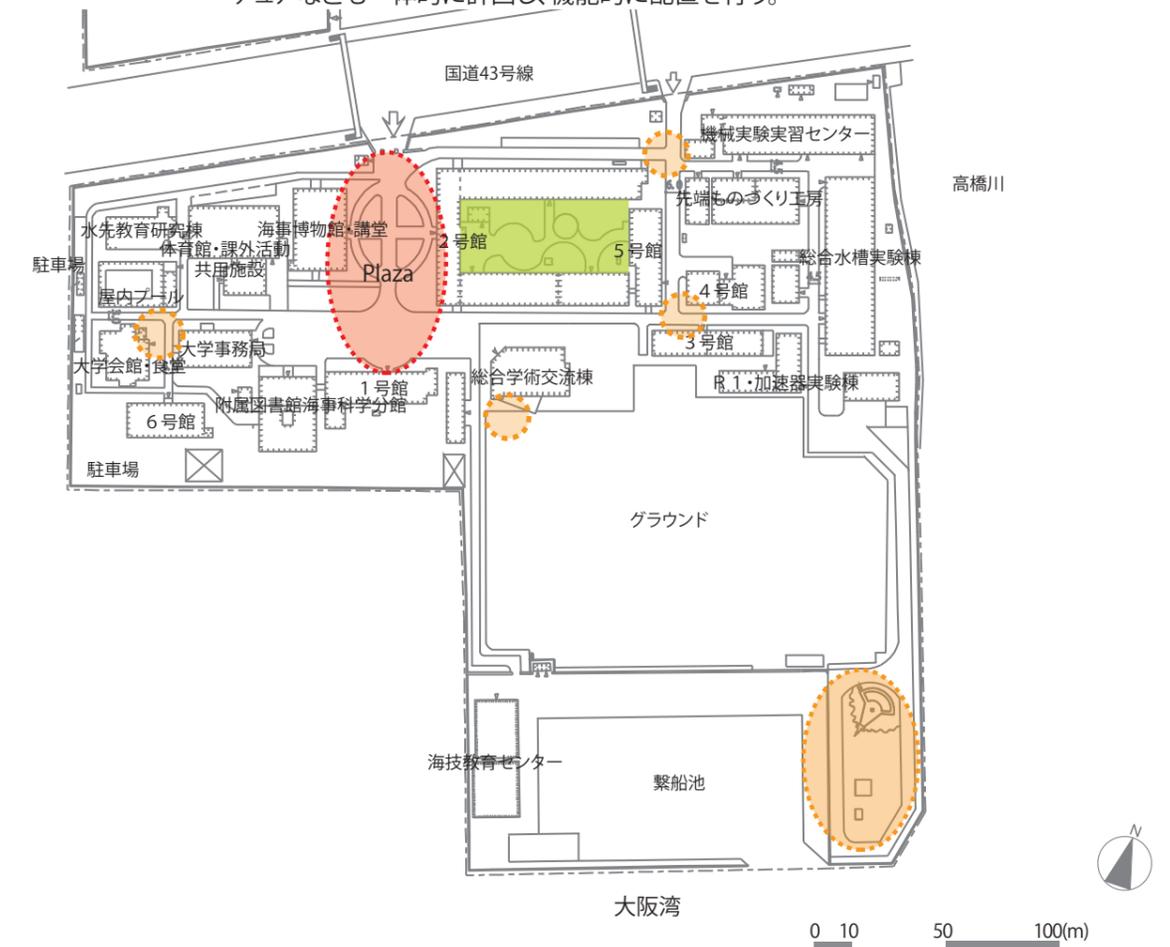
- アカデミックゾーン
- メディアリソースゾーン
- 運動施設ゾーン
- 管理ゾーン
- 地域連携ゾーン



(4) パブリックスペース計画

休憩・リフレッシュに供する場、学生・研究者同士の活発なコミュニケーションを促す場、及び、避難場所等の防災に資する空地として、公共のオープンスペースを適所に配置計画し、整備を検討する。美しいウォーターフロントを内部に抱きこんだ敷地でもあり、繋船池周辺も積極的に市民など楽しめる空間として整備するとともに、海事科学研究科の顔として、プロペラ、錨など海に関わる教育の場を象徴するものの展示など、特色ある環境整備を図る。

- Plaza シンボル空間として、広場(Plaza)を設ける。学生やキャンパスを訪れた人々にやすらぎと潤いを与える計画とする。整備に当たっては、現存する木々を生かした計画とする。
- Park 歩行者路の結節点や入口付近に広場(Park)を設ける。登校・下校の学生の溜まりの場所となる。緑と賑わいのある交流空間として計画を行う。
- Court 建物の配置により囲まれた結果、生じたこの四角い中庭(Court)は、研究や講義の合間の学生達のリフレッシュ空間として機能する。ベンチ等のファニチュアなども一体的に計画し、機能的に配置を行う。



4. 8つのキャンパスの部門別計画

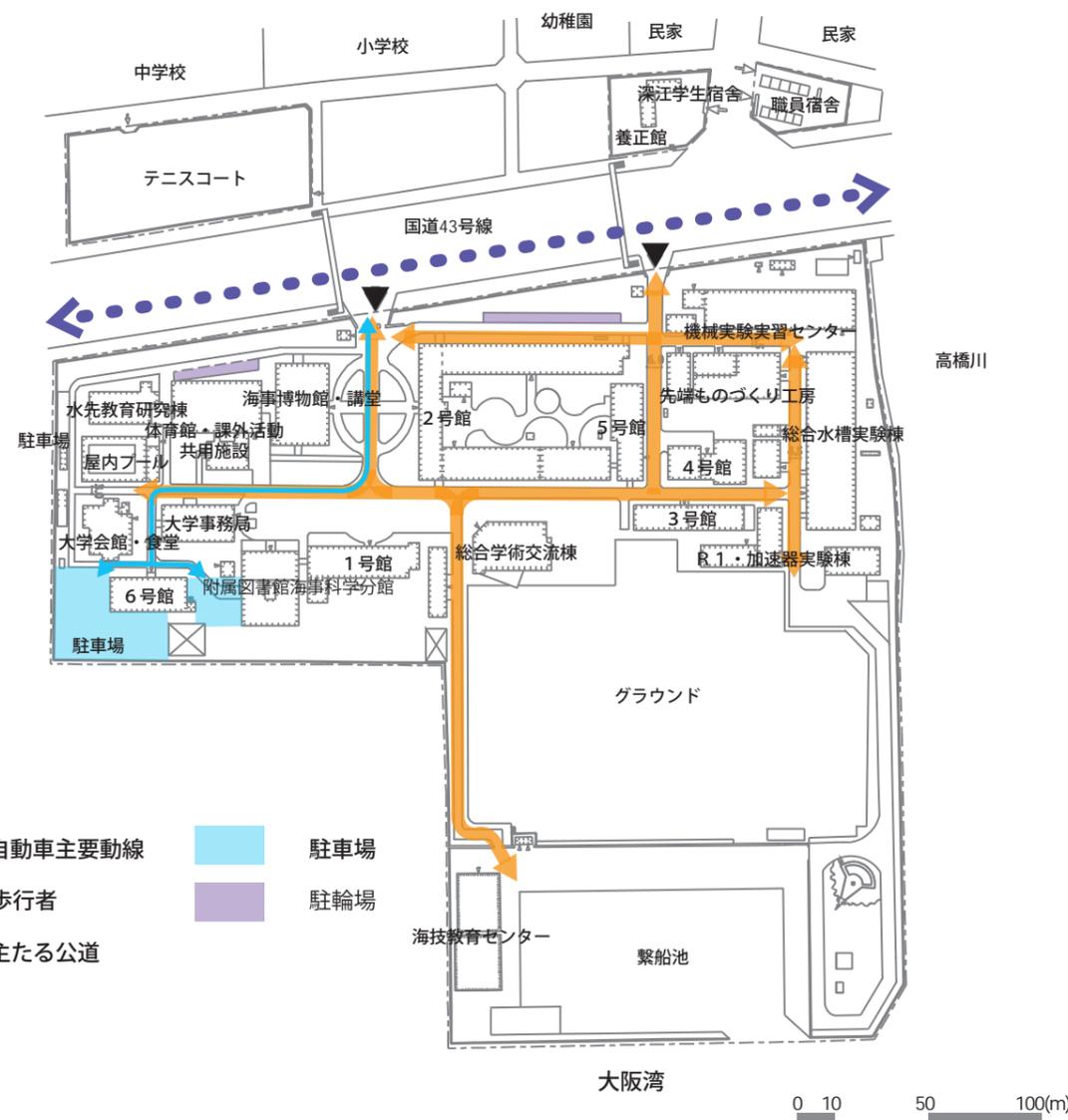
4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-5. 深江キャンパス

(5) キャンパス動線計画

現在、歩行者動線と自動車道線との重複が多いため、駐車場の集約整備、歩行者通路の整備を行い、安全・快適な構内交通を実現する。

- ・駐車場を南西角にまとめることによって、歩車分離を実現させる。
- ・敷地東側のソテツの並木道を継承・整備する。
- ・繋船池へ向かう南北に移動する通路を整備する。



(6) 景観計画 (緑地計画とランドスケープデザイン)

南東角に繋船池を持ち、北側には大木が点在する緑地を持っているキャンパスである。古い歴史を持って現在にいたっている。その歴史的景観を受けついで保存・継承させていくことが望まれる。

- 緑地 (保存緑地)
- 緑の資源
- サクラのリング・チェーン
- 並木
- ビューコリダー (眺望路)
- ➡ ビューポイント
- ランドマーク (景観エレメント)



4.8つのキャンパスの部門別計画

4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-6. 住吉キャンパス

(1) キャンパスの概要

住吉キャンパス(住吉1団地)は附属中等教育学校が設置されているキャンパスである。本キャンパスは、海拔164m余の六甲山の麓、赤塚山の南端で緑の多い高台に位置し、周辺には本学の学生宿舎があり、眺望は極めて良く自然とふれあいながら学習できる閑静な落ち着いた住宅街にある学校である。本団地付近は六甲山の南縁に辿り、多くの断層の活動による急崖が背後に迫っている地域で、裾部から南方に向けてなだらかに傾斜する丘陵地形をなしている。

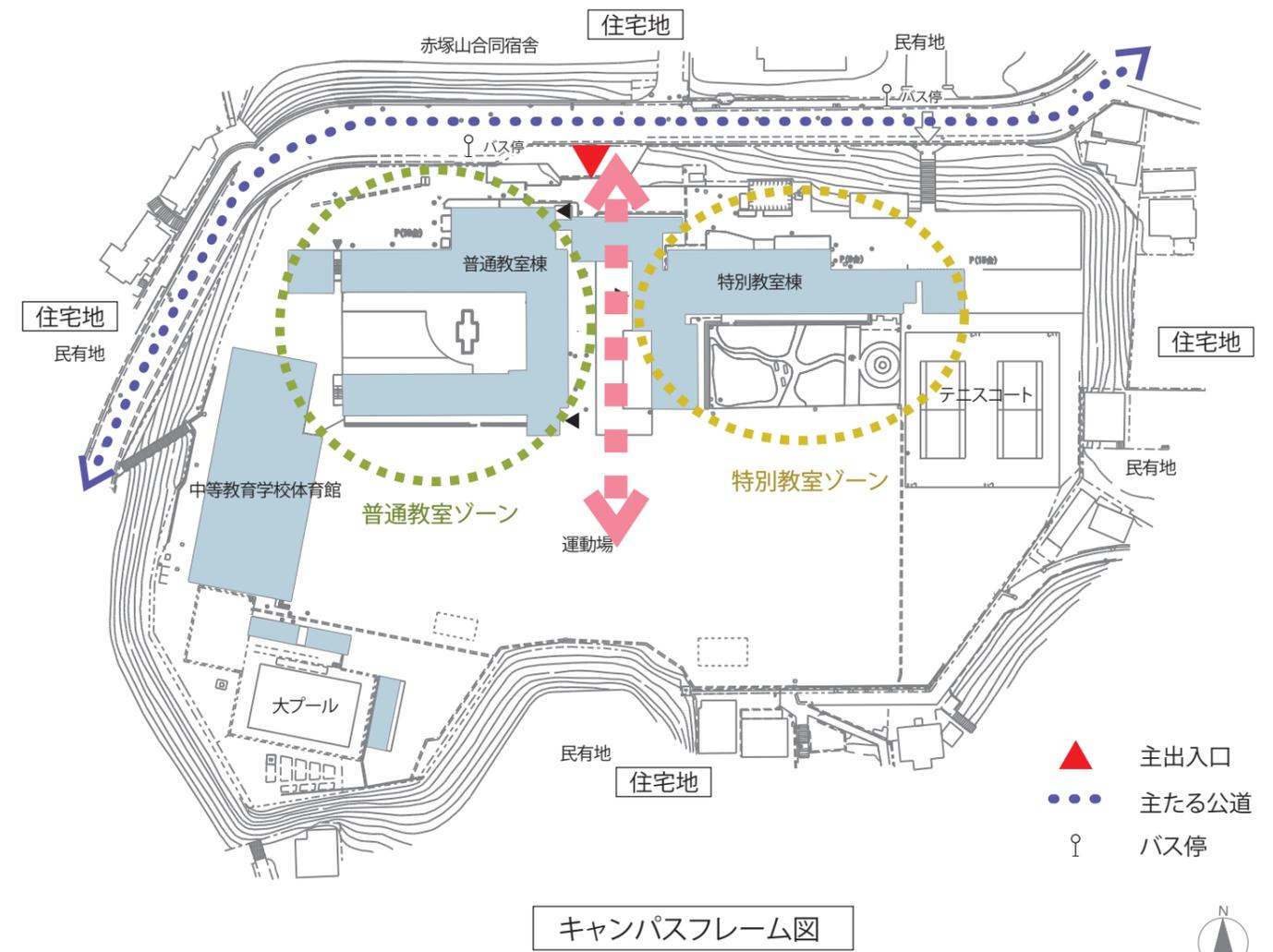
付近の地質は神戸層群と呼ばれる六甲山地の大部分を構成する花崗岩(軟岩)で、団地内は布引花崗閃緑岩が基盤岩類を覆って大阪群層、段丘堆積層及び崩壊土層が分布し、さらに人為的な造成盛り土が施されている。

(2) キャンパスの現状と課題・方針

- ・附属学校園の基本理念(社会を創造する知性を持ち、国際感覚にあふれた人材の育成をねらいとした教育を行い、心豊かな人づくりの推進に寄与する)にふさわしい場所として整備・維持保全に努める。
- ・中等教育学校のキャンパスとして、異なる年齢の生徒が共に心身を育むことのできるキャンパスを目指す。
- ・地域の中のキャンパスとして、生徒の安全を確保しつつ、地域交流を図る。
- ・近隣住民との良好な関係を維持するため、敷地周囲の法面等を適切に維持保全する。
- ・課外活動施設の在り方について、検討が必要。

■住吉キャンパス(住吉1団地)の概要データ(H27.5現在)

- ・位置:兵庫県神戸市東灘区住吉山手5-11-1
- ・学部等:附属中等教育学校(住吉校舎)
附属住吉小学校
- ・敷地面積:29,185㎡
- ・建物延べ面積:11,806㎡
- ・建ぺい率:17.0% 容積率:40.0%
- ・人口:約1490人
- ・地域地区等(神戸市都市計画他):
第1種中高層住居専用地域(60/200)
特別用途地区(文教施設)
高度地区
風致地区
宅地造成工事規制区域



0 10 50 100(m)

4. 8つのキャンパスの部門別計画

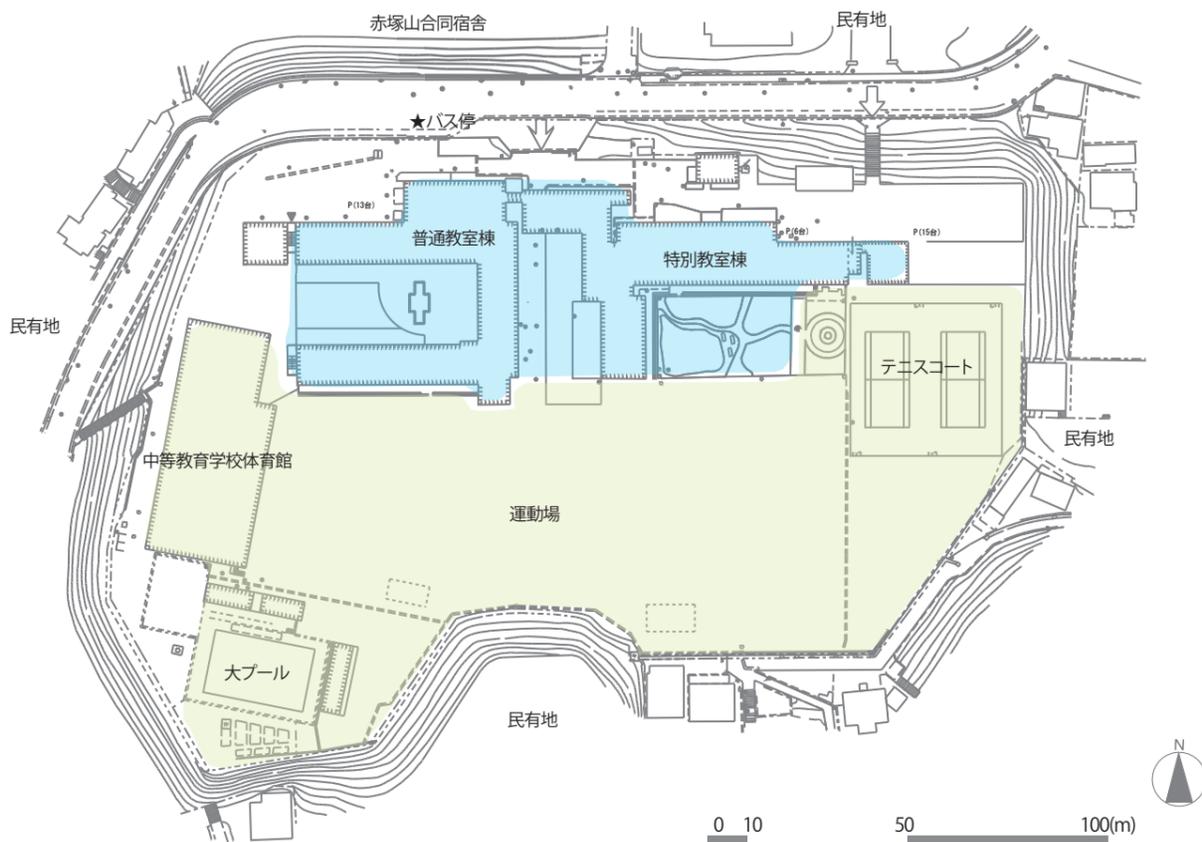
4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-6. 住吉キャンパス

(3) ゾーニング計画

住吉キャンパスは機能的にまとまったゾーニング計画がすでに進行している。その上で各ゾーン相互の関係、地域との関係を深めていくため必要な機能を付加していくことが求められる。

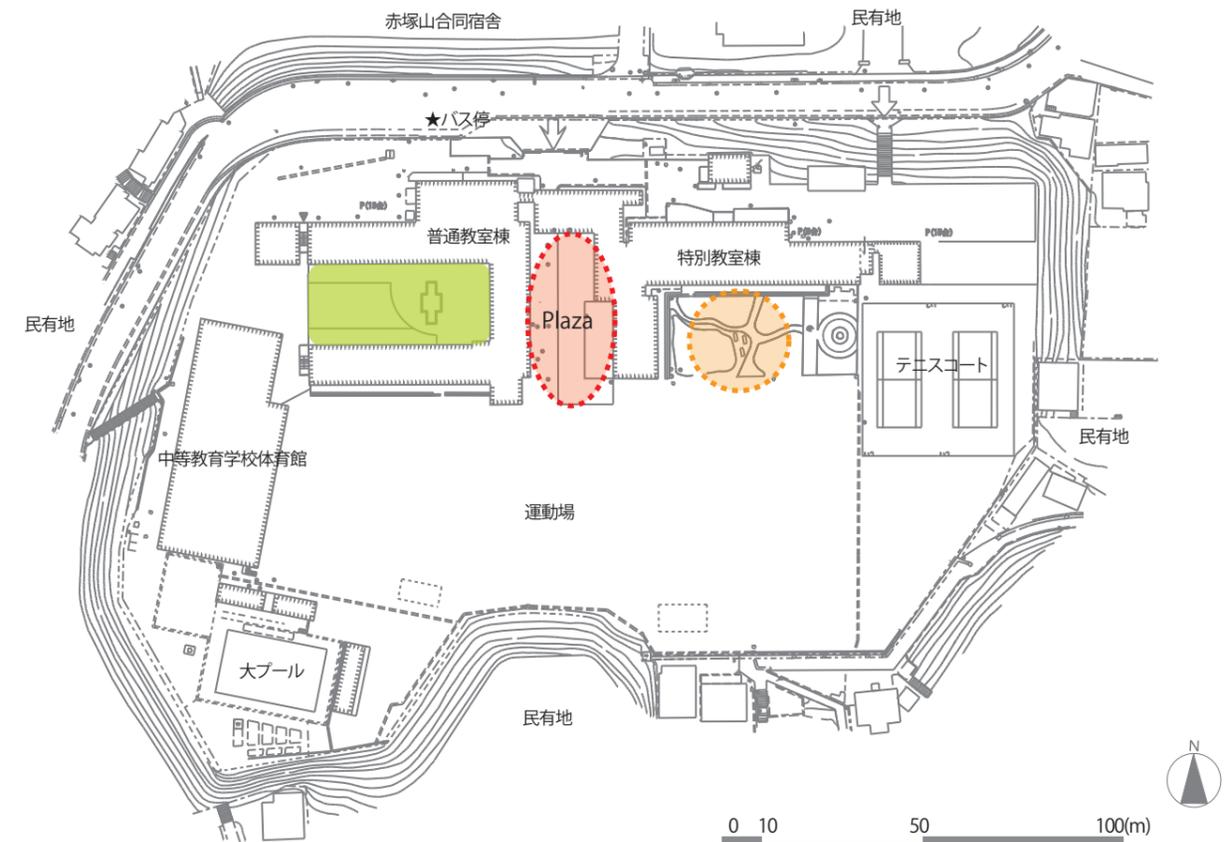
- アカデミックゾーン
- 運動施設ゾーン



(4) パブリックスペース計画

休憩・リフレッシュに供する場、生徒・児童・先生同士の活発なコミュニケーションを促す場、及び、避難場所等の防災に資する空地として、公共のオープンスペースを適所に配置計画し、整備を検討する。オープンスペースの性格づけを行い、北、西の斜面地の緑化、保全を行うと同じに、南側の傾斜地の整備計画を行うことによってより豊かな緑地の保全が期待される。

- Plaza シンボル空間として、広場(Plaza)を設ける。生徒・児童やキャンパスを訪れた人々にやすらぎと潤いを与える計画とする。整備に当たっては、木々や緑地を生かした計画とする。
- Park 歩行者路の結節点や入口付近に広場(Park)を設ける。授業の合間等の生徒児童の溜まりの場所となる。緑と賑わいのある交流空間として計画を行う。
- Court 建物の配置により囲まれた結果、生じたこの四角い中庭(Court)は、授業の合間の生徒・児童達のリフレッシュ空間として機能する。ベンチ等のファニチュアなども一体的に計画し、機能的に配置を行う。



4.8つのキャンパスの部門別計画

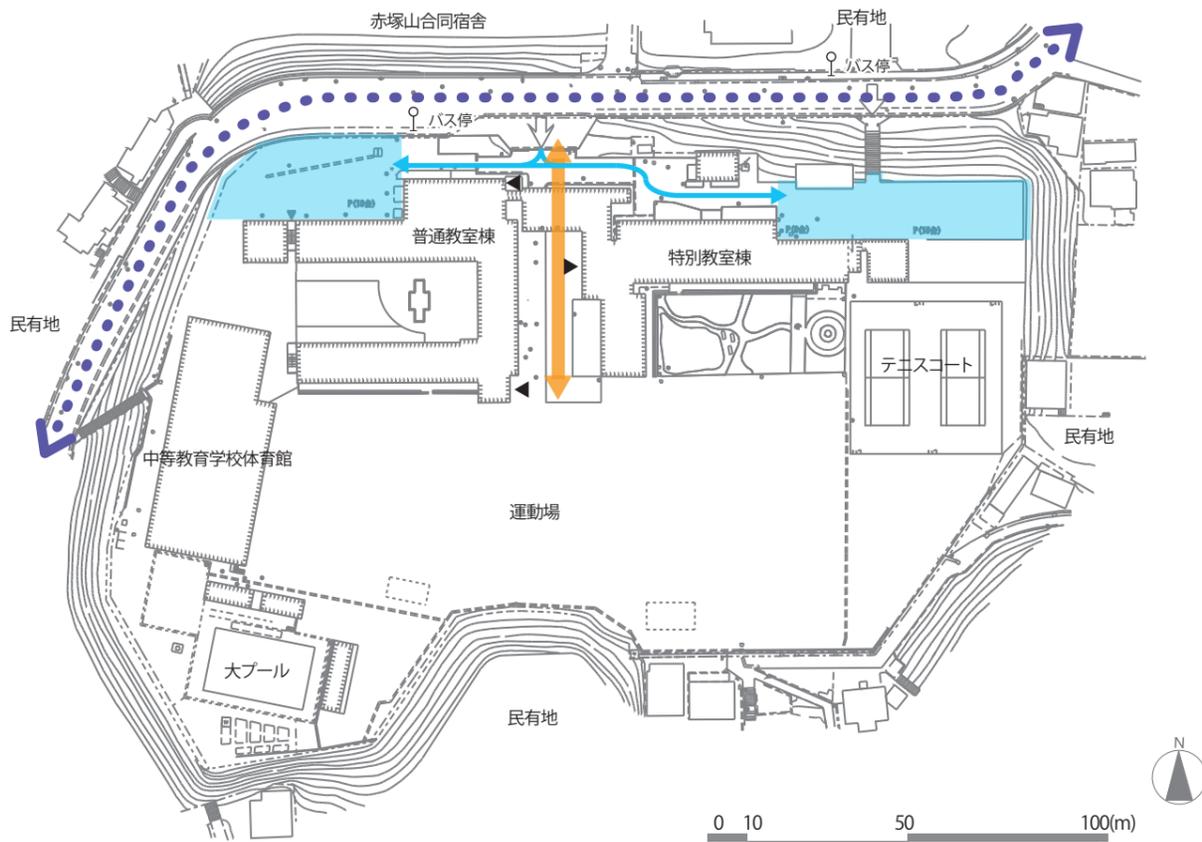
4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-6. 住吉キャンパス

(5) キャンパス動線計画

登下校する生徒・児童に配慮し、歩車分離を基本とする安全対策を図る。なお、歩行車動線と自動車動線の重なる構内出入口付近については、交通整理員による人的対応に加え、各動線を安全に区画すべく歩車道の整備を図る。

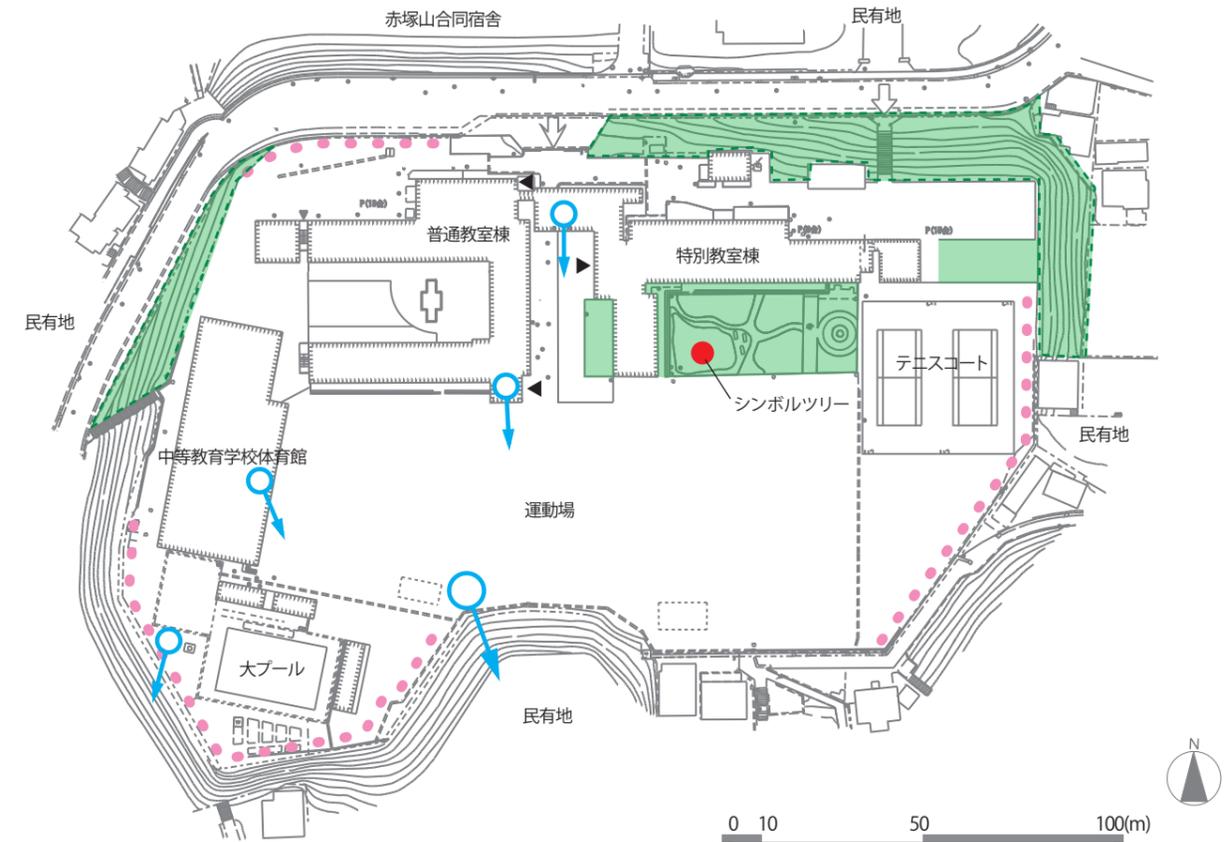
-  自動車主要動線
-  歩行者
-  主たる公道
-  駐車場



(6) 景観計画(緑地計画とランドスケープデザイン)

六甲山系を背にし、海を望む美しい景観・環境の中にあるキャンパスである。斜面地の保全と緑化とともにキャンパスの景観を守り、育てていく。

-  緑地(保存緑地)
-  緑の資源
-  サクラのリング・チェーン
-  ランドマーク
-  ビューポイント



4.8つのキャンパスの部門別計画

4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-7. 明石キャンパス

(1) キャンパスの概要

明石キャンパス(明石団地)は神戸大学附属明石校における小学校・幼稚園を擁するキャンパスである。

明治37年開校の本キャンパスは、JR明石駅から東に徒歩約5分、明石公園東の閑静な住宅地の中に位置する。東に明石天文科学館、明石海峡大橋を臨み、南に明石漁港、フェリー乗り場、魚の棚商店街、明石市役所と街の中心が広がる。西は、明石城跡公園、明石川と自然に恵まれ、北は、明石図書館、文化博物館をはじめ、人丸神社や月照寺などの神社仏閣に取り囲まれている。

本団地は、背後にそびえる山々が低い丘陵をなし、それが海岸まで及んでいる地域を造成したものである。

付近に分布する地層としては下層部を硬い洪積層、固結している粘性土層で、上層部は柔らかい沖積粘土層(砂を少量含む)で構成されている。

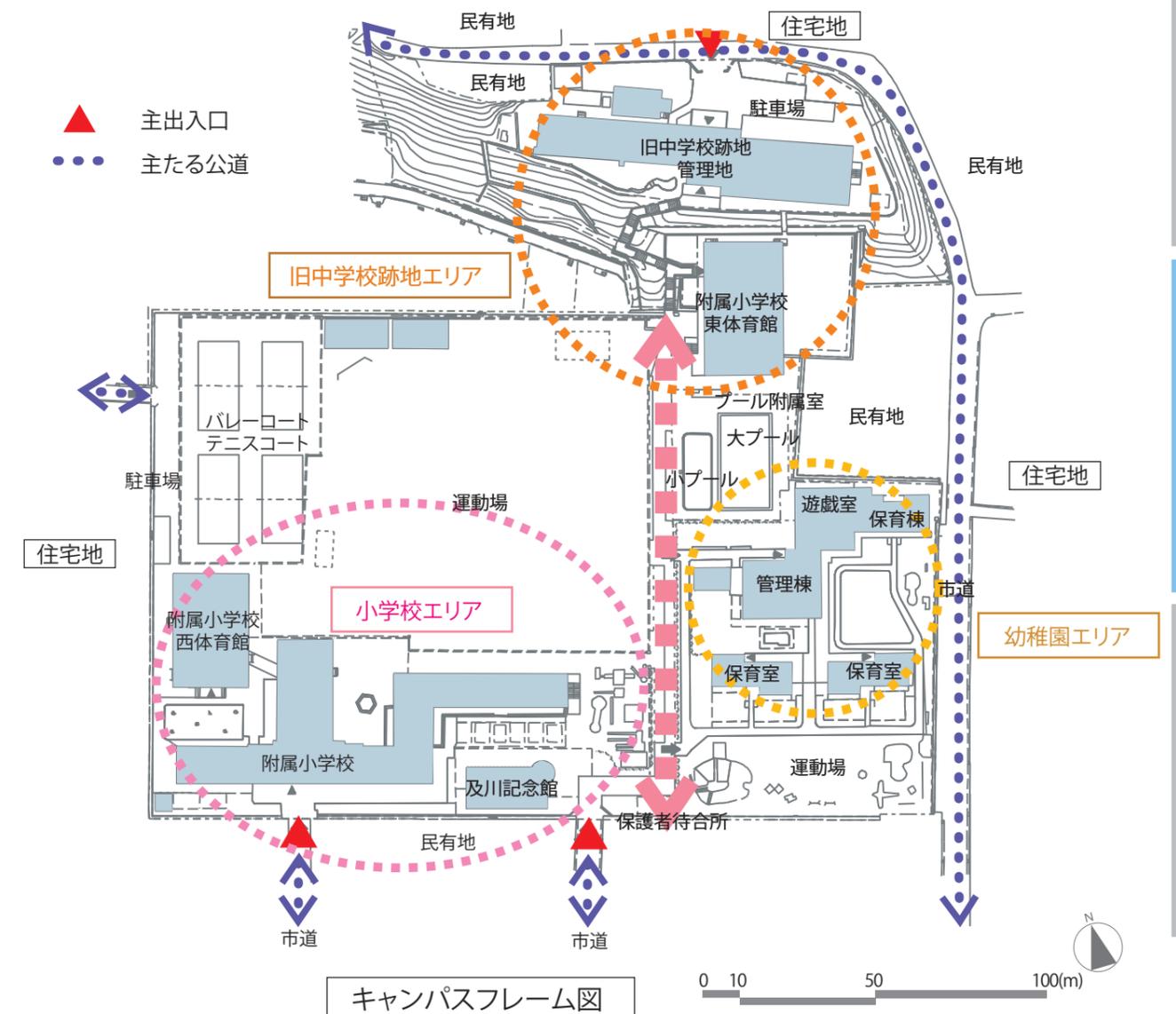
■明石キャンパス(明石団地)の概要データ(H27.5現在)

- ・位置:兵庫県明石市山下町3-4
- ・学部等: 附属小学校
附属幼稚園
- ・敷地面積:33,773㎡
- ・建物延べ面積:9,634㎡
- ・建ぺい率:18.0% 容積率:29.0%
- ・人口:約1160人
- ・地域地区等(明石市都市計画他):
第2種中高層住居専用地域(60/200)
高度地区



(2) キャンパスの現状と課題・方針

- ・附属学校園の基本理念(社会を創造する知性を持ち、国際感覚にあふれた人材の育成をねらいとした教育を行い、心豊かな人づくりの推進に寄与する)にふさわしい場所として整備・維持保全に努める。
- ・広く学校教育、家庭教育、社会教育の振興に寄与すべく、人間発達環境学研究科及び発達科学部の実践研究及び学生の教育実習の場として、適切な環境を提供する。
- ・旧附属明石中学校敷地は土地売却も含めた施設の有効利用を検討する。
- ・築30年以上経過し老朽化している施設について、施設機能の改善するための計画が必要。
- ・課外活動施設の在り方について、検討が必要。



4.8つのキャンパスの部門別計画

4-2. 部門別計画(キャンパス別)

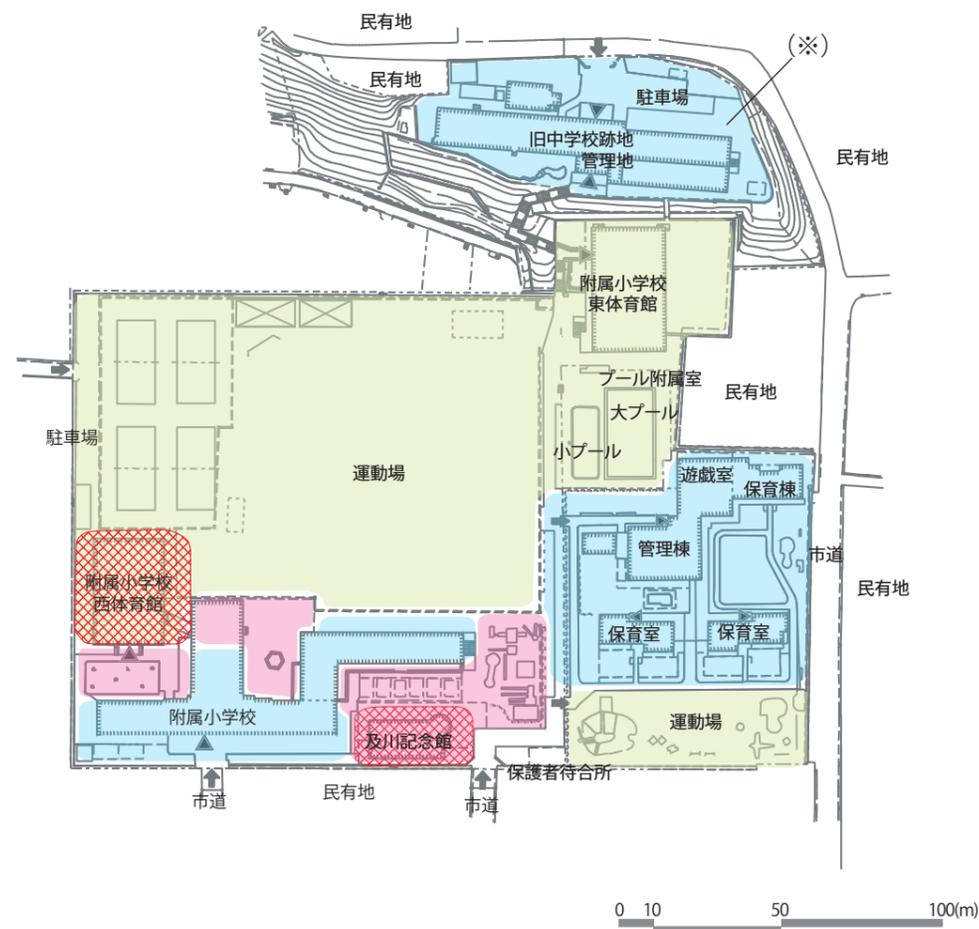
4-2-7. 明石キャンパス

(3) ゾーニング計画

明石キャンパスは昭和12年に建設された本館(歴史的な価値のある小学校)を中心に増改築を行ってきた。ゾーニングは機能的に不具合が見受けられる。将来計画として、各ゾーンの相互の関係や地域に向けての開放性を押しすすめるため、必要な機能を付加しつつ計画をすすめるようにする。

(※)旧中学校跡地は資産上の活用方法について検討を進める。

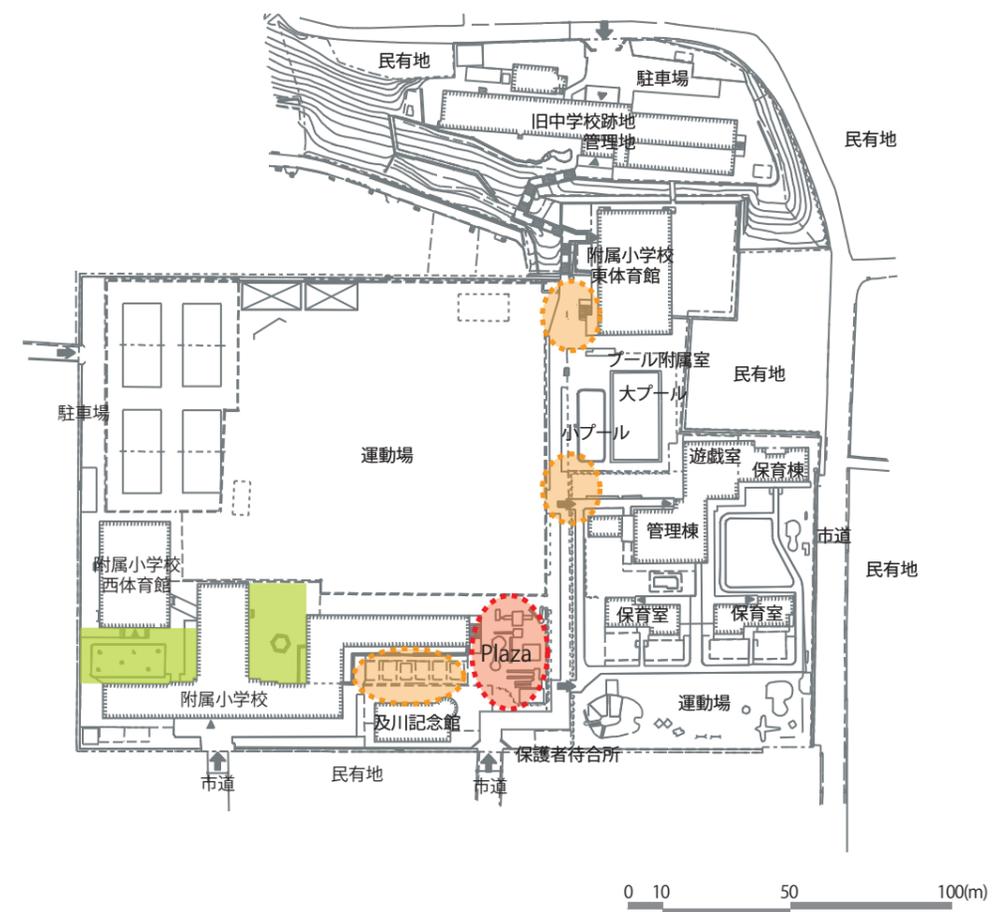
- アカデミックゾーン
- 交流ゾーン
- 地域連携ゾーン
- 運動施設ゾーン



(4) パブリックスペース計画

休憩・リフレッシュに供する場、生徒・児童・先生同士の活発なコミュニケーションを促す場、及び、避難場所等の防災に資する空地として、公共のオープンスペースを適所に配置計画し、整備を検討する。それぞれの空間の特徴や内部空間との関係を考えると同時に、利用者(小学生・幼稚園児・父兄・市民等)の動線や利用内容を計画に反映する。特にエコロジカルな環境を創出する。

- Plaza シンボル空間として、広場(Plaza)を設ける。生徒・児童やキャンパスを訪れた人々にやすらぎと潤いを与える計画とする。整備に当たっては、木々や現存する歴史的な痕跡を残す配慮を行う。
- Park 歩行者路の結節点や入口付近に広場(Park)を設ける。登校・下校の生徒・児童の溜まりの場所となる。緑と賑わいのある交流空間として計画を行う。
- Court 建物の配置により囲まれた結果、生じたこの四角い中庭(Court)は、授業の合間の生徒・児童達のリフレッシュ空間として機能する。ベンチ等のファニチュアなども一体的に計画し、機能的に配置を行う。



4.8つのキャンパスの部門別計画

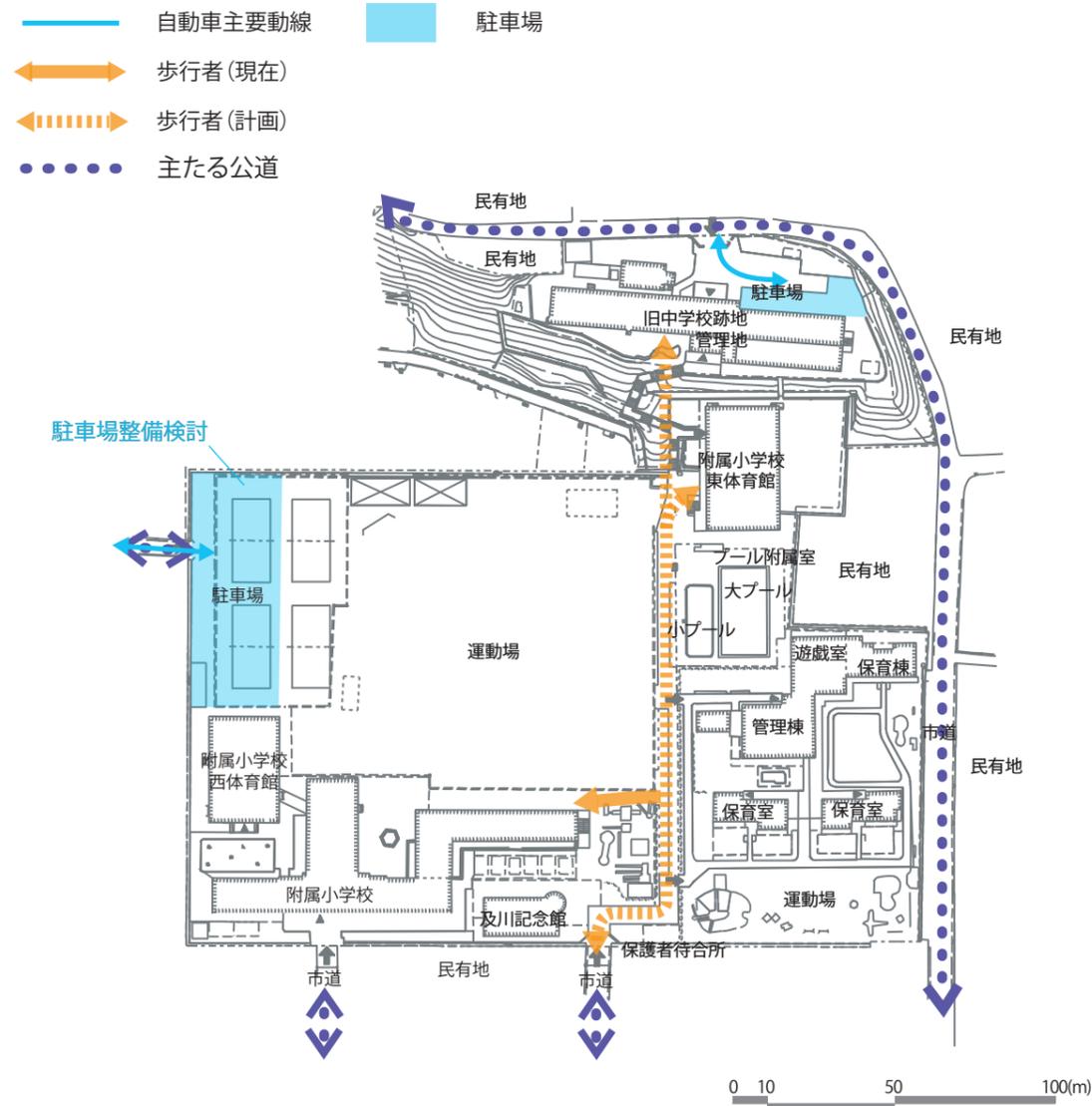
4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-7. 明石キャンパス

(5) キャンパス動線計画

登下校する生徒・児童に配慮し、歩車分離を基本とする安全対策を図る。

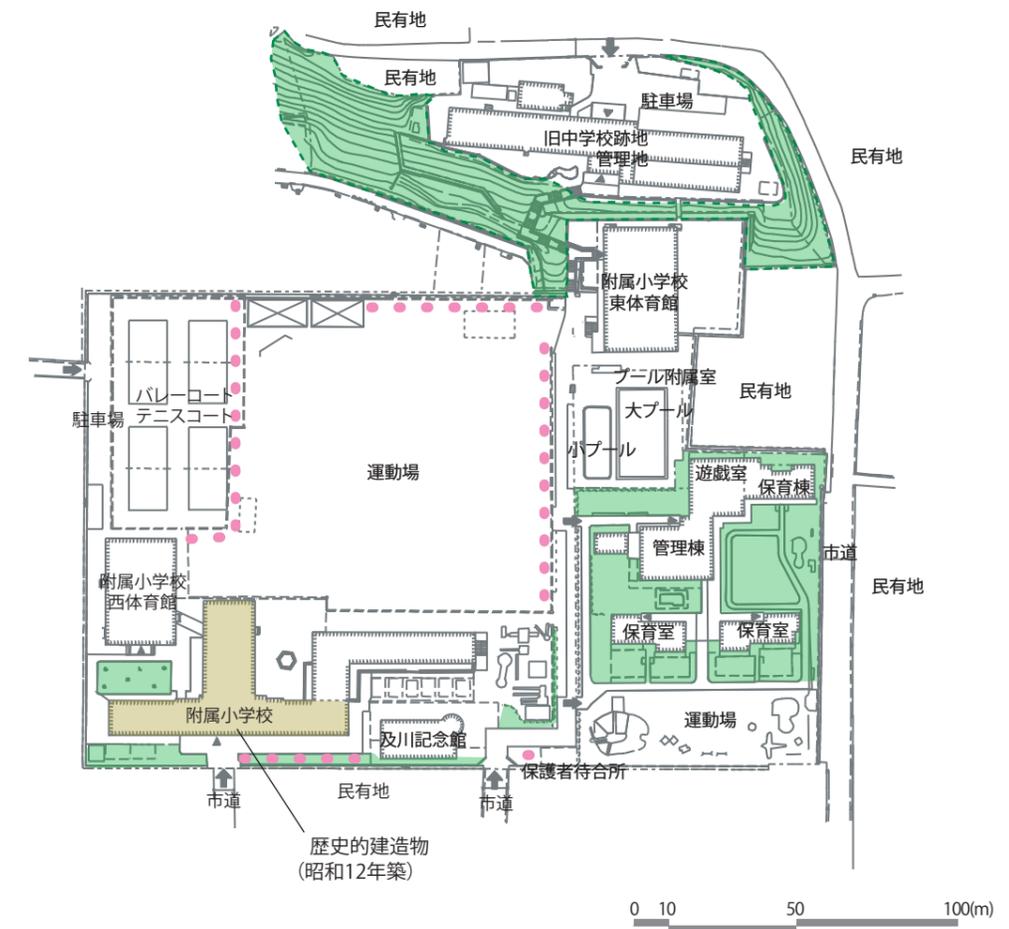
- ・緊急車車輛や工事車輛等をのぞく一般車輛や營業車輛の自動車動線を集約する。
- ・利用停止後のバレーコート・テニスコート跡地を駐車場として整備、集約することで機能的な車輛動線を確保する。
- ・敷地中央の南北方向の通路をキャンパスの主軸となる歩道として、災害時動線としての機能も備えた形へと整備する。



(6) 景観計画(緑地計画とランドスケープデザイン)

敷地周囲の緑地の保全・整備を行う。特に北側の中等教育学校にいたる斜面の緑地はこの地域の重要な景観要素となっており保全が望まれる。敷地周辺及び主な歩行道には、すでに植えられている桜並木を保全しつつ、積極的に桜等の植樹を行い、小学校、幼稚園の母校としての記憶、愛着を生むような魅力的な並木道を計画する。歴史的価値をもつ昭和12年築の校舎を、整備、保存し地域への公開・活用を進める。

- 緑地(保存緑地)
- 緑の資源
- サクラのリング・チェーン



4. 8つのキャンパスの部門別計画

4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-8. 大久保キャンパス

(1) キャンパスの概要

大久保キャンパス(大久保団地)は神戸大学附属特別支援学校が設置されたキャンパスである。

本キャンパスが立地する明石市大久保町大窪はJR大久保駅より北側5kmのところであり周辺は住宅地として開発が進み住宅都市整備公団の団地、石が谷公園等があり自然環境に恵まれた場所である。

近隣には、明石の肢体不自由養護学校、肢体不自由児通園施設、知的障害者授産・更生施設、身体障害者療養施設があり、本校を加えて明石市における障害者福祉ゾーンを形成している。

本団地付近は明石市北部の丘陵地帯で、標高100m程度までの広い丘陵地形を呈する。地層的には明美丘陵南部地域に属し、段丘堆積層及び明石累層が交錯する地域で、本学敷地は、標高70mを完成地盤高として人為的な造成切り盛り土が施されている。

■大久保キャンパス(大久保団地)の概要データ(H27.5現在)

- ・位置:兵庫県明石市大久保町大窪 2 7 5 2 - 4
- ・学部等:附属特別支援学校
- ・敷地面積:16,652㎡
- ・建物延べ面積:3,646㎡
- ・建ぺい率:16.0% 容積率:22.0%
- ・人口:約90人
- ・地域地区等(明石市都市計画他):市街化調整区域



(2) キャンパスの現状と課題・方針

- ・附属学校園の基本理念(社会を創造する知性を持ち、国際感覚にあふれた人材の育成をねらいとした教育を行い、心豊かな人づくりの推進に寄与する)にふさわしい場所として整備・維持保全に努める。
- ・特別支援学校特有の生徒、児童が持つ障害の重症化、重複化、多様化に対応した施設・設備の改善を図る。
- ・来校者全てに優しい、ユニバーサルデザインに基づいた構内通路や設備・サイン整備及び構内交通等の安全対策を推進する。
- ・課外活動施設の在り方について、再確認が必要。



4. 8つのキャンパスの部門別計画

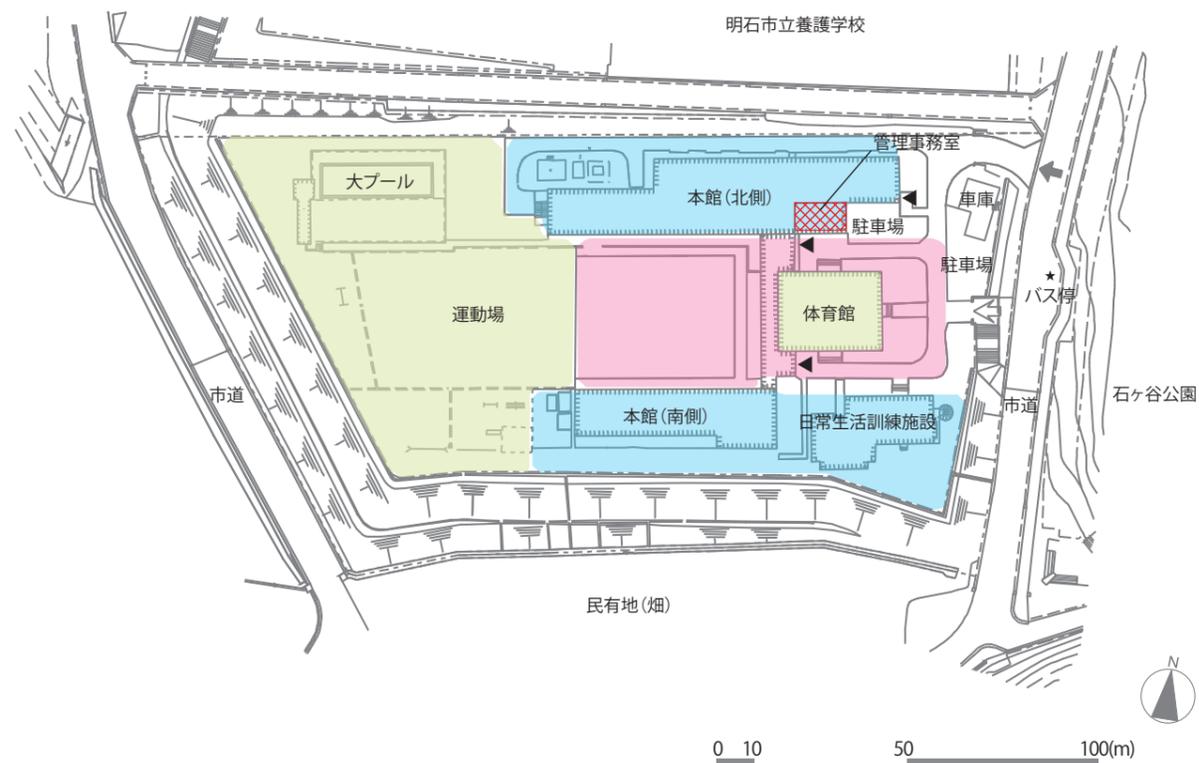
4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-8. 大久保キャンパス

(3) ゾーニング計画

大久保キャンパスは既に機能上まとまったゾーン構成となっている。各ゾーン相互のつながりを強化すると同時に、大久保キャンパスのもっている社会的な意義を考え、地域との関係を密接にするため、必要な機能を付加することが求められる。

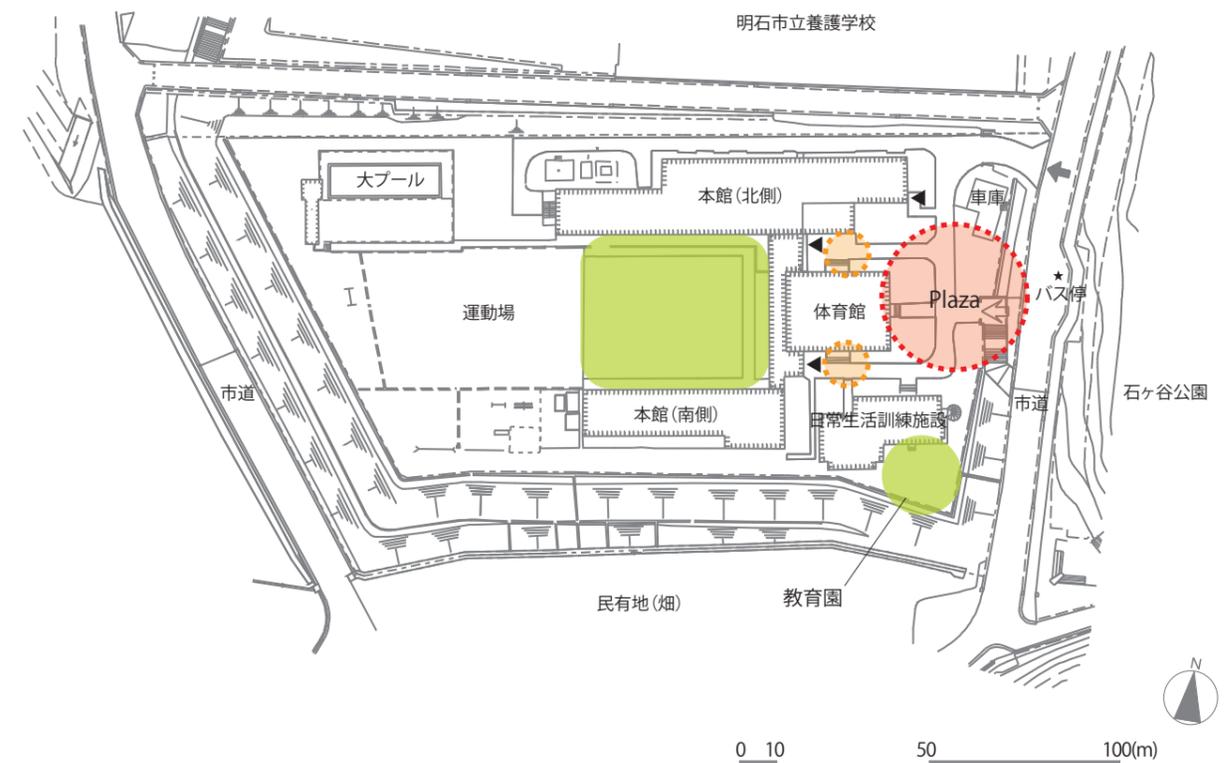
- アカデミックゾーン
- 交流ゾーン
- 運動施設ゾーン
- 管理ゾーン



(4) パブリックスペース計画

休憩・リフレッシュに供する場、生徒・児童・先生同士の活発なコミュニケーションを促す場、及び、避難場所等の防災に資する空地として、公共のオープンスペースを適所に配置計画し、整備を検討する。コミュニケーションの活性化を図るべく、既存の外部空間上で、機能別にオープンスペースを位置付けした上で、舗装、緑化、ファニチャー等を整備し、オープンスペースとしての空間の質の向上を図る。

- Plaza シンボル空間として、広場(Plaza)を設ける。生徒・児童やキャンパスを訪れた人々にやすらぎと潤いを与える計画とする。整備に当たっては、木々や現存する緑のアンジュレーションを生かした計画とする。
- Park 歩行者路の結節点や入口付近に広場(Park)を設ける。登校・下校の生徒児童の溜まりの場所となる。緑と賑わいのある交流空間として計画を行う。
- Court 建物の配置により囲まれた結果、生じたこの四角い中庭(Court)は、授業の合間の学生達のリフレッシュ空間として機能する。ベンチ等のファニチャーなども一体的に計画し、機能的に配置を行う。
- 教育園 地域交流空間として位置づけ、既存教育園を継承・整備を行う。



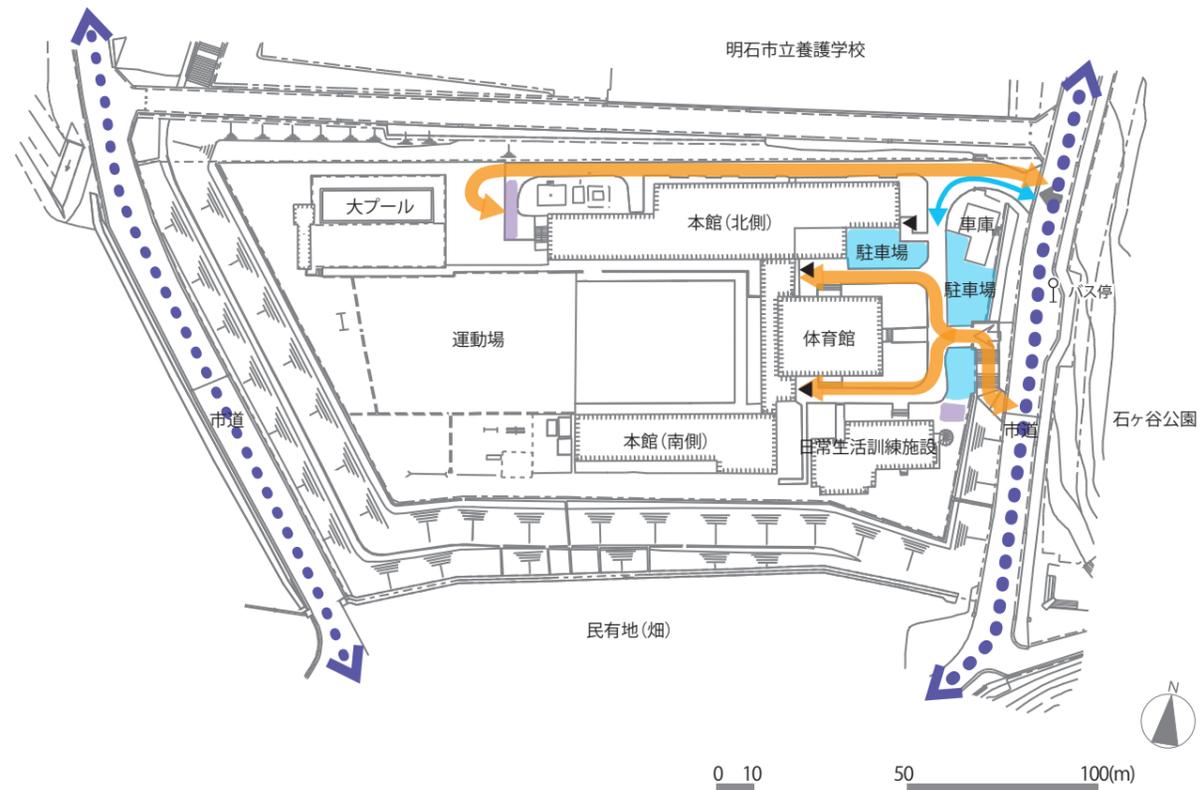
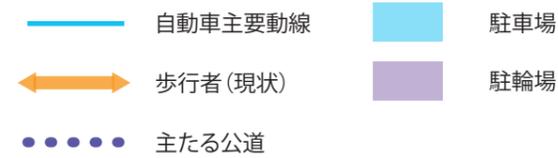
4. 8つのキャンパスの部門別計画

4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-8. 大久保キャンパス

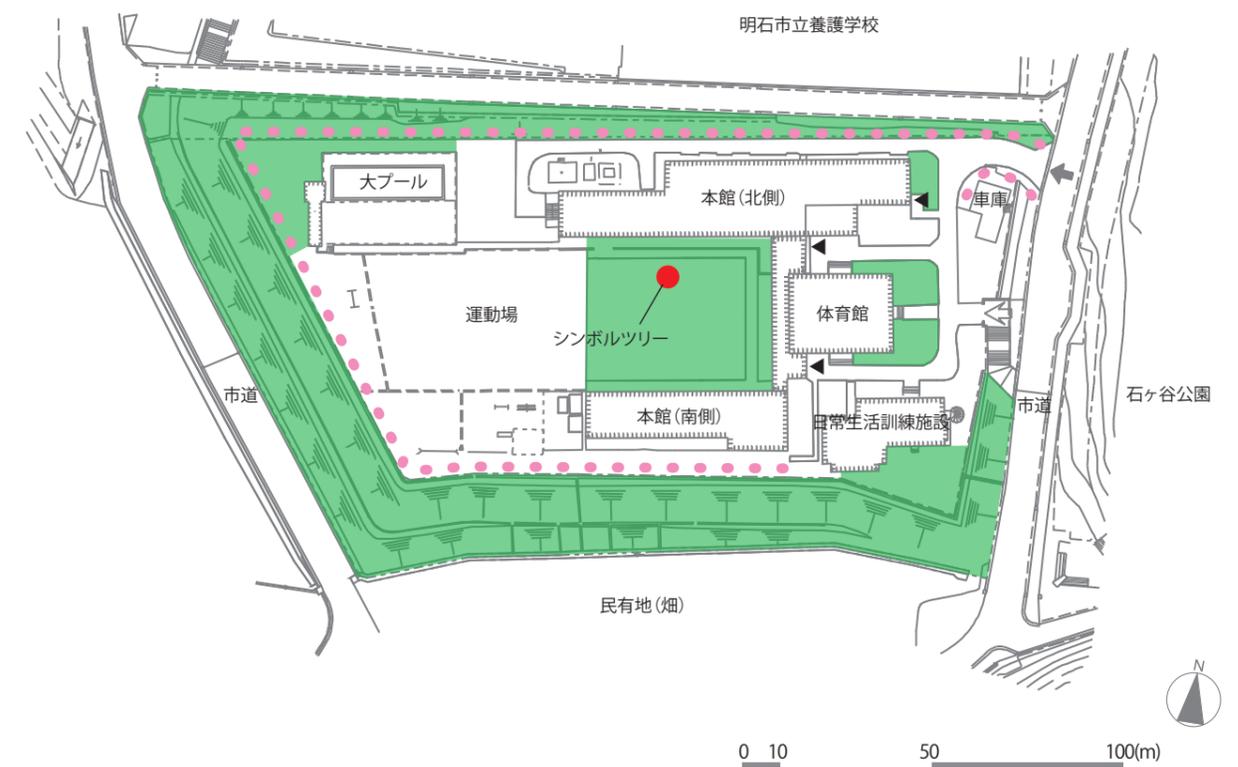
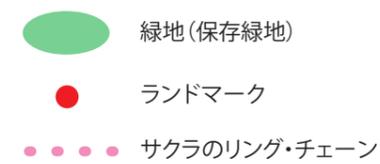
(5) キャンパス動線計画

- ・ユニバーサルデザインによる動線整備を推進する。
- ・歩車分離を図り、生徒、児童、来訪者の安全化を図る。
- ・生徒・児童・外来者にやさしいサインを整備する。



(6) 景観計画(緑地計画とランドスケープデザイン)

- ・敷地周囲の豊かな既存緑地の維持保全に努める。
- ・景観及びエコロジー意識の向上に資する緑化を推進する。
(広場・駐車場・屋上・壁面緑化等)
- ・敷地と施設の配置の特性を生かし、連続した桜の並木による二重の桜のリングを形成する。
- ・明石の土地に根ざした、日本古来の樹木を植えます。
(モモ、クリ、カキ、グミ等)



4. 8つのキャンパスの部門別計画

4-3. 部門別計画 (キャンパス共通)

(1) エコキャンパス計画

大学キャンパスは、数百から数万人もの学生や教職員が集う、教育・研究等の様々な活動の場であるため、それに伴う膨大なエネルギー消費があり、その結果生じる大きな環境負荷に対して自力で対処する責務がある。そのためにはCO2削減方針やマネジメント方針など学内で共有する必要がある。

神戸大学は、独自の環境憲章にも謳われている通り、教育研究拠点として大学における全ての活動を通じて地球環境の保全と持続可能な社会の創造に取り組んでいるところである。その活動の場となるキャンパスにおいてもこれに寄与すべく、環境への配慮が求められている。

神戸大学のキャンパスには、環境向上につながる資源として、敷地周辺に豊富な自然環境がある。海と山に囲まれたキャンパスには常に心地よい風が吹きぬけ、南向きの斜面は太陽光を建物に取り込みやすく、豊富な自然林は熱したキャンパスを冷ますと同時に、排出した二酸化炭素を吸収する。

今後、エコキャンパスにつながる整備方針としては、これらの自然エネルギーをパッシブな手法を用いてキャンパスに取り込み、環境負荷の軽減に役立てる。同時に、景観にも大きく寄与するこれらの自然環境を建物の屋上緑化・壁面緑化、斜面緑化、ビオトープの整備等により有機的に繋いでいくことで、キャンパス内に心地よい持続的なエコロジー空間を生み出し、キャンパス利用者の環境に対する意識の向上に繋げる。



エコキャンパス化のイメージ

4.8 つのキャンパスの部門別計画

4-3. 部門別計画 (キャンパス共通)

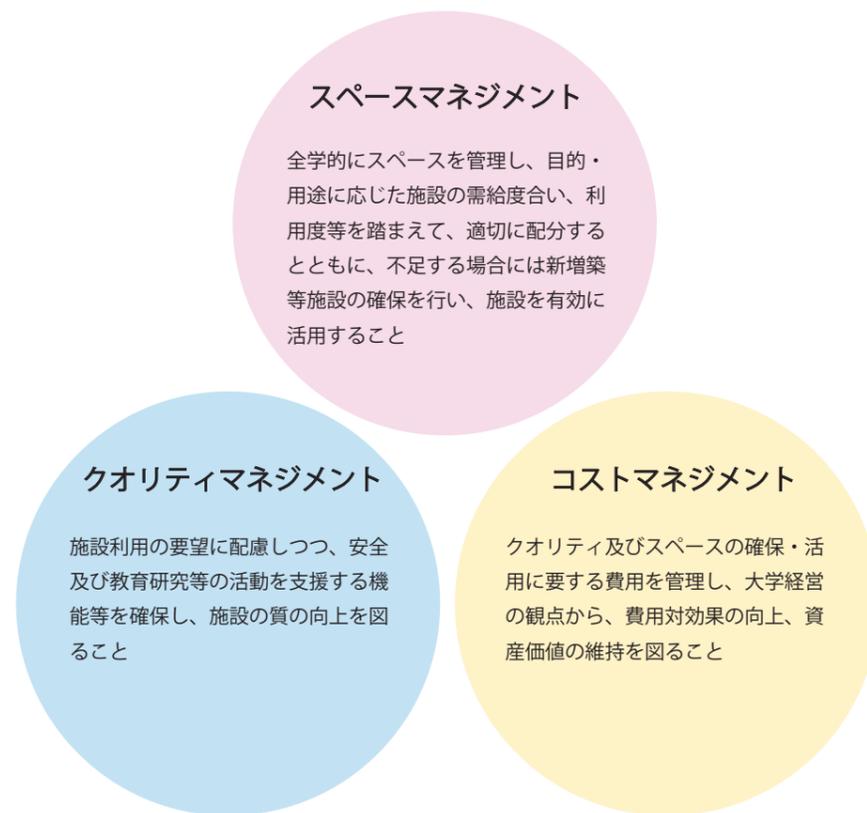
(2) スペース有効利用計画

大学にとって、知の拠点として人材を育成し、国際競争力のある学術研究を行う上で、これらの諸活動の基盤となる教育研究環境の充実は不可欠である。

このためには、大学施設の維持管理・運営において、経営的視点を踏まえて施設を整備するとともに、所有する既存施設を管理し、有効活用を図る必要がある。その場合、施設マネジメントをトップマネジメントの一環として位置付け、全学的かつ長期的な視点に立った施設マネジメントを推進する必要がある。

● 施設マネジメントに取り組む上での基本的な3つの視点

- ・大学の施設マネジメントにおいては、施設の質の管理（クオリティマネジメント）、施設の運用管理（スペースマネジメント）、施設にかかるコスト管理（コストマネジメント）という3つの視点から具体的な目標を立て、これらについて調和を図りつつ、推進することが重要である。



スペースマネジメント

全学的にスペースを管理し、目的・用途に応じた施設の需給度合い、利用度等を踏まえて、適切に配分するとともに、不足する場合には新増築等施設の確保を行い、施設を有効に活用すること

クオリティマネジメント

施設利用の要望に配慮しつつ、安全及び教育研究等の活動を支援する機能等を確保し、施設の質の向上を図ること

コストマネジメント

クオリティ及びスペースの確保・活用に要する費用を管理し、大学経営の観点から、費用対効果の向上、資産価値の維持を図ること

● スペースマネジメントによる弾力的・流動的スペースの創出

- ・大学の教育研究の進展に柔軟かつ機動的に対応するためには、施設の有効活用が不可欠である。このため、学内においてスペースの使用状況を把握するとともに、教育研究の変化に対し弾力的にスペース配分を行う明確なルールの見直しが必要である。
- ・従来の学科や講座単位での管理運営の手法では、スペースの硬直化や同機能のスペースの重複による非効率な施設利用の問題がある。既存施設の有効活用を図る観点から施設利用の見直し、スペースの再配分を行い、利用率の低いスペースの集約を図る必要がある。
- ・教育・研究のためのスペースは、固定的に利用を限定するのではなく、時間や期間を限定した弾力的・流動的利用を推進していく。
- ・斜面地に展開するキャンパスの特性を活かしたスキマスペース、アキスペースなどを弾力的に利用することを考える。

● 施設の使用状況等のデータの一元的管理システムの導入

- ・スペースマネジメントを効果的かつ効率的に行う上で、各建物の用途毎の面積と稼働状況、備品等や施設に係るコストについて、一元的に定期的に（年1回ぐらい）整理できる情報管理システムの構築をめざす。
- ・教育・学習スペースや課外活動スペースの広さ、機能及び使用状況等を速やかに施設利用者に提供し、利用予約が可能な情報システムを構築することを検討する。

● 施設のレンタル制とスペースチャージの導入

- ・施設のレンタル制とスペースチャージを導入し、スペースの流動化を図り、施設の有効利用に対するユーザー意識の改革を促進する。
- ・学科や講座が占有する講義室等を全学共通化することにより稼働率を上げ、プロジェクト研究スペース等の確保を新たに行う。
- ・スペースチャージによる資金を適切な教育研究活動を保持していくための維持管理費用として使用し、一層の施設の充実を図る。

● 大学施設における学外利用の推進

- ・ホールやギャラリー、講義室等について、休日や利用のない時間帯に限り、学外の個人や団体への貸し出しを推進する。
- ・学外利用により発生した資金について、適切な教育研究活動を保持していくための維持管理費用として使用し、一層の施設の充実を図る。

取り組むべき課題

5

5. 取組むべき課題について

神戸大学らしさが光る魅力的なキャンパス創りをすすめていくためには、新たな課題に学生・教職員が一丸となり取組んでいく必要がある。

5-1. 取組むべき課題について

(1) キャンパス整備の新たな仕組づくりに向けて

○既存スペースの有効活用

これまでの「面積獲得」を基本にした施設整備のあり方を見直し、面積を含めた建築ボリュームの適正化、点検を含めた保全の体制を築くための新たなスキームを整備することも求められる。また、増加する一方である老朽施設の活用方法と改修プログラムを検討することが必要である。「施設は借りもの」という認識をもち、スペースチャージ、施設のレンタル制度の導入も検討もすすめる。また、不用備品、書籍等は貴重なスペースを占有し、所有者・責任所在が不明になることも多く、捨てるべきもの、遺すべきものの評価、選別の点検方法やリユースも含め、その保存活用の手法をデッドスペースの活用と併せて検討をすすめる。

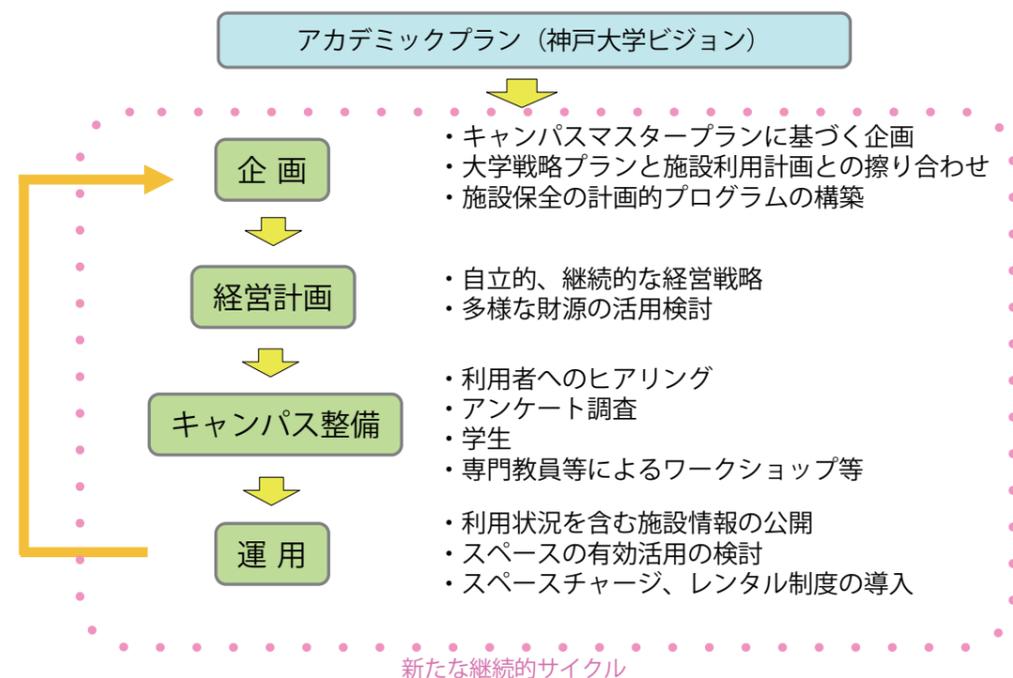
○全員参加の体制づくり

大学キャンパスは学生、教職員が日常的に利用する場所であるとともに地域住民等にも開放している。このため、「すべての人のためのキャンパス」という認識のもと、関係者全てが参画できるキャンパス創りの整備体制が必要である。

最良のアクションプランを導き出すためには、本部、部局等、及び施設利用者それぞれが連携できる仕組みを検討する。また、今後の新たな体制として、建築・環境系の専門教員等にも参画頂き、学術的な視点と学生・地域住民等の視点によるプラン創りの体制についても検討をすすめる。

○新たなマネジメント体制の構築

戦略的なキャンパス整備を図るべく、新たなマネジメント体制や計画スキームの検討に取組む必要がある。



(2) 景観を生かしたキャンパス創りに向けて

神戸大学のキャンパスは、山や海といった自然あふれる敷地環境と、歴史や風土に培われた独特な意匠要素に恵まれていることを認識し、これらの貴重なキャンパス資源を活用すべく、新たな指針・計画の検討に取組む必要がある。

○デザインガイドラインの検討

卒業生の思い出につながる、記憶を継承するキャンパスを創っていくには、キャンパスの個性を形成するデザイン要素について考察を深めていかなければならない。よいものについては残すべき資源として評価し、これらを保存しながら新たなデザインの息吹をもたらすための指針として、神戸大学独自のデザインガイドラインが必要である。なお、作成にあたっては周辺地域との調和および統一のとれた景観への留意が求められる。

○ユニバーサルデザインの推進

利用者にとってやさしいキャンパスを創るにあたって、全ての利用者に配慮した施設や設備の計画をすすめるなど、景観に配慮したキャンパスのユニバーサルデザイン化をすすめていく必要がある。

■サイン計画の検討

キャンパス内では利用者や訪問者が建物位置等を把握するのに困難を要する。これらの人たちがキャンパス内で迷わないための手段として統一的なサイン計画が必要である。計画にあたっては、サインは景観に溶け込むデザインとし、表示についても留学生等に配慮するとともに、建物とランドマーク等を併せて表示することで位置情報をわかりやすくすることが望ましい。

■新たなキャンパス交通計画

広大なキャンパスは、利用者が建物間を移動するために多大な体力と時間を消耗する他、自動車等の無秩序な駐車・放置によりキャンパスの美観を損なうといった問題を抱えている。

これらの問題を解消すべく、適正な規模のまとまった駐車スペースを確保するとともに、キャンパス内のスクールバスの検討等、自動車通勤の自粛を促すような運用面での検討が必要である。また、高低差の移動にあたっては、エレベーターや空中歩廊等により快適なアクセス経路を整備することなどが求められる。

○エコキャンパス化への取組み

エコキャンパス化をすすめるためにキャンパスの緑化は大変重要である。緑化を推進するためには、敷地の緑化や建物の屋上・壁面等の緑化等のハード面の計画と併せて、継続的な維持管理を含め、学生・教職員のソフト面での取組みが必要不可欠となる。取組みとしては、環境に関する講座の中で学生による緑化活動を取り入れる等、インセンティブを付加した仕組づくりも必要とされる。

(3) 地域社会とつながるキャンパス創りに向けて

○地域住民のための施設計画

キャンパスの質を高めるにあたって、地域住民にも利用しやすいキャンパスづくりをすすめることが大切である。レストランやカフェ等の憩いの場、大学グッズの販売ショップなど、地域住民も利用しやすい施設計画を進めるとともに、公開講座等の開催の場として歴史的建造物等、既存建築物の活用もすすめていく必要がある。

○自治体とのコラボレーション

神戸大学は文教地区や病院地区として都市機能の一部を担うとともに、地域連携講座などの市民を対象とした公開講座を数多く開催している。

まちに溶け込む魅力的なキャンパスづくりのためには、自治体となる兵庫県、神戸市等と連携し、まちの活性化に貢献する様々な施策に積極的に取組んでいくことが必要である。

5. 取り組むべき課題について

5-2. 取り組むべき課題の解決に向けて

(1) スペースの有効活用の推進と具体的な施設マネジメント体制について

○スペースの有効活用をさらに推進させるために

【目的】

『神戸大学における施設の有効活用に関する取扱い要項』に基づき、神戸大学において教育研究内容の新たな展開等により生じる施設需要、既存の組織の枠組みを越えた弾力的かつ流動的な教育研究活動への対応するにあたり、必要な教育研究スペースを確保し、施設の効率的重点的利用と有効な施設運営を図ることを目的とする。

【メンバー構成】

施設マネジメント委員会専門委員会委員
施設部職員
その他施設マネジメント委員会委員長が必要と認めた者

【現地調査対象キャンパス】

主要キャンパス及びポートアイランドキャンパス（ただし、附属病院、学生宿舎、職員宿舎は除く）

- ①六甲台キャンパス（六甲台1団地、六甲台2団地、鶴甲1団地、鶴甲2団地）
- ②楠キャンパス、③名谷キャンパス、④深江キャンパス
- ⑤住吉キャンパス、⑥明石キャンパス、⑦大久保キャンパス
- ⑧ポートアイランドキャンパス（ポートアイランド2団地、ポートアイランド3団地）

【現地調査対象建物】

WGが定めた調査票を各部署の室の責任者が作成。＜全ての施設が調査対象＞
提出された調査票、現地調査について室の責任者にヒヤリングを実施。
未使用室等についてはさらに追跡調査を行う。（使用頻度等の確認）



＜再配分するためのシステム構築＞検討

○キャンパス検討WG

【メンバー構成】

（施設部）施設部長、施設部各課長

（各キャンパス）※メンバーについては要相談

六甲台キャンパス

（六甲台1） 各研究科長、研究所長、各副研究科長、各事務長

（六甲台2） 各研究科長、研究環長、各副研究科長、副研究環長、事務部長、各事務長

（鶴甲1・2） 各研究科長、各副研究科長、各事務長

楠キャンパス 研究科長、病院長、各副研究科長、副病院長、事務部長、施設管理課長

深江キャンパス 研究科長、各副研究科長、事務長

名谷キャンパス 研究科長、各副研究科長、事務長

附属学校キャンパス 附属学校部長、各校園長、各副校園長、事務長

※各研究科長にはセンター長等の部局長を含む



●中期目標期間毎に

7つのキャンパス将来計画の成長【委員会審議】



●ただし、喫緊の課題等が発生すれば都度検討

キャンパスのさらなる成長【委員会審議】

●また、主要キャンパス以外での整備が必要な場合

新たな計画作成【委員会審議】

※将来計画等で建物整備等する場合は予算についても検討
国への概算要求・長期借入金・寄付金・学内費等

資料

6

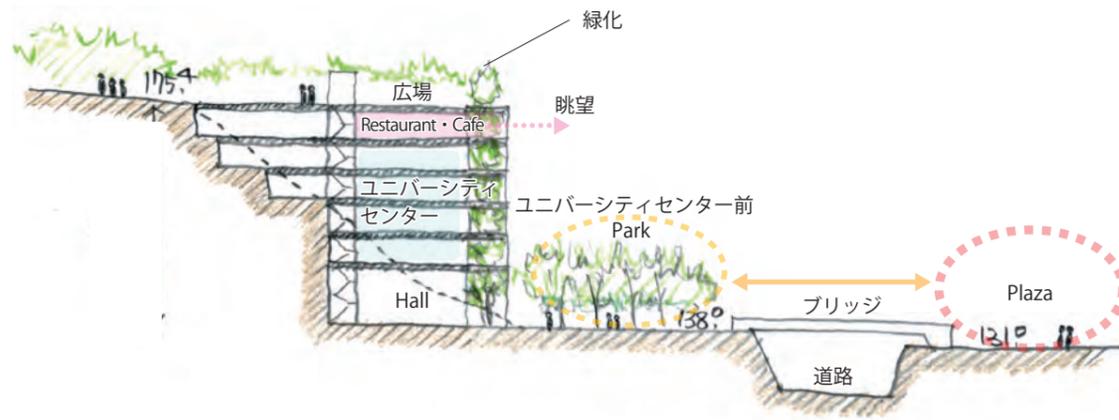
6. 資料

6-1. 斜面地活用のケーススタディ

斜面地を有するキャンパスにて“TSUNAGU”を実現すべく、その活用手法についてケーススタディーを行う。

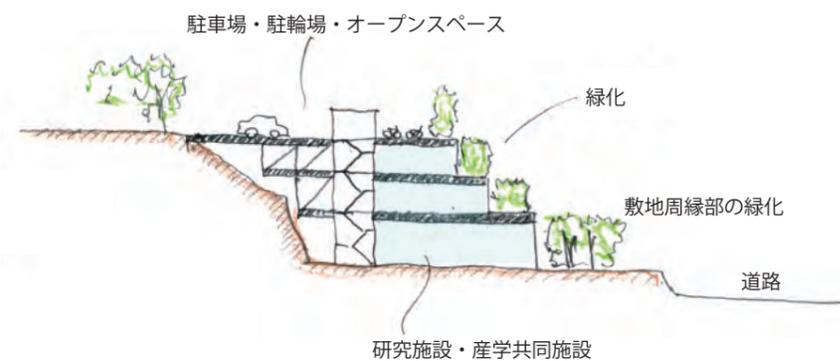
● CASE1

各団地の接続の要衝として、各キャンパス間の移動動線のバリアフリー化に資する整備を行うと共に、シンボリック施設（ユニバーシティセンター）として課外活動等の学生生活をサポートする施設の計画を行う。



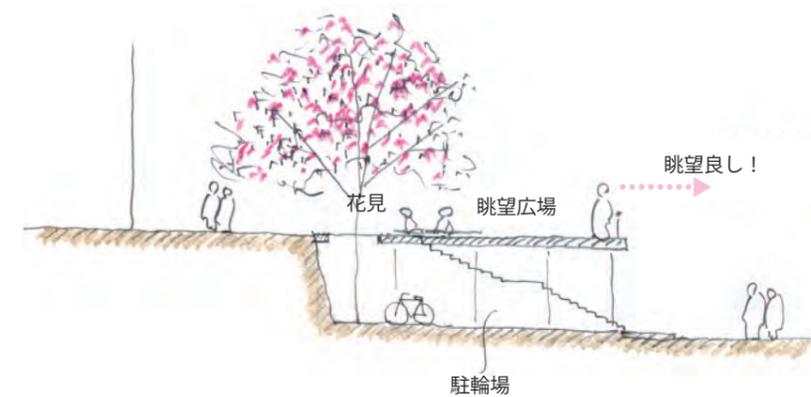
● CASE2

斜面地を利用した建物構成を計画し、上層は駐車場・駐輪場やオープンスペースとして利用する。下層は研究施設・産学共同施設として利用できる施設を計画する。



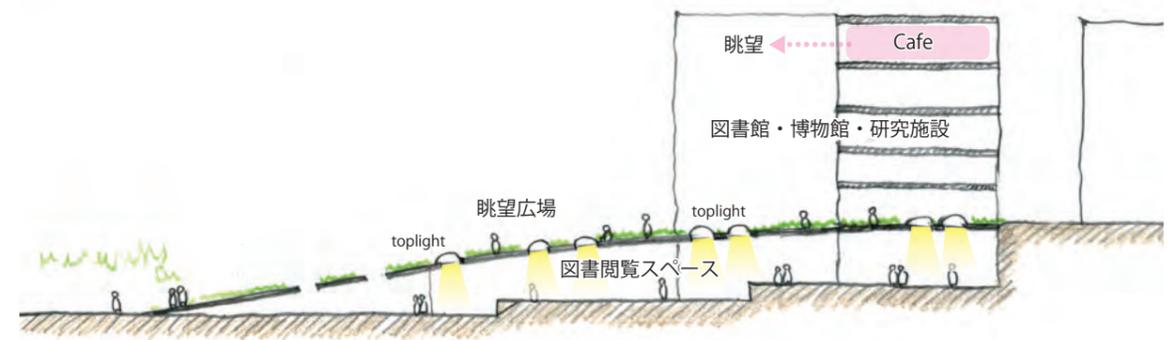
● CASE3

既存の大きな木々を活かし、上層は広場として、下階は駐輪場として利用する。南側の眺望確保にあたってはアイレベルを確保するため、眺望を遮る建物への働きかけが必要となる。



● CASE4

メディアセンターとなる施設と共に、傾斜した人工地盤による“緑の丘”を設け、その下部に地域住民も利用可能な図書閲覧スペース等を設ける。



6. 資料

6-2. 遺すべき景観とデザイン

A キャンパスを取り囲む山と海の景観



■【六甲台】正門階段上より神戸市街地を眺める



■【六甲台】アカデミア館より六甲台本館を眺める



■【六甲台】学生会館より鶴甲1団地と六甲の山並みを眺める



■【六甲台】本部管理棟より神戸の街並みを眺める

6. 資料

6-2. 遺すべき景観とデザイン

B キャンパス内の優れた建築物



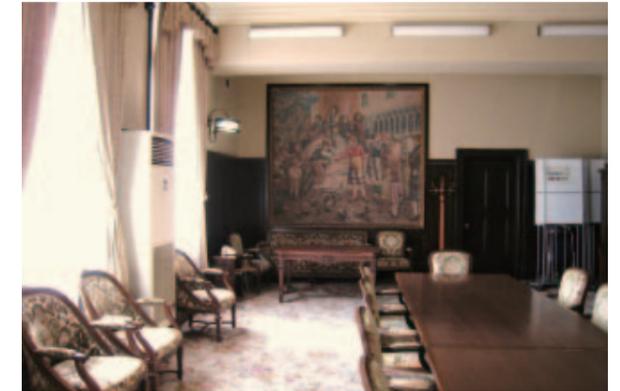
■【六甲台】本館



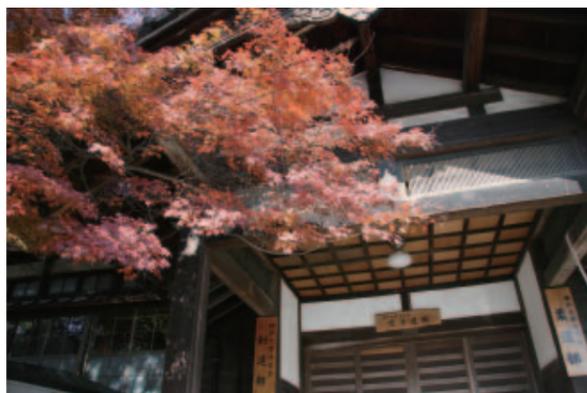
■【六甲台】六甲台講堂



■【六甲台】本館 エントランスホール



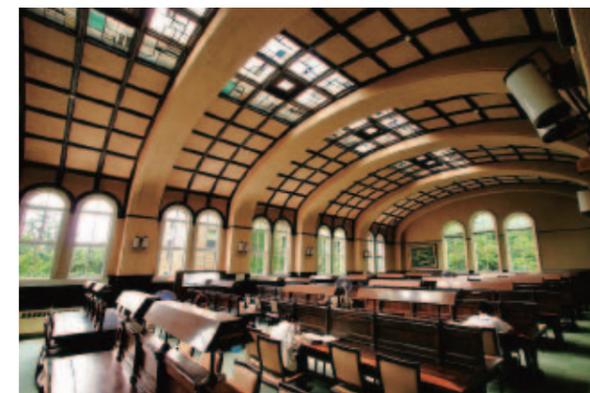
■【六甲台】本館 貴賓室



■【六甲台】武道場



■【六甲台】神大会館



■【六甲台】社会科学系図書館 大閲覧室



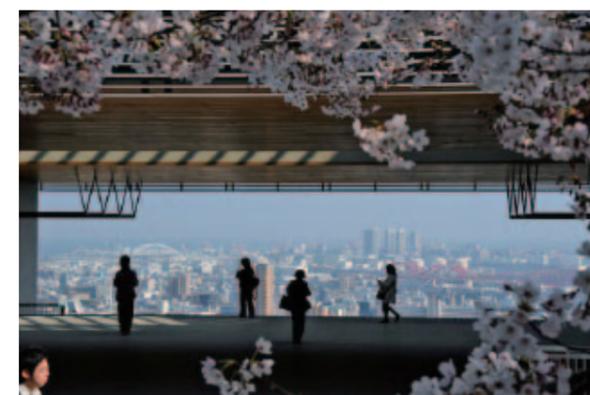
■【六甲台】神大会館 六甲ホール



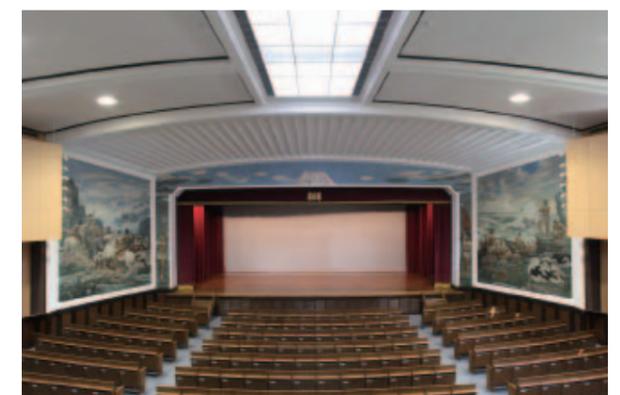
■【六甲台】アカデミア館



■【六甲台】山口誓子記念館



■【六甲台】神大会館 プラットホーム



■【六甲台】六甲台講堂聴衆室

策定方針+コンセプト
8つのキャンパスの将来計画
10部門別計画
8つのキャンパスの将来計画
資料

策定方針+コンセプト
8つのキャンパスの将来計画
10部門別計画
8つのキャンパスの将来計画
資料

6. 資料

6-2. 遺すべき景観とデザイン

C キャンパス内の優れた公共空間（街路及びオープンスペース）



■【六甲台】自然科学総合研究棟3号館南



■【六甲台】人間発達環境学研究所本館前



■【六甲台】自然科学総合研究棟3号館前



■【深江】繋船池と実習船



■【六甲台】文学部本館前



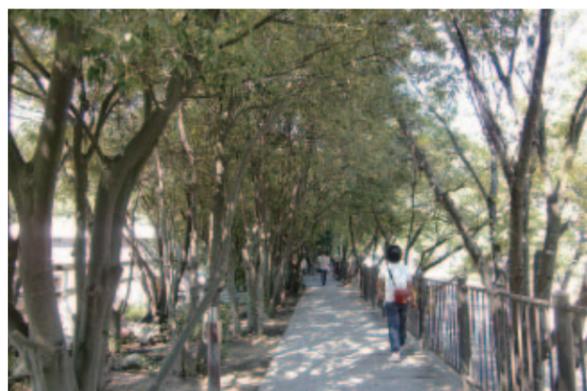
■【六甲台】工学部本館前



■【名谷】本館南



■【住吉】教室棟中庭



■【六甲台】ウリボーロード



■【六甲台】神大会館前



■【名谷】研究実習棟前



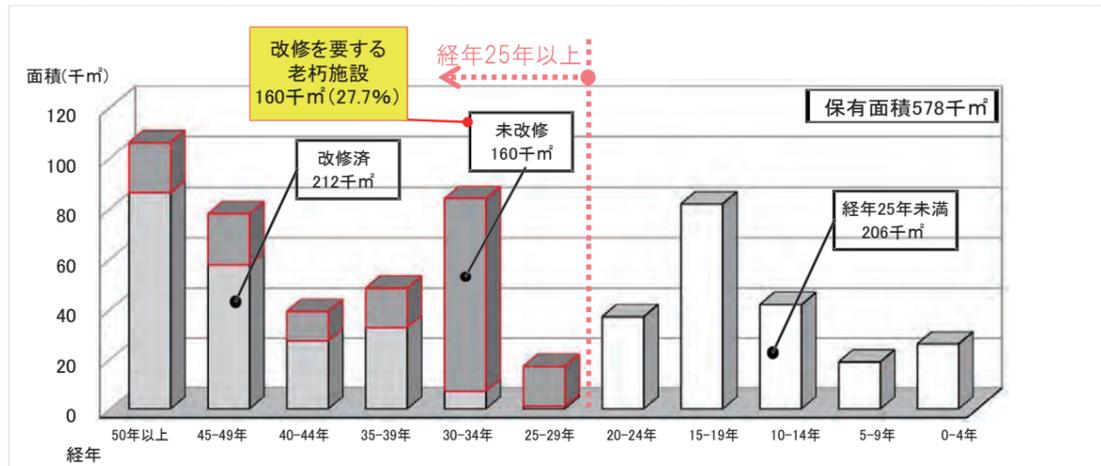
■【六甲台】文学部新館前

6. 資料

6-3. その他

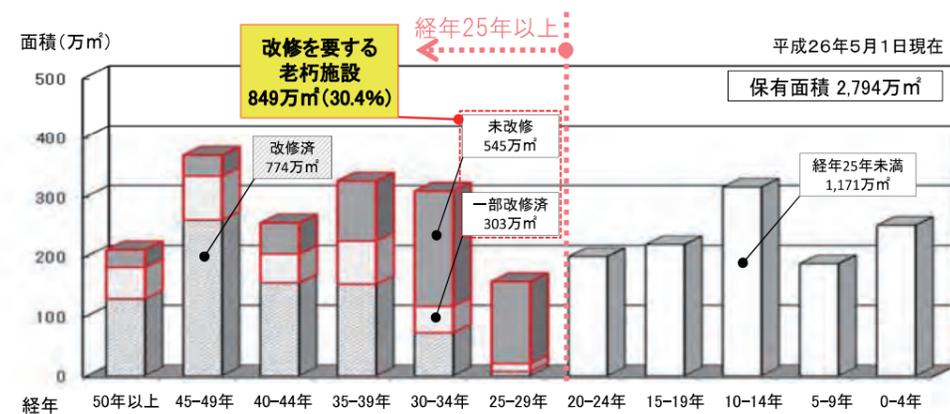
神戸大学の施設の老朽化状況

- 神戸大学の全保有面積は約578千㎡。
- 経年25年以上の老朽施設は約372千㎡（全保有面積の64.5%）



経過年数	大規模改修済面積 (㎡)	未改修面積 (㎡)	合計面積 (㎡)	全保有面積に対する割合
50年以上	86,225	19,796	106,021	18.3%
45-49年	57,547	20,251	77,798	13.5%
40-44年	27,272	11,804	39,076	6.8%
35-39年	32,694	15,660	48,354	8.4%
30-34年	7,217	76,614	83,831	14.5%
25-29年	1,140	16,005	17,145	3.0%
20-24年	0	37,063	37,063	6.4%
15-19年	0	81,763	81,763	14.1%
10-14年	0	41,833	41,833	7.2%
5-9年	0	18,892	18,892	3.3%
0-4年	0	26,101	26,101	4.5%
合計	212,095	365,782	577,877	100.0%
経年25年以上			372,225	64.4%

(参考) 国立大学法人等の施設の老朽化状況



出典：平成26年度国立大学法人等施設の実態に関する報告を基に作成(文部科学省)
 ※次期国立大学法人等施設整備5ヵ年計画策定に向けた中間報告(平成27年8月)より抜粋

神戸大学の維持管理費等

平成26年度実績

【維持管理費】

■教育研究施設等 (円/㎡)			■附属病院 (円/㎡)		
項目	神戸大学	国立大学等実績	項目	神戸大学	国立大学等実績
修繕費	958	1,275	修繕費	4,660	2,070
点検保守費	366	403	点検保守費	1,688	1,513
運転監視費	164	127	運転監視費	1,598	897
廃棄物処分費	150	166	廃棄物処分費	602	568
緑地管理費	67	73	緑地管理費	19	30
校地維持費	4	61	校地維持費	0	82
清掃費	260	193	清掃費	1,440	1,412
警備費	190	199	警備費	434	419
電話交換業務	1	7	電話交換業務	104	43
合計	2,160	2,504	合計	10,545	7,034

【光熱費】

■教育研究施設等 (円/㎡)			■附属病院 (円/㎡)		
項目	神戸大学	国立大学等実績	項目	神戸大学	国立大学等実績
電気料	1,692	1,771	電気料	5,561	3,668
ガス料	406	378	ガス料	2,821	2,254
水道料	207	262	水道料	837	956
燃料費	6	88	燃料費	0	641
合計	2,311	2,499	合計	9,219	7,519

注記

- 維持管理費：修繕費、点検保守費、運転監視費、廃棄物処分費、緑地管理費、校地維持費、清掃費、警備費及び電話交換業務に係る経費の合計。
- 光熱水費：電気料、ガス料、水道料及び燃料に係る費用、なお、光熱水費には空調、照明のほか、実験装置や事務機器等にかかる費用も含む。
- 国立大学等実績は文部科学省調査による。
 (次期国立大学法人等施設整備5ヵ年計画策定に向けた中間報告(平成27年8月)より抜粋)



神戸大学キャンパスマスタープラン

平成25年3月 策定 役員会承認

平成28年6月 改訂 役員会承認

平成29年3月 改訂 役員会承認

平成30年3月 改訂 役員会承認

〈企画・編集〉

キャンパスマスタープラン検討ワーキンググループ

〈お問い合わせ〉

神戸大学施設部施設企画課

TEL 078-803-5173

FAX 078-803-5099